

令和7年度研究紀要 第62号

TOKKATSU

自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動



東京都小学校特別活動研究会

東京都小学校特別活動研究会
令和7年度
研究紀要第62号

目次

○ 目次	1
○ これまでの研究集録・研究紀要一覧	2
○ 会長挨拶	3
○ 研究の基調	4
○ 研究の構想	5
○ 令和7年度研究発表大会要項	6
○ 都小特活ホームページ紹介	8
○ 各活動部の研究活動	
I 学級活動	9
II 児童会活動	25
III クラブ活動	41
IV 学校行事	57
○ 本年度の研究の成果と今後の課題	73
○ 東京都小学校特別活動研究会会則	74
○ 顧問・役員・本部幹事・理事・副理事名簿	76
○ あとがき	79

これまでの研究集録・研究紀要一覧

第 1 号	(昭和 39 年度)	特別教育活動における指導計画作成上の諸問題
第 2 号	(昭和 40 年度)	特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方
第 3 号	(昭和 41 年度)	特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画
第 4～5 号	(昭和 42～43 年度)	望ましい指導計画による実践事例とその考察
第 6～7 号	(昭和 44～45 年度)	改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点
第 8 号	(昭和 46 年度)	新教育課程実践上の諸問題
第 9 号	(昭和 47 年度)	教育課程実践上の諸問題
第 10 号	(昭和 48 年度)	特別活動と他領域との関連
第 11～13 号	(昭和 49～51 年度)	ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
第 14～16 号	(昭和 52～54 年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
第 17～19 号	(昭和 55～57 年度)	豊かな人間を育てる特別活動
第 20～21 号	(昭和 58～59 年度)	特別活動の特質をふまえ豊かな人間性の育成
第 22～23 号	(昭和 60～61 年度)	実践力を育てる集団活動のあり方
第 24～26 号	(昭和 62～平成元年度)	個が生きる集団活動の育成
第 27～28 号	(平成 2～3 年度)	望ましい人間関係を育てる特別活動の計画と実践
第 29～31 号	(平成 4～6 年度)	特別活動における新しい学力観と評価
第 32～34 号	(平成 7～9 年度)	学校週 5 日制と新しい特別活動の創造
第 35～37 号	(平成 10～12 年度)	生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造
第 38～40 号	(平成 13～15 年度)	豊かな学校生活を創造する特別活動
第 41～43 号	(平成 16～18 年度)	子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動
第 44～46 号	(平成 19～21 年度)	自立を促す望ましい集団活動の創造
第 47～49 号	(平成 22～24 年度)	特別活動で育つ子供たちの力
第 50～52 号	(平成 25～27 年度)	よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方
第 53～55 号	(平成 28～30 年度)	自己の有用感を高める望ましい集団活動
第 56 号	(令和元年度)	集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動
第 57～60 号	(令和 2～5 年度)	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動
第 61～62 号	(令和 6～7 年度)	自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動

あ い さ つ



東京都小学校特別活動研究会会長

練馬区立豊玉小学校長 氣田 眞由美

次期学習指導要領の基本的な考え方に「自ら人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手の育成」が示されました。自らの人生を舵取りする力は、単なる知識や学力の獲得にとどまらず、他者との関係性を踏まえながら形成されるものであると思います。そして、日常の教育活動や話合いの中で意見の相違や葛藤が生じた際に、それを対話によって解決する経験は民主的意思決定の基礎を身に付ける上で不可欠です。その経験が民主的な社会の創り手を育成することにつながっていくと考えます。

また、「特別活動を中心とした主体的な社会参画に関わる教育の改善」が論点整理に示されました。特別活動における「人間関係形成・社会参画・自己実現」の3つの視点から児童生徒が集団や社会の形成者として自ら課題を見付け、解決策を考え実行する力を育むことが重要視されています。これらのことを踏まえ、改めて特別活動の意義や役割等を考えていくことが大切であると思います。

さて、本研究主題での研究2年目の今年度は、汎化を意識した研究を進めてまいりました。これまで以上に、特別活動の各活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動）及び学校行事の4つの目標や内容を関連させた研究を検証授業及び研究協議会等を通して深めてきました。また、特別活動におけるICTの有効な活用方法についても追求してきたところです。

各活動と学校行事をもって特別活動ですので、そこに関連性があることは当然のことですが、これまではそのことをあまり意識せずに各活動ごとに研究を進めてきたところがあります。今年度は、お互いの授業研究会に積極的に参加したり、関係性やつながり等を協議会の話題にしたりなどして意識の向上を図ることができました。また、デジタルの時代をあたり前に生きる子どもたちの社会を見据え、特別活動におけるICTの活用等についても知恵を出し合い実践いたしました。教科等がそうであるように、特別活動においてもそれらを活用した学びは必須です。

特別活動は教科書がないということもあり、学校や学級、教員の指導の差が出やすいという面がみられるのが現状です。また、数値で見える学力とは違った側面があり、結果として、子どもたちの育った力が分かりにくいというところがあります。そのため、なかなか特別活動の価値が広がっていかず、その実践が積み上がっていきにくいということが課題としてあります。

しかしながら、最近、特別活動を校内研で取り組む学校や特別活動を学びたいという教員が増えてきているということを耳にいたしますし、実際に私も実感しております。それは、教員の地道な実践によって、子どもたちの姿が変わることにより、手応えを実感し「やる意味や目的が見える時間」になってきているからではないでしょうか。特別活動を大切に思う仲間の一人として大変嬉しく思います。

だからこそ、改めて本会として、教育課程にしっかりと位置付けられている特別活動の意義を再認識し、その目的の実現のために、本研究会としての使命を果たせるよう更に一層努めてまいりたいと存じます。

結びに、研究発表大会で御講演賜ります文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 和久井 伸彦先生をはじめ、これまで御指導・御助言をくださいました講師の先生方、日頃より御支援いただいております東京都教育委員会、各地区教育委員会及び理事の皆様、関係研究団体の皆様、研究会場を御提供くださいました学校関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和7年度 研究の基調提案

研究部長 平松 隆行（板橋区立高島第一小学校長）

1 研究主題

自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動

2 研究主題設定の背景及び理由

この研究主題で研究を進める2年目である。これまで積み上げてきた研究成果を土台にして、以下のような教師の願い、社会背景や児童の現況、未来を生きる児童に求められる資質・能力等を鑑み、研究主題を設定した。

① 教師の願い

現場から「自分たちで何とかしようとする意識を高めたい」「もっとたくましがほしい」などの意見が出てきた。失敗を恐れずに挑戦し、失敗から学ぶ態度の育成が課題である。

② 社会背景

急速な少子高齢化と人口減少、国際化の波、環境問題、AIの飛躍的な発展、終わらない紛争・戦争など、不確実で不安定な社会がすでに現実となっている。そのような中で、価値観の多様化は一層すすみ、人々がともに生きる「共生社会」の実現が求められている。

③ 児童の現況

不登校児童・生徒数、いじめ認知件数は、急激な増加傾向にあり、大きな問題となっている。これらの諸問題の未然防止に、特別活動を通じた「よりよい人間関係づくり」や、「お互いを認め合い、それぞれに居場所のある学級・学校づくり」が有効である。

④ 次期教育振興基本計画

この計画の中で、これからの教育のコンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示された。特別活動が育む資質・能力と重なるところが多く、特別活動の果たす役割は大きい。

⑤ 東京都教育ビジョン（第5次）

令和6年3月28日に「東京都教育ビジョン（第5次）」における3つの柱が示された。

- ・自ら未来を切り拓く力の育成
- ・誰一人取り残さないきめ細やかな教育の充実
- ・子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化

一人ひとりの個性や特性を生かし、思いや願いを実現する特別活動の理念に通じるものである。

⑥ 中央教育審議会諮問（令和6年12月）

現行の学習指導要領の改訂に向けた議論が始まった。それに先立つ諮問において、「多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる『持続可能な社会の創り手』を育てる必要性」が示された。多様な他者との関わり合いの中で、互いを認め合い、共に課題解決を図る特別活動が育む力が、未来を担う子供たちに必要である。

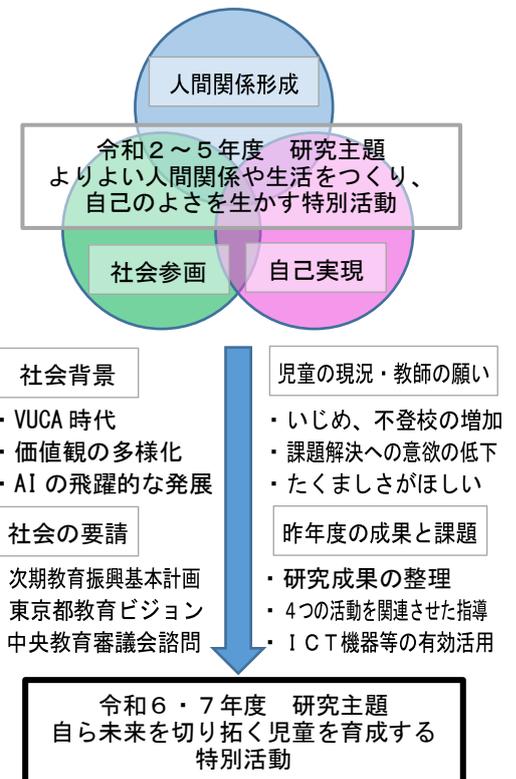
3 研究主題の捉え方について

「自ら^①未来^②を切り拓く^③児童を育成する特別活動」

①自ら…自分や自分たちで課題を見つけ、解決しようとする意欲や主体性・協働性を発揮して課題解決に向かう態度。

②未来…持続可能な未来。ウェルビーイングの向上した未来。多様性が尊重される未来。

③切り拓く…前例にとらわれず、主体的に考え、協働して課題解決を図り、課題解決に向けて、強い意思をもち、諦めずに挑戦を続ける姿。



4 研究の構想

東京都小学校特別活動研究会研究の構想

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

【知識・技能】①何を理解しているか、何ができるか。

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見い出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

【思考・判断・表現力等】②理解していること・できることをどのように使うか。

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【学びに向かう力 人間性等】③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点 ○人間関係形成 ○社会参画 ○自己実現
「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」の研究成果

社会背景

- ・不安定で不確実な時代(VUCA時代)
- ・価値観の多様化
- ・AIの飛躍的な発展

児童の現況・教師の願い

- ・いじめ件数、不登校児童の増加
- ・自ら解決を図ろうとする意欲の低下
- ・たくましく育てほしいという願い

社会の要請

- ・次期教育振興基本計画
- ・東京都教育ビジョン(第5次)
- ・中央教育審議会諮問(令和6年12月)

昨年度の成果と課題

- ・積み重ねた研究成果の整理
- ・4つの活動を関連させた指導
- ・ICT機器等の有効活用

研究主題 「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」

各活動・学校行事の研究主題

学級活動部	児童会活動部	クラブ活動部	学校行事部
自ら未来を切り拓く児童を育成する学級活動	自ら未来を切り拓く児童を育成する児童会活動	自ら未来を切り拓く児童を育成するクラブ活動	自ら未来を切り拓く児童を育成する学校行事

研究計画(3年)

- 令和6年度…理論構築・研究仮説に基づく授業実践
 - ・研究主題の文言の定義について、検討・修正を行い、共通理解を図る。
 - ・研究主題に基づき、各研究部で目指す児童像とそのための研究仮説・研究の視点を設定する。
 - ・研究授業を通して、研究仮説・研究の視点・手だての検証を行う。
- 令和7年度(今年度)…研究仮説・研究の視点・手だての検証・追究のための授業実践
 - ・1年目の研究を踏まえて、研究仮説・研究の視点・手だての検証と修正を行う。
 - ・修正した研究仮説・研究の視点・手だてに基づいた研究授業を行い、検証を行う。
- 令和8年度…3年間の研究における成果と課題の集約
 - ・手だての汎用性・再現性を追求する。
 - ・汎用性・再現性のある手だてを提案する。

令和7年度 東京都小学校特別活動研究会 研究発表大会要項

1 研究主題

自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動

2 日 時 令和8年2月20日(金) 13時15分 受付開始
13時45分 開会

3 会 場 練馬区立豊玉小学校 体育館 ※参加費無料

4 時 程

○受 付 13:15~13:45

○開 会 13:45~14:10

・会長あいさつ ・来賓あいさつ、紹介 ・基調報告

○研究発表 14:10~15:35

○講 演 15:35~16:45

○閉 会 16:45

5 次 第 進 行 庶務部長 神谷 なおみ
(江東区立第二砂町小学校長)

(1) 会長あいさつ 会 長 氣田 眞由美
(練馬区立豊玉小学校長)

(2) 来賓あいさつ・紹介 副 会 長 田村 亜紀子
(練馬区立大泉南小学校長)

東京都教育委員会

練馬区教育委員会

全国特別活動研究会

全国道徳特別活動研究会

全国小学校学校行事研究会

関東地区特別活動研究会

東京都小学校学校行事研究会

多摩地区特別活動連絡協議会

本研究会顧問・参与

(3) 基調報告

研究部長 平松 隆行
(板橋区立高島第一小学校長)

(4) 研究発表

司 会 研究副部長 米持 淳一
(小平市立小平第九小学校長)

	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
研究主題	自ら未来を切り拓く 児童を育成する 学級活動	自ら未来を切り拓く 児童を育成する 児童会活動	自ら未来を切り拓く 児童を育成する クラブ活動	自ら未来を切り拓く 児童を育成する 学校行事
部長	二本木 基 (町田・大蔵小・主幹教諭)	渋井 洋子 (東久留米・神宝小・指導教諭)	山口 哲郎 (港・筈小・主任教諭)	小山 雅人 (世田谷・代田小・主任教諭)
発表者	金澤 勇輝 (目黒・緑ヶ丘小・主任教諭) 若月 雅人 (国立・国立第四小・主幹教諭) 川村 容平 (世田谷・笹原小・主任教諭) 田中 映輝 (葛飾・川端小・教諭)	星野 俊明 (葛飾・川端小・教諭) 佐藤 あかね (世田谷・芦花小・主任教諭) 柴崎 千陽 (三鷹・北野小・教諭)	藤井 芳子 (大田・徳持小・主任教諭) 矢部 聡 (大田・矢口東小・主任教諭) 山下 映実 (江東・浅間堅川小・教諭) 臼井 梨峰 (江東・浅間堅川小・教諭)	小山 雅人 (世田谷・代田小・主任教諭) 四本 真美 (大田・志茂田小・主任教諭) 平山 かおり (目黒・駒場小・主任教諭) 中村 正伸 (練馬・北原小・教諭)
記録	高橋 美衣 (文京・誠之小・主幹教諭) 岸野 航太 (日野・日野第五小・教諭)	丹治 良太 (中央・月島第一小・主任教諭)	島田 泰子 (墨田・曳舟小・教諭)	榎本 誠太 (世田谷・塚戸小・教諭)
全記録	関 拓也 (稲城・若葉台小・校長)		伊勢 祐美子 (世田谷・若林小・主幹教諭)	

(5) 講演

演 題 「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

和久井 伸彦 先生

(6) 謝辞

副 会 長 吉田 有子
(清瀬市立清瀬第七小学校長)

東京都小学校特別活動研究会 ホームページ【https://www.tosho-tokkatsu.tokyo】

東京都小学校特別活動研究会（以下、「都小特活」）では、ホームページを通して、研究内容や研究会の活動の様子、会報「都小特活」や研究紀要の閲覧・ダウンロード、研究授業・研究発表会の案内などを掲載しています。



- 1 **トップ&サイドバーメニュー**
メール・SNS へのアクセスができます。
- 2 **メインメニュー**
各ページにアクセスできます。

- 3 **最新情報**
都小特活の最新情報がブログ形式で表示されます。twitter でも配信します。
- 4 **研究発表会・研究授業案内**
研究授業の日程を掲載しています。



I 学級活動部

研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成する学級活動」

1 本年度の研究について	9
(1) 研究構想図	
(2) 研究主題設定の理由	
(3) 研究の視点	
2 実践事例	
(1) 実践事例1	9月18日(木) 世田谷区立笹原小学校 13
	第5学年1組 主任教諭 川村 容平
	議 題「5年1組へようこそその会をしよう」
(2) 実践事例2	11月 6日(木) 葛飾区立川端小学校 18
	第6学年2組 教 諭 田中 映輝
	議 題「仮装脱出ゲーム集会をしよう」
3 成果と課題	23

研究の経過

令和7年	6月 9日 (月)	定期総会	練馬区立豊玉小学校
	7月 23日 (水)	第1回学級活動部部会	町田市立大蔵小学校
	7月 30日 (水)	夏季集中研修	練馬区立豊玉小学校
		第2回学級活動部部会	
	9月 18日 (木)	第1回検証授業	世田谷区立笹原小学校
		講師 玉川大学 TAP センター 教授 川本 和孝 先生	
	10月 10日 (金)	第3回学級活動部部会	葛飾区立川端小学校
	11月 6日 (木)	第2回検証授業	葛飾区立川端小学校
		講師 東京都小学校特別活動研究会第40代会長 山口 祐一 先生	
	11月 28日 (金)	第4回学級活動部部会	町田市立大蔵小学校
	12月 18日 (木)	第5回学級活動部部会	オンライン
令和8年	1月 29日 (木)	第6回学級活動部部会	オンライン
	2月 16日 (月)	第7回学級活動部部会	練馬区立豊玉小学校
	2月 20日 (金)	研究発表大会	練馬区立豊玉小学校

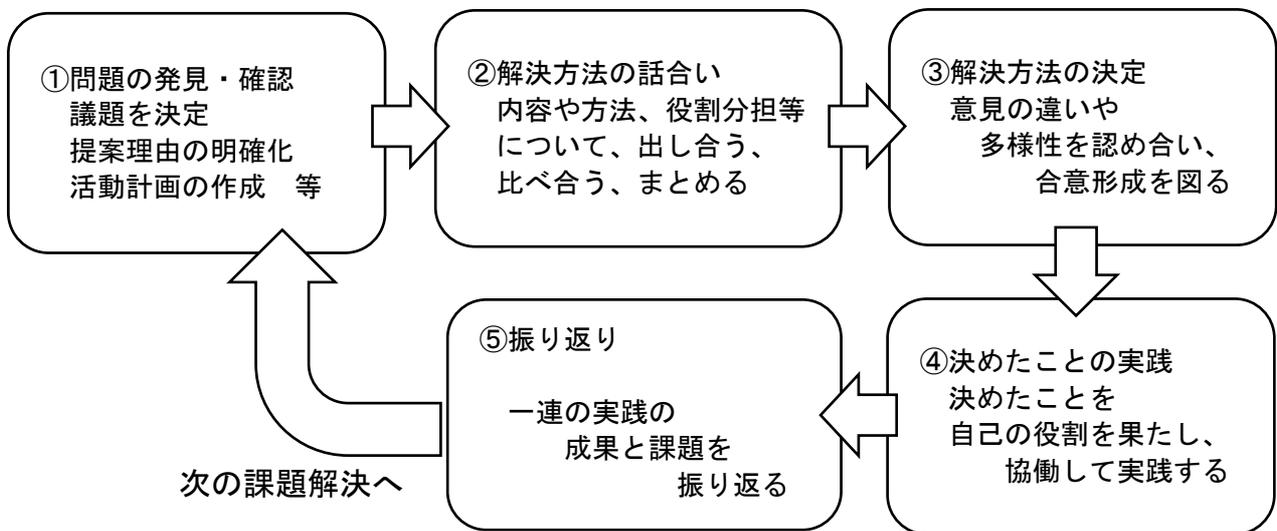
1 本年度の研究について

(1) 研究構想図

社会的背景 ・不安定で不確実な時代 ・価値観の多様化	特別活動で育成すべき資質・能力 3つの視点 ○人間関係形成 ○社会参画 ○自己実現	児童の実態 ・いじめ・不登校の増加 ・課題解決への意欲が低い
研究主題 「自ら未来を切り拓く児童を育成する学級活動」		
目指す児童像 ・互いのよさを生かし、協力し合いながら活動する児童 (人間関係形成) ・学級の一員として多様な意見のよさを生かしてよりよい集団をつくり上げる児童 (社会参画) ・よりよい学級生活づくりに向けて、すすんで自分のよさを生かし行動する児童 (自己実現)		
研究仮説 みんなと協力してよりよい集団をつくり上げたり、なりたい自分に向けて行動したりする指導を積み重ねることで、互いのよさを生かし、よりよい学級生活づくりに向けて『自ら未来を切り拓く児童』を育成することができるだろう。		

研究の視点と指導の手だて		
視点1 人間関係形成 みんなと協力して活動する力を育てる指導の工夫	視点2 社会参画 よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫	視点3 自己実現 なりたい自分に向けて行動する力を育てる指導の工夫
○ 活動のよさを価値付ける 「終末の助言の工夫」 ○ 児童が自他のよさを認め合える 「振り返りの工夫」	○ 児童がつくり上げる学級会に向けた 「事前指導の工夫」 ○ 学級全員で共通理解を図る 「思考の可視化の工夫」	○ 児童が次の活動へ生かせる 「終末の助言の工夫」 ○ なりたい自分に向けて自分と向き合える 「振り返りの工夫」

学級活動における一連の学習過程



学級活動部 研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成する学級活動」

(2) 研究主題設定の理由

学習指導要領には、「学級生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら、自主的・実践的に取り組むことにより、活動することの楽しさや成就感・達成感を得たり、自己有用感を高めることにつながる。」とある。特別活動がこれまで教育課程上果たしてきた役割を踏まえて、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つを視点としつつ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3点の柱に沿って、資質・能力が整理されている。

本研究会の主題である「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」を受け、学級活動部では、児童にとっての「未来」とは「明日」であり、「遠い将来である長い期間」と捉えた。「今」を懸命に生きる児童にとって、多く時間を過ごすものが学級である。「切り拓く」とは、その中で自分の興味のあることや自信のあることが分かること、自分の興味があることや自信のあることを行い、友達や学級に貢献すること、また、自分の思いや願いを叶えられること、学級の中に自分の居場所や役割があることと捉えた。

学級活動においては、学級という集団の中で、様々な問題を自分たちで見付け、解決方法について話し合い、合意形成を図る。そして、合意形成したことをもとに実践し、解決につなげていく中で、自他のよさや可能性を広げたり、活動することへの達成感や充実感を得たり、自己有用感を感じたりすることができる。そして、その経験の積み重ねが生涯に渡って、集団や社会の一員として、また社会の形成者として、たくましく生き抜く資質や能力へとつながるよう指導していく。

今年度も昨年度に引き続き、学級活動部が研究、そして検証してきた多くの手だての中から、4つの手だてに絞って検証を行ってきた。

- ①事前指導の工夫 ②思考の可視化の工夫 ③終末の助言の工夫 ④振り返りの工夫

以上の手だてが、多くの学級で実践できるように今後も汎化に向けて研究を深めていく。

(3) 研究の視点

視点1 「みんなと協力して活動する力を育てる指導の工夫」 (人間関係形成)

学級活動では、集団活動を通して、自他のよさや可能性に気付き、それを認め、生かし合うことが大切である。共に過ごす仲間とよりよい人間関係を築き、みんなと協力して活動する力を高めることで、「自ら未来を切り拓く児童」を育成できると考えた。

活動のよさを価値付ける「終末の助言の工夫」

- 望ましい人間関係を形成し自主的、自発的な態度を育てるために、それらにつながる言動が見られたときは必ず取り上げ、具体的な事例と名前を挙げて活動のよさを認め、価値付ける。

【終末の助言で取り上げる内容】

- (1) 前回から成長が見られた言動 (2) 司会グループの工夫、努力
(3) 友達、学級全体のことを考えた言動 (4) 話し合いをまとめるような建設的な発言
(5) 議題、提案理由やめあてに戻って考えた発言 (6) 自分のめあてや前回の振り返りを生かした発言
(7) 次への成長のための気付くようにしたいこと (8) 実践、生活への意欲付け

【具体的な終末の助言の例】

例①

T 今日Aさんが上手に説明をできずに困っていた場面がありました。その時に発言をした人がいたのですが、覚えている人はいますか？

C はい。Bさんです。Aさんの代わりに言いたかったことをみんなに説明をしてあげました。

T そうでしたね。Bさんが説明してあげていました。このように困っている友達を助けて説明したり話を整理したりしてあげると、Aさんもみんなも嬉しいし、話し合いも上手に進みますね。

例②

T 前回の話し合いでは、司会グループの人たちは進め方が分からなくなって困ってしまいましたが、今回は自分たちで進められていました。どうしてだと思いますか？

C 休み時間に計画委員会で進め方についてシミュレーションをしていました。また、前回の司会グループの人たちが、アドバイスもしていました。

T そうでしたね。このように、前もってどうなるか想定して準備していると話し合いがスムーズになるし、意見も出しやすいですね。前回の反省を生かすと、どんどんレベルアップしますね。

自他のよさを児童同士が認め合える「振り返りの工夫」

- ・ 学級会での自他のよさを認め合えるようにするために、「自分や友達の頑張ったこと」を発表する時間を設け、互いのよさを認め、みんなで協力して活動できるようにする。



【具体的な活動例】

- (1) 振り返りカードに互いのよさを記入する。
- (2) 振り返りの時間に一人一人がよさを発表する。
- (3) 振り返りの時間後、付箋に互いのよさを書いて友達と渡し合う。
- (4) 「学級会レター」を作成し、教師が学級や一人一人のよさを紹介し、学級全体で共有する。
- (5) 振り返り新聞を作成し、互いのよさを掲示する。

視点2 「よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫」 (社会参画)

学級活動では、課題を見だし、その解決に向けて話し合い、決めたことを実践して生活をよりよくしていくことが大切である。その中で、学級全員で協力しながらよりよい集団をつくり上げる力を高めることで、「自ら未来を切り拓く児童」を育成できると考えた。

児童がつくり上げる学級会に向けた「事前指導の工夫」

- ・ 事前の計画委員会を行い、それぞれの仕事内容や黒板の使い方、話し合いの進め方などを司会グループと確認をする。その後、学級全員で全体の流れの共通認識をもつ。

【具体的な事前指導の例】

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| (1) 議題の選定、話し合うこと決め | (2) 役割分担、仕事内容の確認 |
| (3) 提案理由の明確化 | (4) 話し合いのめあての決定 |
| (5) 決まっていることの確認 | (6) 当日の進め方についての確認 |
| (7) 司会による司会ノート（進め方）の作成 | (8) 学級会カードの配布、児童一人一人が意見を記入 |
| (9) 意見の短冊の作成、掲示 | (10) 学級全体で当日の進め方の確認 |
| (11) 学級全体で意見の共通理解、質問の受け付け | (12) 司会グループで当日の流れのシミュレーション |

学級全員で共通理解を図る「思考の可視化の工夫」

- ・ 話し合いの流れや意見の内容を学級全員が共通理解しながら話し合えるように、今話していることの内容や決まったことなどを短冊や記号を活用して、黒板に記録させる。



【具体的な可視化の例】

- (1) 意見の理由は、キーワード化・色分けして、短冊やマグネットで示す。
- (2) 話し合っていく中で出た新しい意見や決まったことは、短冊や記号を活用して、黒板に記録していく。
- (3) 話していて分かりづらいことは、その場で実演したり、絵や図で表したりして、共通理解をする。

視点3 「なりたい自分に向けて行動する力を育てる指導の工夫」（自己実現）

学級活動では、活動ごとに振り返りを行い、自分のよさや可能性に気づき、次の活動に生かしていくことが大切である。未来の自分をよりよくするため、なりたい自分に向けて行動する力を高めることで、「自ら未来を切り拓く児童」を育成できると考えた。

次の活動へ児童自身が生かせる「終末の助言の工夫」

- ・ 次の活動に学びを生かすため、課題そのものを指摘するのではなく、児童が解決方法や改善策を見付け出すことができるように、話し合いの場を振り返らせ問い掛ける形の助言をする。

【具体的な終末の助言の例】

例①

T Aさんの意見が話されないまま話が先に進んでしまったけれど、自分だったらどんな気持ちになりますか？

C 悲しいです。勇気を振り絞って言った発言だと思います。

T そうですね。では、どうしていけばよかったですか？

C 話を戻して、Aさんの意見を話し合った方がいいと思います。

T そうですね。これからは話がずれたりとんだりしてしまったときは、話を元に戻すように司会グループもフロアの人も発言できるといいですね。

例②

T 今日は最後に2つの遊びが残り、どちらも提案理由に合っていて賛成している人も多くいました。どうすれば、1つに決めることができますか？

C みんなの意見を大切にしたいので、2つすればよいと思います。

T 1つに決める以外の方法もありますよね。どうすれば2つできますか？

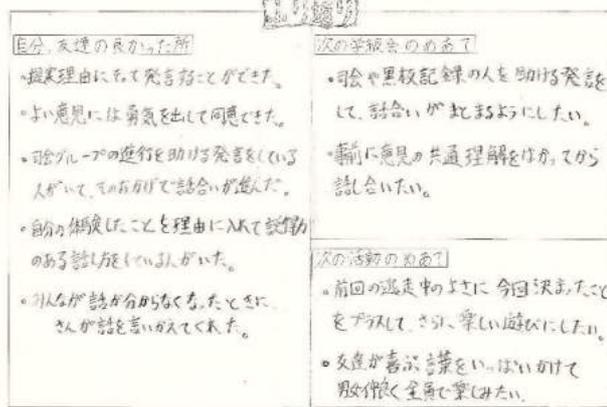
C 2つを合体した〇〇遊びにしたり、1つをする時間を短くして2つともしたりすればよいと思います。

T そうですね。このように、より多くの人の意見のよさを生かしながら話し合っていくことはとても大切です。

なりたい自分に向けて自分と向き合える「振り返りの工夫」

- ・ 学級会での自他のよさを次の活動に生かすことができるように、「次の学級会や活動に向けて」を書く欄を設け、なりたい自分に向けてめあてを決めることができるようにする。

【具体的な振り返りカードの例】



【具体的な振り返りカードの項目例】

- (1) 自分のめあて
- (2) 自分の考え
- (3) 自分のよかったところ
- (4) 友達のよかったところ
- (5) 今日の学級会のよかったこと
- (6) 次の学級会に向けて
- (7) 次の活動（実践）に向けためあて
- (8) 活動（実践）の振り返り
- (9) 次の活動で生かしたこと

2 実践事例

(1) 実践事例 1

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和7年9月18日(木) 場所 世田谷区立笹原小学校

対象 第5学年1組 授業者 川村 容平

②議題名 「5年1組へようこそその会をしよう」

【提案理由】前回の1学期がんばったね会では、一部の人のよさや頑張りしか認め合えませんでした。「5年1組へようこそその会」をして、転入生に一人一人のよさを伝えることで、自分や友達のよさを生かして新しい5年1組で頑張ろうという気持ちが高まると思うからです。

③一連の活動の流れ

事前

- ・前回の司会グループとの引継ぎ、役割分担と仕事内容の確認をする。
- ・前回の活動の振り返りを基に、議題案の中から学級全体で話し合い、議題を決める。
- ・提案理由や話し合いのめあて、話し合うことの説明をする。
- ・議題に対する自分の意見を事前に考え、学習者用端末に入力する。
- ・学級会シートを見ながら、短冊に書いたり、話し合いの進め方について話し合ったりする。
- ・提案理由やめあてを踏まえて、一人一人が学級会シートに自分の考えを入力する。
- ・黒板記録の仕方の確認、司会シートや学級会シートを基に話し合いの流れの予想、進め方の確認をする。

本時

【ねらい】今までの活動経験を踏まえながら、多様な意見のよさを生かして、「5年1組へようこそその会をしよう」の内容や工夫について考えたり、発言したりしている。

- ・はじめの言葉
- ・司会グループの紹介
- ・議題の確認
- ・提案理由の確認
- ・話し合いのめあての確認
- ・決まっていることの確認
- ・話し合い(①なんでもバスケットの工夫 ②ばくだんゲームの工夫)
- ・決まったことの発表
- ・振り返り
- ・先生の話、終わりの言葉

【話し合いの内容】

- ・今どの意見について話し合っているかを可視化したことで、全員に話し合いの流れが分かるようにした。
- ・話し合っていく中で意見を合わせて、出ている意見を生かしながら話し合うことができた。

【決まったこと】

- ①なんでもバスケットの工夫
 - ・座れなかったら、自己紹介で自分の好きなものや好きなことを言う。
 - ・座れなかったら、自己紹介で自分の得意なところとよいところを言う。
- ②ばくだんゲームの工夫
 - ・当たったら自己紹介をする。
 - ・2回目は当たっていない友達を指名する。
- ・自分のよいところを言ってからボールを渡す。(ボールを回すスピードはゆっくりにする。)

○第五回学級会
「五年一組へ
ようこそその会をしよう」

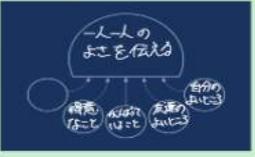
○提案理由（提案者…）
前回の一学期がんばったね会では、一部の人のよさや頑張りしか認め合えませんでした。五年一組ようこそその会をして、転入生に一人一人のよさを伝えることで、自分や友達のよさを生かして新しい五年一組で頑張ろうという気持ちが高まると思うからです。

○決まっていること
九月二十六日（金）一校時、教室。
なんでもバスケットとばくだんゲーム。
（転入生にまわるように意識する。）

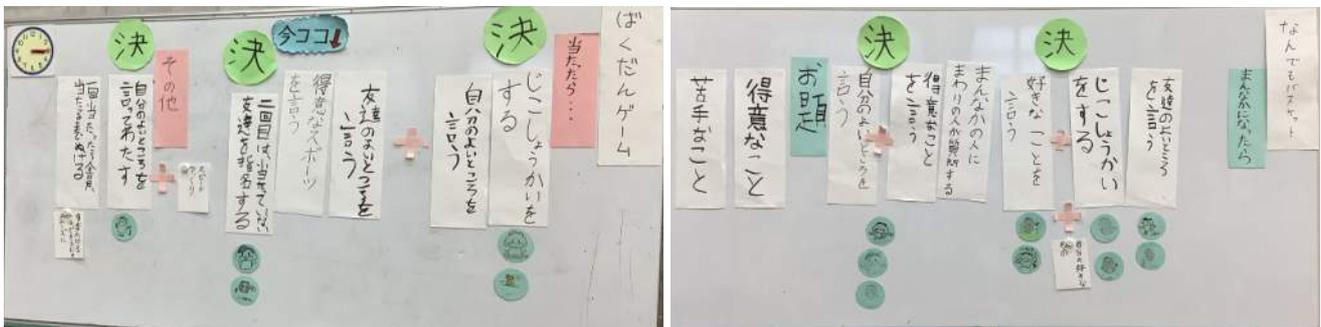
○話合いのめあて
「一人一人の意見を大切にしながら、意見を進化させよう。」

○話し合うこと①
一人一人のよさを伝える工夫を決めよう。

<プログラム>
1 はじめの言葉
2 なんでもバスケット
3 ばくだんゲーム
4 めいしをわたす
5 終わりの言葉



【学級会の板書】



事後

- ・議題、提案理由、学級会の振り返りを振り返り新聞に事前を書く。
- ・話合いで決めたことを基に準備をする。
- ・実践に向けて自分のめあてを入力する。
- ・話合いで決めた「5-1 どうぞよろしくね会」を行う。
- ・終了後、振り返りをする。振り返り新聞を書く。

【実践活動の様子】実施日 9月26日（金）1校時

○事前の準備



○実践の様子



- ・前回の経験を生かして、より多くの友達のよさを転入生に伝えることができた。
- ・よさを伝える際に、学級会で話し合っただけの工夫を周りの友達が教える姿が見られた。
- ・よさを伝える機会がなかった人のことも考え、転入生に一人一人が書いた名刺を渡した。

【活動を終えて 振り返り】

○転入生の振り返り

- ・単純に楽しくてみんなのよいところも教えてもらって、「この人の特技、面白いな。」と思ったことがあった。自分のよいところを言えなかったので、次は言えるようにしたい。
- ・今回は、ばくだんゲームやなんでもバスケットのおかげで、「私の特技と同じ人がいることが分かった。」だから、これから仲を深められそうだなと思った。

○その他の児童の振り返り

- ・何を言えばよいか分からなくなったときに、「こういうよいところがあるよ。」と、周りの人が例を挙げてサポートしてくれた。
- ・一度当たった人が、他の人が自分のよさを言えるように自然と譲っていたのがよかった。
- ・自分のよいところが言えない人がいたので、みんなが言えるようになりたい。
- ・そのためには、一人一人が言えるように、お互いのよいところを認め合う活動をしたい。

④視点1～3の手だての検証（成果・課題）

手だて1 児童がつくり上げる学級会に向けた「事前指導の工夫」（視点2）

学級会前に司会グループが、議題や提案理由、話合いの進め方について学級全体に伝える機会を設けたことで、共通認識をもって話し合うことができた。

提案理由を短く表した「キーワード」を書いた短冊を掲示させたことで、児童が提案理由を意識して話し合うことができた。

手だて2 学級全員で共通理解を図る「思考の可視化の工夫」（視点2）

提案理由をキーワード化した掲示物を用いて黒板に記録させたことで、提案理由に沿った意見が分かるようになった。

今話していることや決まったことなどを短冊に書いたり、記号のグッズを活用したりして黒板に記録させたことで、話合いの流れや意見の深まりが学級全員に分かるようになった。

学級活動の時間だけでなく、各教科・領域の時間でも思考を可視化することのよさに児童が気付けるようにしていく。

手だて3 活動のよさを価値付け、児童が次の活動へ生かせる「終末の助言の工夫」（視点1、3）

具体的な事例と名前を挙げて言動のよさを認め、価値付けたことで、これからの活動に対する意欲を高め、話合いをよりよくする児童の言動を定着させることにつながった。

課題そのものを指摘するだけでなく、話合いの場面を振り返らせ、児童に問い掛けながら助言をしたことで、自分たちで考え、課題や解決策を見付けながら、自分たちでつくる学級会につながった。

手だて4 自他のよさを認め合い、なりたい自分に向けて自分と向き合える「振り返りの工夫」（視点1、3）

学級会シートに、話合いを通して自分や友達のよかったところなどの振り返りを書く欄を設けたことで、次回の話合いや実践活動に生かせるようになってきた。

※一人1台の学習者用端末の活用

第5回学級会 個人シート ～学級会編～
<自分の考え> (意見+理由)
なんでも…自己紹介をする 理由 転入生が安心して学校にこ
れるから
爆弾 …友達の良いところを言う 理由 転入生のためになる
から
<自分のめあて> (頑張ること！)
人の話を反応しつつ聞き、じぶんからも発言する
<振り返り>
○自分のよかったところ
→目当ての人の話を反応しつつ聞けができた
○友達のよかったところ
→色々発言しつつ、反応しながら人の話を聞いていた
△→自分や学級の改善点とこれから頑張るところ
→自分から発言することができていなかったから次は自分の良か
ったところそのまま自分からも一個は発言する

個人シートは児童がいつでも見られるように全員で共有している。

どんなことを書いたらよいか分からない児童にとっては、「どんなことを書けばよいか。」という視点で考えることができている。

友達のめあてや振り返りを伝え合ったり、見合ったりする時間を設けたことで、互いのよさや頑張りを認め合おうとする姿が見られるようになった。

⑤講師紹介、指導講評

玉川大学TAPセンター 教授 川本 和孝 先生

本時の話し合いでは、民主的な合意形成を目指しながら、児童一人一人が議題について考えをもつ場面が見られた。話し合いにはめあてがあり、それは「どのように話し合うか」を意識し、プロセスを学んでいくことである。児童は互いの意見を聞き合いながら、民主的な話し合いの方法を模索していた。また、少数意見に気付こうとする児童の姿や、マイノリティの立場を理解しようとする態度が見られた点は、特別活動における大きな成果であった。話し合いの中で「納得」と「違和感」が共存することを理解し、違和感を受けとめようとする姿勢が育ちつつあることも確認できた。

一方で、話し合いに必要感をもって臨んだ児童がどの程度いたのかについては課題が残った。議題の必然性が十分に共有されなければ、民主的な話し合いの場とは言い難い。また、少数意見が流されてしまい、十分に表出されなかった場面があった。マイノリティの声をどのように扱うかは、今後の大きな課題である。

さらに、話し合いの構造が肥大化すると、感性が置き去りにされる危険がある。構造と感性の相互関係を意識しながら、児童自身が座席の選択や議題設定を行えるようにする必要がある。提案理由の練り方が感覚的になっていた点も改善すべきであり、議題の抜本的な問題と要因を整理する力を育成していく必要がある。

特別活動においては、非認知能力の育成が重要である。ファシリテーションを通して、児童が少数意見に気付き、受け止め、共に考える力を育むことが求められる。民主主義は日々の関係性と選択の積み重ねによって成り立つものであり、話し合いを通してその理解を深めることができる。また、児童が特活的な感性や言語を選びとれるように、ボキャブラリーを豊かにし、一人一人が大切にされる学級会を構築することが望ましい。その際、ルーブリックなどの評価規準にとらわれすぎるのではなく、児童の内面を「読み取り」、本質的な要素を「見取る」姿勢が必要である。

以上の点から、特別活動の学習においては、児童が主体的に議題を設定し、互いを思いやりながら課題を解決していく力を育成していくことが、今後の指導における大きな示唆となる。

(2) 実践事例 2

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和7年11月6日(木) 場所 葛飾区立川端小学校
対象 第6学年2組 授業者 田中 映輝

②議題名 「仮装脱出ゲーム集会をしよう」

【提案理由】今の6年2組は「みんなと話せるぐらい」仲が深まってきたが、お互いのことを深く理解しているわけではない。だから、みんなの今まで知らなかったよさを知ることのできる仮装脱出ゲームをすることで、お互いの壁を越え、よさを伝え合える学級になっていきたいから。

③一連の活動の流れ

事前

- ・前回の司会グループとの引継ぎ、役割分担と仕事内容の確認をする。
- ・議題案の中から学級全体で話し合い、議題を決める。
- ・司会グループが提案理由や話し合うことの説明をする。
- ・司会グループが学級会カードを作成する。
- ・提案理由や自分のめあてを踏まえて、一人一人が学級会カードに自分の考えを記入する。
- ・司会グループが学級会カードを見ながら、短冊に書いたり、話し合いの進め方を確認したりする。

本時

【ねらい】今までの活動経験を踏まえながら、多様な意見のよさを生かして、「仮装脱出ゲーム集会」の内容や工夫について話し合うことができる。

- ・はじめの言葉
- ・司会グループの紹介
- ・議題の確認
- ・提案理由の確認
- ・キーワードの確認
- ・決まっていることの確認
- ・話し合い ①みんなの今まで知らなかったよさを知ることのできる工夫を決める。
- ②役割を決める。
- ・決まったことの発表
- ・振り返り
- ・先生の話、終わりの言葉

【話し合いの内容】

- ・集会前や集会中、ミッション、仮装の工夫について話し合った。
- ・反対の意見に対して改善策を出したり、より提案理由に近付くための意見を出したりしながら、話し合いをまとめていった。

【決まったこと】

①みんなの今まで知らなかったよさを知ることのできる工夫

- ・集会前には「よさ一覧表」を作成し、「プロフィールカード」を名札につける。
- ・集会中に自己紹介をして、「プロフィールカード」を交換する。
- ・ミッションの内容は、一人称、自分の字、よいところ、日課、趣味、共通点、好きな教科を当てるクイズにする。
- ・仮装は、自分の特徴やイメージカラーを生かしたものにする。当日は褒め合う。

②役割

- ・時間の計画
- ・「よさ一覧表」
- ・「プロフィール」
- ・グループ分け
- ・教室の使い方
- ・ミッション
- ・司会

【学級会の様子】



【黒板横のモニター】

かそう脱出ゲーム集会をしよう！

決まっていること

- 教室・多目でやる
- 6グループでまわる
- 11月20日(木)5時間目にやる
- お化け屋敷集会のやり方でやる

課題

今、6年2組は「みんなと話せるくらい」仲が深まってきたが、お互いのことを深く理解してるわけじゃない。

未来

お互いの壁をこえ、よさを伝え合える学級にしたい。

やること

みんなの今まで知らなかったよさを**知ることができる**ようなかそう脱出ゲーム集会をする。

【学級会の板書】



事後

- ・話合いで決めたことを基に準備をする。
- ・実践に向けて自分のめあてを記入する。
- ・話合いで決めた「仮装脱出ゲーム集会」を行う。
- ・終了後、振り返りをする。教室に掲示する模造紙を書く。

【実践活動の様子】実施日 11月20日(木)5校時

○事前の準備



○実践の様子



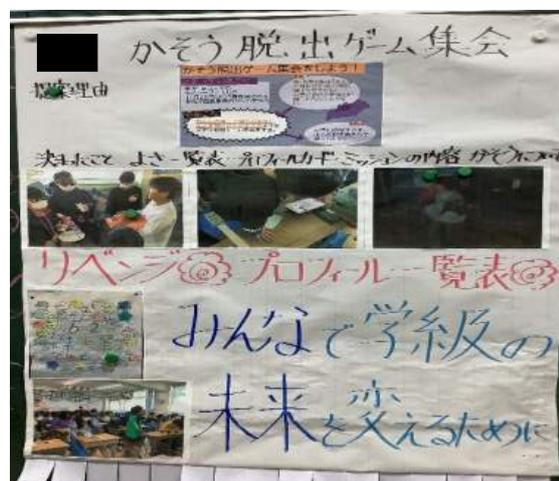
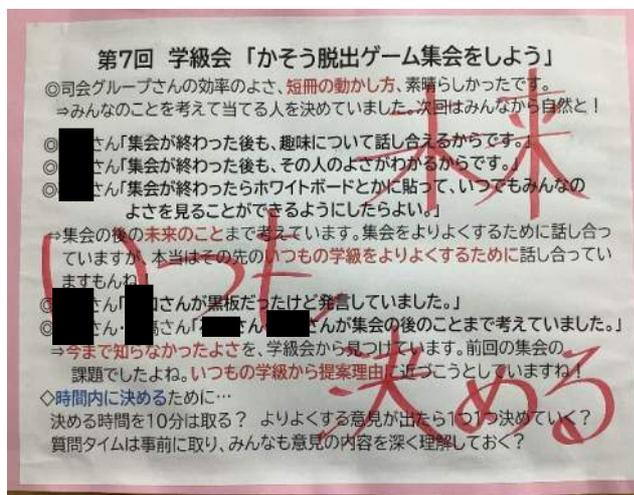
- ・学級会で決まった工夫された仮装をしながら、工夫されたミッションをクリアしていく脱出ゲームをすることができた。
- ・前回の経験を生かして、より多くの友達のよさを知り、伝え合うことができた。
- ・集会後の日常生活のことまで考えた工夫を実践することができた。

【活動を終えて 振り返り】

○児童の振り返り

- ・転入生のよさを知ることができた。今まであまり話せていなかったけれど、自分との共通点が見付かったので、自分から話し掛けてみたい。
- ・集会が始まってから出てくるハプニングもみんなで支え合ってどうにかすることができた。「よさ一覧表」や「プロフィールカード」をヒントに、ミッションをどんどんクリアすることで、お互いの理解を深めることができた。

- ・時間配分や役割同士の連携など、前の2つの集会の課題を解決することができた。
- ・〇〇さんの一途というよさが意外で驚いた。また、〇〇さんの紹介文が面白くて、そこもよさだなと感じた。
- ・学級の課題に沿ったミッションですごくよかった。提案理由の「みんなの」というところまではあと少しなので、次はより「みんなの」を意識した集会をしたい。



④視点1～3の手だての検証（成果・課題）

手だて1 児童がつくり上げる学級会に向けた「事前指導の工夫」（視点2）

計画委員会で黒板やICT機器の使い方、話合いの進め方を問い掛けながら助言をしたり、前回の司会グループと確認する時間を設けたりすることで、児童が自分たちで学級会を進めることができた。

合意形成の拠り所となる提案理由を短く表した「キーワード」を掲示することで、児童が提案理由を意識して話し合うことができた。

司会グループが議題や提案理由、話合いの進め方について学級全体に伝える時間を設けたり、それらをホワイトボードにまとめて教室に掲示したりすることで、学級全員が共通理解を図った上で話合いに参加することができた。

時間内に決めるためには、計画委員会で時間配分を確認したり、出された意見に対して学級全員で共通理解を図ったりする時間が必要であった。

手だて2 学級全員で共通理解を図る「思考の可視化の工夫」（視点2）

今話していることや決まったことなどを短冊に書いて、操作しやすくしたり、記号グッズを活用して構造的に黒板に記録させたりすることで、話合いの流れや意見の深まりを学級全員で理解することができた。

黒板記録の写真を撮り、実践活動に向けての準備に活用することで、学級会で決まったことを、実践活動まで正確につなげることができた。

手だて3 活動のよさを価値付け、児童が次の活動へ生かせる「終末の助言の工夫」（視点1、3）

具体的な事例と名前を挙げて言動のよさを認め、価値付けることで、これからの活動に対する意欲を高め、話合いをよりよくする児童の言動を定着させることができた。

課題そのものを指摘するだけでなく、話合いの場面を振り返らせ、児童に問い掛けながら助言をすることで、自分たちで考え、課題や解決策を見付けながら自分たちでつくる学級会にすることができた。

手だて4 自他のよさを認め合いなりたい自分に向けて向き合える「振り返りの工夫」(視点1、3)

話し合い活動と実践活動の「よかった点」と「改善点」を学級全体や計画委員会の振り返りの中から取り上げ、模造紙や画用紙にまとめ、掲示することで、一連の活動の中での自分の成長に気付いたり、新たな課題を見出し、次の一連の活動につなげたりすることができた。

自分のめあてや振り返り、友達のよかったところを伝え合ったり、見合ったりする時間を設けることで、互いのよさや頑張りを認め合い、一連の活動に生かしていくことができた。

⑤講師紹介、指導講評

元玉川大学 客員教授 第40代東京都小学校特別活動研究会 会長 山口 祐一 先生

自発的、自治的に取り組むためには、教師から始めて、だんだん児童からできるようにしていくことが大切である。心理的安全性を大切に、少しずつ手を放していく必要がある。受容的で支持的風土がある学級集団になってきている。

学習指導要領解説の16ページなどにも書かれているように、「よさ」の1つは集団活動を高める言動のことである。発見する人の観点によって、様々な「よさ」がある。先生自身が「よさ」を様々な観点から見付けていけるように、日常から意識していく必要がある。

「生かす」ためには、機会や場、様々な環境において、結果よりも挑戦することを重視していくことが大切である。特別活動だけでなく、学校生活全体で重視していく必要がある。

問い掛けながら児童の知恵を引き出すことが大切である。教師は情報を提供するような助言をしていく。問い詰めにならないようにする。

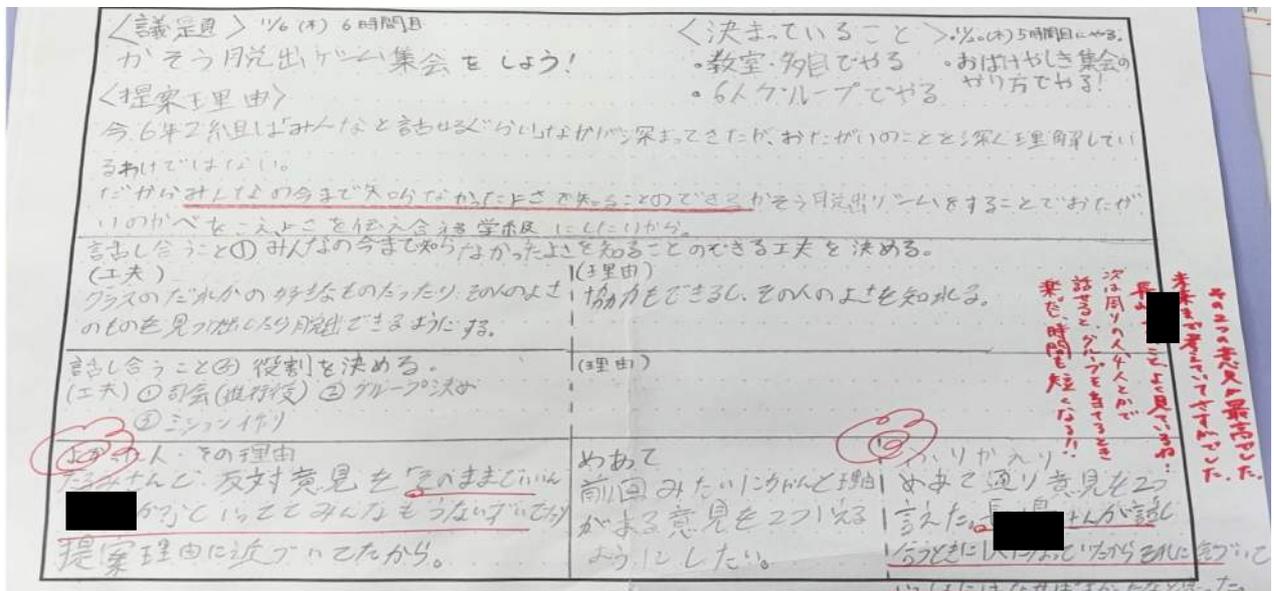
決まらないのは司会グループだけの責任ではない。「学級全員が協力して決めるもの。」と意識させることが大切である。

発言が一部の児童に偏るときは、発言しない理由を探っていくことが大切である。ただし、事前に学級会ノートに書かれた児童の意見に「よい意見なので発表しよう。」などと記入することは避けたい。先生の後押しがないと言えなくなる児童をつくってしまう恐れがある。ポイントは、「傾聴」「共感」「うなずきや表情など非言語的な配慮」である。

終末の助言では、人間関係形成、社会参画、自己実現の3観点を大切にし、何を言ったかより、児童がどう感じたかを大切にする。

学級会は児童が自分たちでつくる物語である。各教科等で学び、身に付けた力を発揮する出口として大切にしていきたい。

⑥指導に使ったワークシート



成果と課題

(1) 成果

視点1 みんなと協力して活動する力を育てる指導の工夫

- ・ 終末の助言で児童の活動を具体的に価値付けていくことで、話合いに前向きに取り組んだり、次の活動に生かしたりすることができるようになった。
- ・ 相互評価をすることで児童の自信になり、次の活動へつながっていた。また、振り返りを共有することで、活動への理解が深まった。

視点2 よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫

- ・ 事前指導を充実することによって、児童が提案理由を意識しながら意欲的に話し合うようになった。
- ・ ミニ短冊や記号グッズによって話合いの流れが可視化され、今話していることを共通理解しながら話し合うことができた。

視点3 なりたい自分に向けて行動する力を育てる指導の工夫

- ・ 振り返りを積み重ねることにより、児童が自信をもって活動に参加できたり、目標を意識して取り組んだりするようになった。

(2) 課題

視点1 みんなと協力して活動する力を育てる指導の工夫

- ・ 活動のよさを価値付ける「視点」と「量」を精選していくことが大切である。
- ・ 児童の実態に合わせた振り返りの工夫を今後も研究していく。

視点2 よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫

- ・ 児童が学級の諸課題の解決のために必要感を感じている議題であるか、しっかりと精選してから議題を選定していく必要がある。
- ・ 学級活動だけでなく、日常の教科指導から、思考を可視化することを積み重ねていくことが大切である。
- ・ 低、中学年でも実践できる児童の思考の可視化を研究していく。

視点3 なりたい自分に向けて行動する力を育てる指導の工夫

- ・ なりたい自分に向けた振り返りの工夫や指導の工夫を今後もブラッシュアップしていく。

(3) 各活動・学校行事との関連

- ・ 今年度は、学級の話合い活動で身に付けた知識や経験を、児童会活動の代表委員会で発揮することができた。また、児童会活動で異年齢から学んだことを、学級の話合い活動でも生かすことができた。今後も各活動・学校行事との関連を意識して研究を重ねていきたい。

研究に携わった人

部長	二本木 基 町田・大蔵小	副部長	大野 和代 足立・千寿第八小
副部長	金澤 勇輝 目黒・緑ヶ丘小	副部長	若月 雅人 国立・国立第四小
副部長	細貝 俊稀 立川・第五小	会計	高橋 美衣 文京・誠之小
会計	奥山 優子 中央・月島第三小	庶務	岸野 航太 日野・日野第五小
庶務	田中 映輝 葛飾・川端小		川村 容平 世田谷・笹原小
	佐藤 麻美 豊島・高松小		吉田 司 三鷹・南浦小
	増田 琴 千代田・富士見小		市川 敦也 日野・日野第五小
	五十嵐拓人 文京・大塚小		新居 逸郎 昭島・つつじが丘小
	小針 央雅 墨田・二葉小		岸野 理恵 立川・南砂小
	佐藤 純 町田・七国山小		佐藤 翔 足立・中川小
	田村 優樹 狛江・第五小		坂本 理恵 町田・七国山小
	田村 陸 町田・大蔵小		岩脇 朱音 町田・大蔵小
	木下 涼平 日野・日野第五小		菅原 里帆 昭島・つつじが丘小

Ⅱ 児童会活動部

研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成する児童会活動」

1	本年度の研究について	25
(1)	研究構想図	
(2)	研究主題設定の理由	
(3)	研究の視点	
2	実践事例	28
(1)	実践事例 1 11月2日(木) 葛飾区立川端小学校 代表委員会 教諭 星野 俊明 議題「学校かくれんぼをしよう」	
(2)	実践事例 2 11月11日(月) 世田谷区立芦花小学校 放送委員会 主任教諭 佐藤 あかね 議題「音楽会ウィークをしよう」	
3	成果と課題	39

研究の経過

令和7年	6月9日(月)	定期総会	練馬区立豊玉小学校
	7月3日(木)	第1回児童会活動部会	東久留米市立神宝小学校
	7月30日(水)	夏季集中研修	練馬区立豊玉小学校
	9月5日(金)	第2回児童会活動部会	葛飾区立川端小学校
	9月26日(金)	第3回児童会活動部会	世田谷区立芦花小学校
	10月2日(木)	第1回検証授業	葛飾区立川端小学校
	講師	世田谷区教育委員会 支援教育課教育支援嘱託員 元本会会長	石田 孝士 先生
	10月30日(木)	第4回児童会活動部会	世田谷区立芦花小学校
	11月10日(月)	第2回検証授業	世田谷区立芦花小学校
	講師	有明教育芸術短期大学 副学長 元本会会長	長田 信彦 先生
令和8年	1月6日(火)	第5回児童会活動部会	世田谷区立芦花小学校
	1~2月	研究発表準備	
	2月20日(金)	研究発表大会	練馬区立豊玉小学校

1 本年度の研究について

(1) 研究構想図

社会背景 ○不安定で不確実な時代 ○価値観の多様化	特別活動で育成すべき資質・能力 3つの視点 ○人間関係形成 ○社会参画 ○自己実現	児童の実態 ○いじめ・不登校の増加 ○課題解決への意欲が低い
研究主題 自ら未来を切り拓く児童を育成する児童会活動		
目指す児童像 ・「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを感じながら、異年齢の人間関係を 自分たちの力で つくる児童（人間関係形成） ・ 全校のみんなのために 発意・発想を生かした自治的活動を 自分たちの力で 実現する児童（社会参画） ・ 学校をよりよくするためにあきらめずに 取り組む児童（自己実現）		
研究仮説 目的や意義を踏まえたためあてを立て、児童の発意・発想を生かした異年齢交流活動を行い、それを振り返る一連の活動を積み重ねる指導をすることで、『自ら未来を切り拓く児童を育成する』ことができるだろう。		
研究の視点と指導の手だて		
【視点1 人間関係形成】 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫 ○全校児童から意見を収集する。 ○収集した全ての意見を大切に する。 ○メッセージボードを設置し、リーダー側とフロア側が思いを共有する。	【視点2 社会参画】 自らよりよい学校生活をつくらうとする力を育てる指導の工夫 ○児童の発意・発想を生かした自治的活動を保障する。 ○全校児童が関わりをもてる活動を企画・運営する。	【視点3 自己実現】 になりたい自分に向けてあきらめずに頑張る力を育てる指導の工夫 ○提案理由（＝活動の目的や意義）を深める。 ○委員会のめあてをもとに、個人のめあてを明確にする。 ※「異年齢集団活動の中で、『自分のなりたい姿』を目指して、全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと」を、児童会活動における「自己実現」と捉えた。
【よりよい児童会活動にするための手だて】 ・年度当初にオリエンテーションを実施する。 ・事前に、代表委員会活動や各委員会活動に向けて、話し合い活動の活動計画作成や準備（児童会計画委員会）を行う。 ・自分の意見やその根拠を明確にするために活動計画カードを活用する。 ・異年齢交流を図れる座席配置やグループ構成にする。 ・ICT 機器を活用した活動の振り返りを行う。 ・各学級における学級活動(1)の充実を図る。 ・教職員と児童会活動の特質や活動内容の共通理解を図る。		
児童会活動の活動過程（7つの場面）		
身に付けさせたい7つの力 ・全校のみんなと協働する力 ・全校のみんなの思いや考えを受け止める力 ・学校生活をよりよく工夫しようとする力 ・問題を見出して解決しようとする力 ・役割を意識して責任をもって遂行する力 ・めあてを意識して行動する力 ・活動を振り返り次に生かそうとする力	醸成させたい7つの気持ち ・みんなでやりとげたい気持ち ・みんなで活動して楽しかった気持ち ・みんなの役に立ちたい気持ち ・自分の所属する集団に責任をもとうとする気持ち ・みんなで話し合ってよかったと共感する気持ち ・安心して活動できる気持ち ・この集団にいてよかったと思う気持ち	

※研究の視点と直接関わりはないが、学校として児童会活動とは別に、日常生活の中で継続的に異年齢交流を行う活動（いわゆる縦割り班活動）を設定している場合には、そこで組織された異年齢集団を活用することも可能であることも指導した。

児童会活動部 研究主題 「自ら未来を切り拓く児童を育成する児童会活動」

(2) 研究主題設定の理由

児童会活動部では、「児童会活動における『自ら未来を切り拓く』とは何か」を考え、目指す児童像を設定した。全体研究主題の設定2年目となる今年度は、これまでの児童会活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を見直して、研究の成果を生かし、継続して指導していくことで目指す児童像の達成に向かう。

また、評価規準を見直し、指導の充実や、指導と評価の一体化を一層図っていくこと、年度当初のオリエンテーション等を通して、以下のことに留意し、汎化に向けての研究も深めていきたい。

- 児童の発意・発想を生かした活動の場を保障する。
- 「課題の発見」から「振り返り」までの一連の活動（学習過程）としてとらえる。
- 児童会の特質である「異年齢の人間関係」に焦点を当てる。
- 全教職員の児童会活動への理解と協力を得る。

そして、以下のように手だてを講じることで、全校児童がよりよい学校生活づくりに参画し、異年齢の人間関係を深め、活動の意義を達成することで自己実現を図っていけるようにした。

(3) 研究の視点

視点1「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

児童会活動において「みんなとともに」の「みんな」は、「全校児童」である。児童の発意・発想を生かした自治的活動を行いながら、上級生への「あこがれ」と下級生への「思いやり」をもたせていくことが、よりよい人間関係形成につながると考えた。

みんなの声 〈全校児童から意見を収集する〉

委員会活動では、活動の目的や意義を基にして、全校児童から意見を収集する。このことを通して、全校児童の思いを知り、学校全体のことを考えて活動していけるように指導する。また、全校児童が委員会の実践活動に対する意見や思いを交流できるように児童会活動メッセージボードを設置する。代表委員会と各委員会活動では、活動後の全校児童の声をカードに書いて、掲示して全校児童が閲覧できるように可視化することで、「あこがれ」と「思いやり」の気持ちを表出させる。

全てを大切に 〈収集した全ての意見を大切に〉

代表委員会活動では、全校児童から収集した一つ一つの意見を大切にしていくために、それらをどのように生かしていくかを以下のように考え、全校児童に伝えるように指導する。

全校児童の意見を大切にする7つの分類

- ・代表委員会でやるよ（全校児童と一緒に学校生活をつくっていく）
- ・他の委員会でやろう（児童会として各委員会の活動につなげていく）
- ・クラスでやろう（学級活動で提案して活動につなげる）
- ・休み時間にやろう（係活動で取り組んだり、友達同士で楽しんだりする）
- ・一人一人で行おう（全校児童では取り組めないようなときは、各個人で取り組んでみる）
- ・家でやろう（学校では取り組めないものは、家庭で取り組んでみることを勧める）
- ・みんなだけでは決められないよ（自治的活動の範囲を超えている場合は、指導する）

各委員会活動では、実践活動後に児童会活動メッセージボードに寄せられた全校児童からのメッセージを受け取り、称賛する内容は委員会児童への「あこがれ」として自己有用感を高めさせていく。また、活動への要望やアドバイスを基にして、今後の活動に反映していくことで、「下級生」への「思いやり」をもたせていくことにつながる。

視点2「自らよりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

児童会における「よりよい集団」とは、児童間（特に異年齢）の「あこがれ」や「思いやり」の気持ちが醸成される集団である。また、自らの発言や行動が、他者（下級生・上級生・同級生・教師）から認められることによって、自分自身の価値に気付き、自己有用感を高めていくことのできる集団であると考えた。児童会活動の特質である異年齢交流を通して、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを醸成させたり、自己有用感を高めたりすることが大切であると考えた。

自治的活動 〈児童の発意・発想を生かした自治的活動を保障する〉

よりよい集団をつくるためには、当番的な活動や学校行事に関わる活動に終始せず、児童の発意・発想を生かした活動に取り組むことが必要である。児童自身が活動をつくり上げていけるように指導する。

メッセージボード 〈リーダー側とフロア側の相互でよりよい学校生活づくり〉

実践活動後に、委員会の児童に対する全校児童や教師の声（「集会のよかったところ」「委員会へのお願い」）を児童会メッセージボードに掲示してもらい、委員会の児童が見ることで、自己有用感を高められるようにする。また、委員会へのお願いや、全校児童から収集した意見を取り入れて活動に生かすことで、委員会（リーダー側）と、参加する児童（フロア側）の双方でよりよい集団づくりができると考える。

視点3「なりたい自分に向けてあきらめずに頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）」

児童会活動における「自己実現」とは、異年齢集団活動の中で、その活動の目的や意義を理解し、全校のみんなのために活動を行うこと。また、それぞれの委員会のめあてを基に、自分のめあてを明確にもって実践活動に参画することである。そして、活動を振り返って、次の活動への思いをもってあきらめずに取り組むためにも児童の発意・発想と思いを生かした活動を行い、「なりたい自分」を目指そうとすることが、児童一人一人の自己実現につながっていくと考えた。

目的・意義の周知 〈提案理由（＝活動の目的や意義）を深める〉

「自己実現（なりたい自分になる）」を図るためには、活動の目的や意義となる提案理由の達成に向けて活動していくことが大切である。そこで、全校の現状（今）を踏まえて、どのように（手だて）、どうなっていきたいか（ゴール）を明確にして児童とともに提案理由を練り上げる。また、全校児童が活動の目的や意義を理解していないと、それを達成することは難しい。そこで、全校児童から意見を収集する際に提案理由を周知していくことや、事前に「〇〇委員会だより」を配布したり、各教室に出向いて活動の内容を説明したりする。また、各学級担任に協力を仰ぎ、集会の目的や意義を学級で説明してもらうようにする。実践活動では、集会の始めに、その活動の目的と意義を伝える。委員会の児童が自分の学級に所属する児童には、上級生としてのやりがいを伝えるようにも指導する。これらを繰り返して取り組むことで、全校児童のことを考えた活動につながると考える。

めあてと振り返り 〈活動への思いを明確にする〉

委員会のめあてを達成することは児童会活動部で定義した「自己実現」の一つと考える。そこで、委員会のめあてを基に設定した活動のめあて（提案理由＝活動の目的や意義）を明確にしていくことが大切である。また、活動後に、委員会のめあてについての振り返りを積み重ね、一年間を通して目的の達成に迫るようにした。さらに、実践活動にむけて、自分のめあてをもって活動に参画することを重視した。このことを通して、全校児童のために自分が何をすべきなのか活動への思いを明確にさせる。そうすることで、実践活動時には、自分のめあての達成感を感じることがしやすくなり、次の活動へも思いをもつことができ、自己実現につながると考えた。終わりには、教師が活動の価値づけをする。

よりよい児童会活動にするための手だて

7つの力・気持ちの明確化〈教員が指導する観点を明確にする〉

「発意・発想を生かした活動をしよう」とする思いを高めることで、児童自身がよりよい学校生活をつくりあげていけるようになると思う。そのため、「児童に身に付けさせたい力（7つの力）」を明確にして、指導にあたるのが大切である。また、「醸成させたい気持ち（7つの気持ち）」も明確にしていくことが次の活動への糧となる。さらに、この7つの力と気持ちは相互に関わり合って、高めていけるようにする。

2 実践事例

(1) 実践事例 1 葛飾区立川端小学校 代表委員会

① 日時、場所、対象、授業者

日時 令和7年10月2日(木) 場所 葛飾区立川端小学校

対象 全校児童 授業者 星野 俊明教諭 神原 美佳教諭

②活動名 代表委員会「学校かくれんぼをしよう」

③一連の活動の流れ

事前

活動日	活動内容	指導上の留意点
7月22日 中休み	・議題提案カードを分類、整理し、議題を選定する。	・7つの視点で分類する。(25ページ参照) ・児童会めあてに沿って決めるようにする。
9月12日 委員会	・推進委員会(児童会計画委員会)で提案理由を明確にしたり、話合いの活動計画書を作成したりする。	・全校のみんなで「学校かくれんぼ」をすることで、共通のゴールイメージをもつことができるようにする。
9月16日 朝休み	・全校児童へ、活動内容や、提案理由を報告する。	・全校児童が共通のゴールイメージをもつことができるようにする。
9月17日 中休み	・代表委員会活動に参加する児童に活動計画書を配布し、各学級や各委員会からの意見を収集する。	・代表委員会活動に出席しない児童の意見も反映できるようにする。
9月18日 朝休み	・下学年の学級から意見を収集する。	・代表委員会活動に出席しない児童の意見も反映できるようにする。
9月24日 中休み	・収集した意見を基に話合い活動の準備を進める。	・事前に収集した意見を基に、話合い活動や、児童会集会活動のイメージをもたせる。

本時

・議題『学校かくれんぼ』の計画を立てよう

・提案理由 今 : 他学年の人と話したり遊んだりすることが少ないから、
手だて: 他の学年の人とも協力して関わり、
ゴール: 全校のみんなと仲良くなるため。

・本議題について

7月に児童会のめあて「みんなが元気で笑顔で仲がいい、毎日が楽しい学校」を基に、全校児童に向けて、「みんなで楽しめるやりたいこと」を募集し、推進委員(児童会計画委員)で7つに分類した。「代表委員会で考えるね」に分類したものには「逃走中」と「学校かくれんぼ」があり、昨年度行った「逃走中」ではなく、まだやっていない「学校かくれんぼ」をやったほうが、全校児童が楽しめるのではないかと考え、本議題に選定された。

本校で行う「学校かくれんぼ」はどこかにかくれている人を見つけるかくれんぼとは異なり、人込みの中にいる、目印をつけた人(かくれる人)を探す活動である。目印をつけた人(かくれる人)は全校児童の希望をもとに、選定する。

・本時のねらい

全校のみんながもっと仲良くなれる工夫をしたり、協力して準備ができる計画を立てたりすることができる。

・本時の展開

児童の活動	指導上の留意点（○）と評価（★）
1. はじめの言葉 2. 司会グループの役割紹介 3. 議題の確認 4. 提案理由の確認 5. 決まっていることの確認	○目的を確認し、一人一人が自分事として捉えさせる。
6. 話し合い 話し合うこと① 「他の学年の人と協力したり、仲良くなったりするために工夫しよう」 話し合うこと② 「必要な役割を出し合い、分担しよう」	○児童の話し合いをできる限り見守る。 ○児童の <u>自治的活動の範囲を超えた</u> 場合、話し合いが混乱した場合は、その場で指導する。 【児童の自治的活動範囲を超える例】 ・個人情報やプライバシーの問題 ・相手を傷付けるような結果が予想される問題 ・教育課程の変更に関わる問題 ・校内のきまりや施設、設備の利用の変更等に関わる問題 ・金銭の徴収に関わる問題 ・健康、安全に関わる問題 ★全校児童のことを考えて意見を伝えている。 （よりよい生活を築くための知識・技能） ★提案理由の達成に向けて発想を広げている。 （集団や社会の形成者としての思考・判断・表現） ★全校児童のことを考えて、実践活動への見通しをもって話し合おうとしている。 （主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度）
7. 決めたことの確認 8. 先生の話 9. 振り返り 10. 終わりの言葉	○「①司会グループの労い②提案理由を意識した発言③全校児童のことを考えた建設的な発言④今後に向けて」について話す。 ○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的に称賛する。 ○実践に向けての意欲付けをする。

・話し合いの様子

本校の児童会活動のめあてである「みんなが元気で笑顔で仲がいい、毎日が楽しい学校」を達成するために「他の学年の人と協力したり、仲良くなったりするための工夫」について話し合うことにした。話し合うこと①は、事前に各学級から意見を集めた上で話し合った。一つ一つの意見に対して、賛成意見や反対意見、改善を含めた意見等、活発に話し合う姿が見られた。それぞれの意見を取り上げる際には、提案理由に立ち返ったり、全校児童のことを考えたりしながら、合意形成を図ることができた。話し合うこと②は、事前に各学級から意見を集めたり、話し合うこと①で決まった工夫から必要な役割を出し合ったりした。その後、全校児童で「学校かくれんぼ」を作り上げたいという児童の思いから、各委員会や各学級で役割を分担し、全校児童がそれぞれの役割を担えるようにした。

事後

活動日	活動内容
10月 3日 (金)	・代表委員会で決まったことを全校児童に報告する準備をする。
10月 6日 (月)	・全校朝会にて、決まったことを全校児童に報告する。
10月 7日 (火) ～	・決まった計画にそって準備をする。
10月 31日 (金)	・「学校かくれんぼ」実践
11月 4日 (火)	・実践の振り返りをする。

実践活動に向けて、「かくれたい人の募集」を広報委員、「活動グループの編成」を推進委員（児童会計画委員）、「ルール説明」を集会委員、「活動中のアナウンスの台本作り」を放送委員、「危ない場所にテープを貼る」を環境整備委員と保健委員、3・4年生、「宝・活動参加特典作り」を1・2・5・6年生が担当し、準備を進めた。



(危ない場所にテープを貼る)



(宝づくり)



(かくれたい人の募集)

【活動の様子】

「学校かくれんぼ」は、4年生の「初めの言葉」から始まった。「学校かくれんぼ」は他の学年の人とグループで活動した。グループで自己紹介をしたり、手をつないで移動したりする工夫をすることで、提案理由「他の学年の人とも協力して関わり、全校のみんなと仲良くなるため。」に近づくことができた。活動終盤には全校児童で「大きなひとつの輪」を作ったり、活動終了後に「学校かくれんぼ参加特典」を全校児童に配布したりすることで、「全校児童で協働する力」や「学校生活をよりよく工夫しようとする力」が身に付いた。



(はじめの言葉)



(自己紹介)



(学校かくれんぼの様子)



(大きな輪)



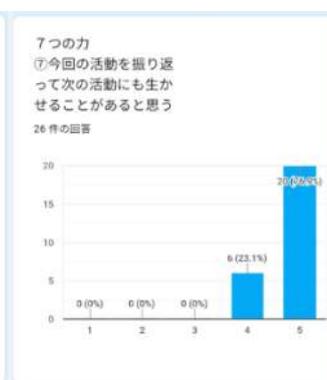
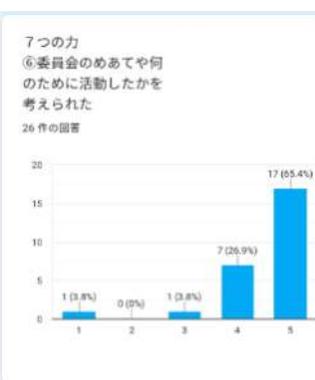
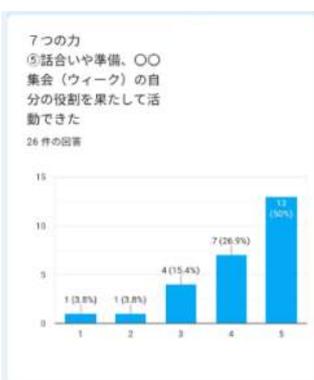
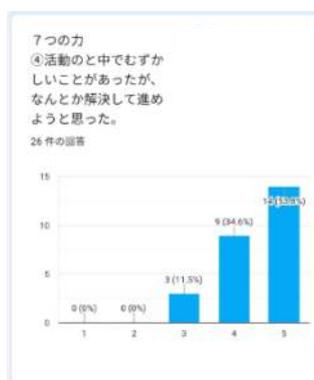
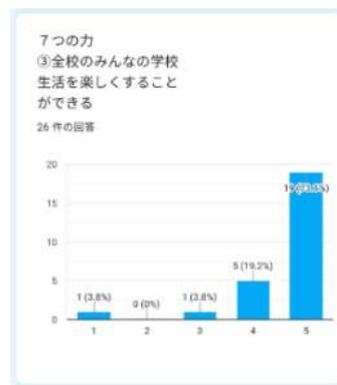
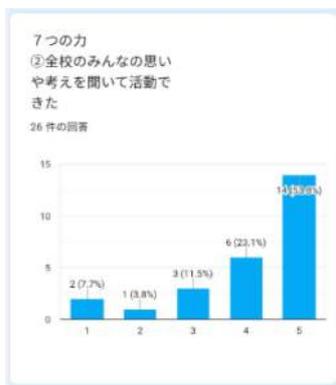
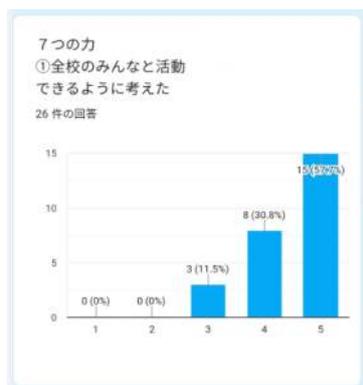
(メッセージボード)



(参加特典配布)

【活動を終えて】

《代表委員会の児童の振り返り》



《参加した児童の振り返り》

- ・迷子にならないように手をつないでくれてありがとう。(1年生)
- ・6年生、宝を作ってくれてありがとう。(1年生)
- ・放送してくれてありがとう。(2年生)
- ・グループのリーダーをしてくれてありがとう。学校かくれんぼ楽しかったよ。(2年生)
- ・みんなの安全のためにテープを貼ってくれてありがとう。(2年生)
- ・私たちに「どこに行きたい?」と言ってくれてうれしかったです。(3年生)
- ・2年生のみなさん、折り紙を折ってくれてありがとう。一生大切にします。(3年生)
- ・かくれんぼ中に放送や企画をしてくれてありがとう。(3年生)
- ・みんながいろんなところに行こうとしているのを止めてくれてありがとう。(4年生)
- ・離れてしまった時に待っていてくれてありがとう。私も6年生になった時にこんな6年生になりたいです。(4年生)
- ・全学年のみんながかくれんぼの準備をしてくれたり、景品を作ったりしてくれてありがとう。(5年生)
- ・同じ折り紙の景品担当で、一緒に作ってくれてありがとう。(5年生)
- ・僕たちをひっぱってくれてありがとうございます。(6年生)
- ・5年生、1年生と手をつないでくれてありがとう。次は6年生としてがんばって。(6年生)

④視点1～3の手だての検証・成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童から、「全校でどんな活動に取り組みたいか」という意見を収集した。収集した全ての意見を大切にするため、それらを分類し、どのように生かしていくかを児童会集会活動（朝の時間）で全校児童に周知した。その結果、一人一人の意見が反映されたという実感が全校児童に広がり、活動への参画意欲が高まるとともに、互いを大切にする態度の育成につながった。

視点2 自らよりよい学校生活をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

全校児童が児童会活動に対する思いや願いを交流できるように、児童会活動メッセージボード（児童会ニコニコボード）を設置し、実践活動後の全校児童の声（「たのしかった」「すごかった」「うれしかった」「ありがとう」「がんばったね」など）を可視化した。全校児童が自由にカードに記入し閲覧できるようにすることで、上級生への「あこがれ」と、下級生への「思いやり」の気持ちを出表できるようにした。また、代表委員に活動の目的や意義、参加の仕方を自分の学級に伝えるよう指導し、下学年の学級には、担任を通して周知した。その結果、児童も教師も児童会活動への関心が高まり、よりよい学校生活をつくろうとする意欲の向上につながった。

視点3 なりたい自分に向けてあきらめずに頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

提案理由が明確になるように指導した。具体的には、「全校の現状（今）」を踏まえて、「何をして（方法）」、「どうなりたいか（ゴール）」を明確にした。児童とともに提案理由を練り上げることを通して、合意形成の指針となるようにした。その結果、話合いが焦点化され、活動の深まりが見られた。また、児童が提案理由を意識して実践に取り組み、「なりたい自分」や「よりよい学校生活」の実現につながった。

⑤講師紹介、指導講評

世田谷区教育委員会 支援教育課教育支援嘱託員 元本会会長 石田 孝士 先生

- ・代表委員会は、全校児童の意見をもとに活動するものであり、高学年のみの活動ではない。今回は1年生の提案が議題となり、全校での活動につながった。
- ・代表委員会は、各委員会をつなぐ調整的な役割を担うとともに、役割分担と協働によって全校的な活動を生み出す。
- ・代表委員会の実施方法は学校の実態に応じて工夫するが、学習指導要領解説では、代表委員会と各委員会を並行して実施することを避けるように示されている。
- ・話合い活動の基盤は学級活動(1)にあり、代表委員会を児童会総会の縮小版として位置付けることで、各委員会同士が関連を図ることができる全校的な活動を行いやすくなる。
- ・児童会活動は児童主体の自治的活動であり、代表委員会は、全校が関わる集会活動の基盤となる。
- ・児童会活動はキャリア教育の中心となり得るもので、高学年の思いやりと低学年のあこがれによる人間関係の循環を生み出す。
- ・年度当初には、児童向けだけでなく、教職員向けにも特別活動のオリエンテーションを行い、共通理解を図ることが重要である。
- ・高学年の振り返りは、メタ認知を育て、自己制御力や自己指導力を高める機会となる。
- ・授業では、板書の整理、終末での価値付け、児童の反応を捉える場面を大切にする。
- ・全校での活動においては、「多くの人と広く関わる」か「少人数と深く関わる」か、活動の軸を意識する必要がある。

代表委員会

今日の課題	学校がくれんぽの計画を立てよう
提案理由	他の学年の人とも協力し関わり、「イ中良く」交るため。
役割分担	司会 黒板 記録 ノート 記録
活動の順序	<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめの言葉 2.司会グループの役割紹介 3.議題の確認 4.提案理由の確認 5.決まっていることの確認 6.話し合い ①他の学年と協力したり、仲良くなるためによろ。 ②必要な役割を出し合い、分担しよう。 <ol style="list-style-type: none"> 7.決めたことの確認 (ノート記録) 8.終わりの言葉 9.先生の話 ・振り返り記入 ・友達によかったところを発表 10.終わりの言葉

年組氏名 ()

原案	① 1~6年のグループで行動する。など	話し合い前 ⇒ 夫や役割を 考えきって下さい。	みんなへのお知らせとお願い
話し合いで意識すること	② ながくれる人や探入を放送する。など	話し合い中 ⇒ 低学年のよ中 提案理由を 考えて話し合いを	
自分の意見			
自分ががんばったところ	友にがんばりたいこと		
友達によかったところ (誰のどんなところ?)			

(2) 実践事例2 世田谷区立芦花小学校 放送委員会

①日時、場所、対象、授業者

日時 令和7年11月10日(月) 場所 世田谷区立芦花小学校
 対象 全校児童 授業者 佐藤 あかね 足利 貴士

②活動名 放送委員会「音楽会ウィークをしよう」

③一連の活動の流れ

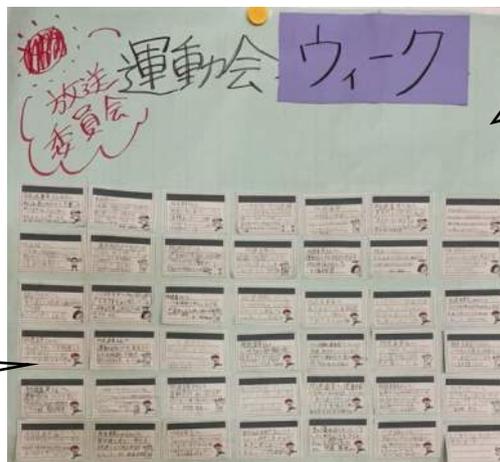
事前

活動日	活動内容	指導上の留意点
11月4日 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 司会グループで集まり、役割分担を行う。議題・提案理由(活動の目的や意義)を具体的かつ明確にする。 活動計画書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的や意義を共通理解した上で、話し合い活動を円滑に進めることができるように計画する。
11月5日 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 放送委員会全員に活動計画書の内容を提示し、本時の活動内容を確認する。 話し合うこと①「内容を決める」について、事前に自分の意見を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は、内容のみを決めればよいこととし、方法については各班で決めてよいこととする。音楽の先生や1・2年生へのインタビューも可能とする。
11月6日 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 司会グループで話し合いの流れを確認し、各自の考えを分類・整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見どころ、曲目、似ているものを近くに貼ることを確認する。

全校児童へ「放送委員会への感想などをカードに書いて貼ってください。」とお願いしました。

集まった感想

冬ウィークをやってほしいです。



歌を流してくれたとき、全校のみんなが歌っている感じがして嬉しかった

音楽会ウィークをしてほしいです。

本時

・議題「音楽会ウィークの計画を立てよう」

・提案理由

今 : 音楽会のことをみんなに聞いてもらいたい。

※ 指導で引き出したい言葉「各学年がどんな演奏をするのが分からないから」

方法 : 普段と違う方法でみんなの心をつかみ、

※ 指導で引き出したい言葉「各学年のよさが伝わるような放送をして」

ゴール : 音楽会が楽しみになるようにしたいから。

※指導で引き出したい言葉「全校のみんなが音楽会を楽しく迎えられるように」

・本議題について

1学期の最初に、5・6年生全体で委員会活動の意義や委員会の活動の流れを伝えるオリエンテーションを行った。放送委員会では、そのオリエンテーションを受けて、「一人一人の心に残るような全校が楽しめる放送をする」というめあてを決めた。給食のいいところを給食委員会が各クラスから集めたときに「放送が楽しい」という感想が低学年から寄せられた。日々の放送も1年生がクイズを楽しんでいる様子を知り、もっと聞き手を楽しませたいという気持ちが生まれたことから話合いの計画を立てた。運動会の週には、「運動会ウィーク」を実施した。応援団長や各学年にインタビューをした。その後、芦花っ子ボードに全校児童から感想をもらった。その中に、「音楽会ウィークをしてほしい。」という内容があったため、今回は「音楽会ウィーク」について話し合うこととした。

・本時のねらい

提案理由に沿って話し合い、相手意識をもって合意形成を図る。日々の活動やこれまで行ってきた活動（「65周年バースデーウィーク」「運動会ウィーク」）を基によりよい活動になるようにする。

・本時の展開

児童の活動	指導上の留意点 (○) と評価 (★)
1 はじめの言葉 2 司会グループの役割紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認	○目的を確認し、一人一人に自分事として捉えさせる。 ○事前に放送の期間をカレンダーで示して共通理解しておく。
6 話合い 話し合うこと① 「どんな内容にするか決めよう」 話し合うこと② 「役割分担をしよう」	○児童の話合いをできる限り見守る。 ○児童の自治的活動の範囲を超えた場合、話合いが混乱した場合は、その場で指導する。 【児童の自治的活動範囲を超える例】 ・個人情報やプライバシーの問題 ・相手を傷付けるような結果が予想される問題 ・教育課程の変更に関わる問題 ・校内のきまりや施設、設備の利用の変更等に関わる問題 ・金銭の徴収に関わる問題 ・健康、安全に関わる問題 ★全校児童のことを考えて意見を伝えている。 （よりよい生活を築くための知識・技能） ★提案理由の達成に向けて発想を広げている。 （集団や社会の形成者としての思考・判断・表現） ★全校児童のことを考えて、実践活動への見通しをもって話し合おうとしている。 （主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度） ○手段は事前に示しておき、放送内容について話し合うように助言する。

7 決めたことの確認 8 先生の話 9 振り返り 10 終わりの言葉	<p>○「①司会グループへの労い②提案理由を意識した発言③全校児童のことを考えた建設的な発言④今後に向けて」について話す。</p> <p>○担当で話すことを決めておく。</p> <p>○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的に称賛する。</p> <p>○実践に向けての意欲づけをする。</p>
---	---

・話し合い活動の様子

話し合うこと①では、各学年の意気込みや見どころを紹介することについての意見に賛成が多く集まった。意見を比べ合う活動から話し合うことにより、一人一人が意見や理由を述べることができた。

話し合うこと②では、何曜日がどの内容を担当するかを決める際、同じグループの5・6年生ですぐに話し合い、希望が重なったときにはグループ同士でも話し合うことができた。

【事後】

活動日	活動内容
11月11日～11月21日	・音楽会ウィークの原稿を作成する。 必要なグループはインタビューや練習を行う。
11月25日～12月5日	・音楽会ウィークの放送を実施する。
12月8日 昼休み	・実践の振り返りをする。
12月25日 中休み	・7つの力に関する振り返りをICTを用いて行う。

【放送の様子】

放送委員会の児童が、各学年に意気込みや見どころをインタビューしたことで、全校児童が自分の学年が呼ばれることを楽しみにする姿が見られた。放送を聞きながら他の学年の歌を歌ったり、どんな曲を演奏するか知ったりすることで、他学年との繋がりが生まれた。振り返りでは、アンケートやインタビューをすることにより、より全校を巻き込めたのではないかという意見が出た。低学年が自分たちのことを放送で紹介してくれることを喜んでいることを知り、もっと全校の意見を取り入れた活動をしたいという思いが芽生えた。



④視点1～3の手だての検証・成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

児童会活動において、「みんなとともに」の「みんな」は「全校児童」であり、よりよい人間関係とは、「他の学年と人間関係を豊かにする」ことであると考えた。そのため、放送の内容を決める話合いでは、「全校のみんなが聞きたくなる」ことを大切にするよう助言した。放送委員の児童が、給食中に各教室での児童の様子を確認した結果、放送を十分に聞いていない実態が分かった。そこで、全校児童に放送してほしい内容をインタビューして取り入れるなど、放送をより楽しく聞いてもらう工夫をした。「音楽会ウィーク」の話合いでは、「全校児童が自分の学年以外の発表にも興味をもち、音楽会が楽しみになるような活動」にするための発言が増え、委員会のめあてを意識する様子が見られた。全校のみんなを楽しませるという視点をもつことで、お互いの人間関係を豊かにしていこうという意識が高まった。その結果、一人一人の意見が反映されたという実感が全校児童に広がり、活動への参画意欲が高まるとともに、互いを大切にする態度の育成につながった。

視点2 自らよりよい学校生活をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

「よりよい集団」とは、児童同士（特に異年齢）の「あこがれ」や「思いやり」の気持ちが醸成される集団である。そこで、全校児童が児童会活動に対する思いや願いを交流できるように、児童会活動メッセージボード「芦花っ子ボード」を設置し、掲示したものを全校児童が閲覧できるようにすることで、上級生への「あこがれ」と、下級生への「思いやり」の気持ちを表出できるようにした。「芦花っ子ボード」に書かれていた放送への感想やもっとこうして欲しいという思いを受け止め、次の活動に生かそうとする姿が見られた。

視点3 なりたい自分に向けてあきらめずに頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

「音楽会ウィーク」では、番組の冒頭に活動の目的や意義を説明し、各学年の演奏内容や意気込みを紹介した。その結果、放送中に他の学年の歌を口ずさむ児童の姿も見られるなど、音楽会を楽しみにする様子が見られた。ICT機器を活用し、定期的に活動の振り返りを積み重ね、全校児童からの感想をもらうことで、7つの気持ちが醸成されたと実感することができた。

⑤講師紹介、指導講評

有明教育芸術短期大学 副学長 元本会会長 長田 信彦 先生

- ・お互いを名前で呼び合うことは、人間関係を深める第一歩である。所属委員会内では、名前で呼び合うことが重要である。人数が多い場合は名札を作ったり、委員会の数を増やして各委員会の所属児童数を減らしたりする工夫が必要である。
- ・上級生への「あこがれ」や下級生への「思いやり」を醸成するためには、メッセージボード等を使った可視化はとても有効的である。
- ・児童一人一人が目標やめあては決めるが、自己実現につながる「なりたい自分」という事をもっと考えさせた方が良い。
- ・今回の放送委員会の実践活動期間は1週間と設定されていたが、「音楽会を盛り上げる」ためには、2週間くらいは確保した方がよい。
- ・低学年から楽しいという一言をもらったら、放送委員会からも返事を返すような双方向の活動が重要である。
- ・委員会活動は、異なる学級のメンバーで構成されているため、話合い活動も様々な形で指導されている。そのため、話合い活動に対する全員のイメージが同じであるか共有する必要がある。

⑥指導に使ったワークシート

第 回	活動計画 11月10日(月) 6時間目	
議題	音楽会ワークの計画を立てよう。	
提案理由		
役割分担	司会	黒板記録
	司会	ノート記録
決まっていること	12月～1/5頃まで	
話合いのめあて	全員が意見を言って話し合いに決まらそう。	
話合いの流れ(時間)	気をつけること	準備
1. 始めの言葉、出欠	<p>今、音楽会のことをみんなに聞いてもらいたいから 何もない、だましちがう方法でみんなの心をつかみ ゴール:音楽会が楽しみになるようにしたいから</p>	14:35～
2. 計画委員会の紹介		
3. 議題の確認		6分
4. 提案理由の確認		
5. 話合いのめあての確認		14:41
6. 話合い		14:41～
柱1 (分) 内容を決める	<p>クイズインタビューは方法だからその場所に いつもめ しちがうことばでみんなの 反対も選ぶ、なら賛成の意見を言う、 内容の数3～5個</p>	14分
柱2 (分) 各曜日 がどれをやるか	<p>決めた内容は必ずやる (早く決まらたら...) 内容と方法を共有 原こうまかく</p>	<p>～14:55 14:55～ 19分</p>
7. 決まったことの確認		15:14～
8. 振り返り		15:14～
9. 先生の話		6分
10. 終わりの言葉		～15:20

3 成果と課題

(1) 成果

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

メッセージボードを活用し、上級生への「あこがれ」と下級生への「思いやり」をもたせていくことが、よりよい人間関係形成につながった。

視点2 自らよりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

年度当初のオリエンテーションを大切にすることや、児童の発意・発想を生かした自治的活動の場を保障することで、「全校のみんなのために」という活動の目的や意義の達成につながった。

メッセージボードを活用し積み重ねていくことで、フロア側の「もっとこうしてほしい」という思いをリーダー側が受け止め、「次はもっとこうしてみよう」という思いにつなげていくことができた。

視点3 なりたい自分に向けてあきらめずに頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

委員会のめあてをもとに個人のめあてを明確にすることが一人一人の「自己実現」につながった。また、メッセージボードを活用することで、リーダー側の自己有用感が高まることにつながった。

(2) 課題

視点1 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童から収集し分類・整理した意見を全校児童に伝えることで、児童会活動の目的や意義を共通理解していけるように、継続して指導を進めていくことが大切である。児童会のめあてを達成するための活動を積み重ねていくことが必要である。

視点2 自らよりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

基本的な代表委員会活動や委員会活動の在り方（「児童の発意・発想を生かした自治的活動」の場を保障すること、「計画」から「振り返り」までの活動を一連の活動として捉えること）及び、活動に関する教員間の共通理解の更なる見直しを、より多くの学校に広めていく。

視点3 なりたい自分にあきらめずに頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

教師の関わり方が、児童の「発意・発想を生かした活動をしよう」とする意欲につながる。児童に身に付けさせたい力を指導するにあたり、教師の適切な評価が重要になってくる。今後は、児童会活動の特質に合わせた評価の観点をより明確にしていきたい。

(3) 各活動・学校行事との関連

異年齢集団による話合いの場では、学級活動（1）での手法が生かされる。児童が所属する各学級での学級会の積み重ねを大事にしていきたい。

また、クラブ活動においても、メッセージボードを活用し可視化することで、自己肯定感が高まり、よりよい人間関係の形成につながることが確認された。

研究に携わった人

部長	洪井 洋子	東久留米・神宝小	久保田 晃司	昭島・つつじが丘小
副部長	星野 良明	足立・東渕江小	満山 寿子	北・赤羽小
〃	大藏 久美	小平・小平第三小	柴崎 千陽	三鷹・北野小
〃	尾形 俊亮	調布・調和小	矢野 雅子	杉並・桃井第三小
〃	丹治 良太	中央・月島第一小	島田 和崇	調布・柏野小
会計	佐藤あかね	世田谷・芦花小	菊池 友也	新宿・戸塚第三小
〃	清水 斐	江東・豊洲小	川崎 真琴	青梅・第五小
授業者	星野 俊明	葛飾・川端小	竹原 典子	北・滝野川第四小
〃	神原 美佳	葛飾・川端小	伊藤 仁美	小平・小平第三小
〃	足利 貴士	世田谷・芦花小	鈴木 敬太	江戸川・春江小
	赤松 栄介	江東・枝川小	齋藤 裕伍	葛飾・川端小
	関田 裕子	世田谷・芦花小	田中 映輝	葛飾・川端小
	慶山 絢香	世田谷・芦花小	稲垣 大吾	葛飾・川端小
	久良木 優有	杉並・八成小	酒井明香里	江戸川・北小岩小
	松川 浩美	多摩・貝取小	高宮 良子	元部長
	菊地 佑太	小金井・東小	味村美恵子	元部長

Ⅲ クラブ活動部

研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成するクラブ活動」

1	本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
	(1) 研究構想図	
	(2) 研究主題設定の理由	
	(3) 研究の視点	
2	実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	44
	(1) 実践事例1 大田区立徳持小学校「ダンスクラブ」	
	(2) 実践事例2 国分寺市立第四小学校「四小ギネスクラブ」	
3	成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55

研究の経過

令和7年	6月 9日 (月)	定期総会	練馬区立豊玉小学校
令和7年	7月 7日 (月)	事前授業・第1回クラブ活動部会	大田区立徳持小学校
令和7年	7月 15日 (火)	第2回クラブ活動部会	練馬区立大泉南小学校
令和7年	7月 30日 (水)	夏季集中研修	練馬区立豊玉小学校
令和7年	9月 17日 (水)	事前授業・第3回クラブ活動部会	国分寺市立第四小学校
令和7年	9月 29日 (月)	検証授業	大田区立徳持小学校
令和7年	10月 15日 (水)	検証授業	国分寺市立第四小学校
令和8年	1月 8日 (木)	第4回クラブ活動部会	オンライン
令和8年	1月～2月	研究発表大会準備	
令和8年	2月 20日 (金)	研究発表大会	練馬区立豊玉小学校

1 本年度の研究について

(1) 研究構想図

社会背景 ・不安定で不確実な時代 ・価値観の多様化	特別活動で育成すべき資質・能力 3つの視点 ○人間関係形成 ○社会参画 ○自己実現	児童の実態 ・いじめ・不登校の増加 ・課題解決への意欲が低い
--	---	---

研究主題 「自ら未来を切り拓く児童を育成するクラブ活動」
--

目指す児童像
①学年や学級が異なる同好の仲間とよさを見付け認め合い、自ら関わろうとする児童 (人間関係形成)
②よりよいクラブ活動に向けた課題を見だし、その解決に向けて、すすんで役割を果たそうとする児童 (社会参画)
③身に付けたい力やなりたい自分に向けて、個性を發揮しながら粘り強く取り組もうとする児童 (自己実現)

研究仮説	互いのよさを認め合い自ら関わったり、課題解決に向けてすすんで役割を果たしたり、個性を發揮しながら粘り強く取り組んだりする力を高められるよう手だてを講じることで、自ら未来を切り拓く児童を育成することができるだろう。
-------------	--

研究の視点と指導の手だて

視点1 互いのよさを認め合い、自ら関わる力を育てる指導の工夫 (人間関係形成)	視点2 課題解決に向けてすすんで役割を果たす力を育てる指導の工夫 (社会参画)	視点3 個性を發揮しながら粘り強く取り組む力を育てる指導の工夫 (自己実現)
○めあての決定と可視化 ○クラブ通信の発行 ○よさを認め合うための工夫	○クラブ全体の目標の決定 ○活動計画カードの活用 ○終末の助言の工夫 ○情報提供	○めあての決定 ○クラブカードの活用 ○自分の成長を振り返る時間の設定 ○児童理解を深めるための記録物の活用

【クラブの成長を振り返る時間の設定】
計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していく。

【情報共有ソフト・電子ホワイトボードの活用】
・活動中に見られた自他のよさや振り返りの場面で伝えられなかったものも、共有できるようにする。 ・計画を立てる際の児童との連絡ツールとして活用したり、完成した活動計画カードを事前に共有したりする。 ・自他のよさや頑張りを次回の活動のめあてに生かせるようにする。

よりよいクラブ活動を展開していくための一連の指導の手だて (時系列)	
クラブ活動の設置・所属 計画や運営についての説明 計画や運営方針の話合い・決定	(1) 児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定を行う。 (2) オリエンテーションを行う。 (3) 自分たちのクラブの目標を作るよう指導する。 (4) 計画委員会を開く。(5) 異年齢小グループで活動するよう指導する。 (6) クラブカードを活用する。(7) 終末の助言を工夫する。 (8) 成果の発表の場を設ける。 (9) 一年間の成長や全体の成果を振り返る。
クラブを楽しむ活動 クラブの成果の発表 学期・年度末の振り返り	

【クラブ活動部の活動の流れ】



クラブ活動部 研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成するクラブ活動」

(2) 研究主題設定の理由

クラブ活動の目標は、同好の仲間と共通の興味・関心を追求する中で、異年齢集団活動の楽しさを味わい、自分たちの手で活動をつくり出す力や、人間関係をよりよく構築するための思考力、互いの個性を生かし協力しようとする態度といった資質・能力を育てることである。その過程において、児童が自他のよさや努力を認め合いながら課題に気づき、解決に向けて取り組むことで、自分のよさや可能性を将来にわたって追求しようとする態度を育むとともに、自己肯定感や自己有用感の高まりが期待される。

新たな研究主題となり、1年目の昨年度は、研究主題を受け、クラブ活動部では目指す児童像を「学年や学級が異なる同好の仲間とよさを見付け認め合い、自ら関わろうとする児童（人間関係形成）」「よりよいクラブ活動に向けた課題を見だし、その解決に向けて、すすんで役割を果たそうとする児童（社会参画）」「身に付けたい力やなりたい自分に向けて、個性を發揮しながら粘り強く取り組もうとする児童（自己実現）」とし、これまで積み重ねてきた手だてを基に取り組んできた。

「自ら」では、クラブの目標を基に、どのようなことを頑張りたいのか、どのような成長をしたいのかを一人一人が決めて毎回の活動後に、自分のめあてを振り返る活動を行うことで、学期や前期などの振り返り際に自分の成長に気付かせることができた。また、クラブ全体の成長や課題についても一人一人が実感することができ、意欲の向上にもつながった。

「未来を切り拓く」では、クラブの目標と前回の活動の課題を解決するためのめあてを決める取組を積み重ねることで、みんなの力でクラブ活動をつくり上げる楽しさや大切さを感じながら、一人一人が役割を自覚して取り組むことができた。また、児童間のよいところを見付け、自他のよさや頑張りを振り返りで伝え合うことで、異年齢の児童のよいところをお互いに認め合うとする土壌ができ、人間関係形成にもつながったなどの成果が見られた。

研究主題2年目となった今年度は、これまでの研究の手だてを整理しつつICTの一層の活用などの新たな取組にもチャレンジし、「自ら未来を切り拓く児童の育成」において、より効果的な指導や一般化を図る指導に向け、改善を図っていく。

(3) 研究の視点

クラブ活動における「自ら未来を切り拓く児童」について、特別活動で育成すべき資質・能力3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」ごとに視点を定めた。

視点1「互いのよさを認め合い、自ら関わる力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

「人間関係形成」では、学年や学級の枠を超えた同好の児童が自治的に組織したクラブにおいて、互いのよさを認め合い、自ら関わる力を育成することで「自ら未来を切り拓く児童」を育成できると考える。

○可視化〈めあての決定と可視化〉

- ・個人のめあてを伝え合い、互いに意識できるようにする。

○クラブカード〈よさを認め合うための工夫〉

- ・友達のよさや頑張りをカードに記入し、振り返りの場面で伝え合う。

○クラブ通信の発行〈振り返りの積み重ね〉

- ・教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ、児童に配布する。

視点2「課題解決に向けてすすんで役割を果たす力を育てる指導の工夫（社会参画）」

「社会参画」では、クラブ全体の目標の達成に向けて活動していく中や異年齢小グループの輪番で司会グループの役割を果たす中で、課題解決に向けてすすんで役割を果たす力を高め、「自ら未来を切り拓く児童」を育成できると考える。

○クラブ全体の目標の決定

- ・同好の仲間と活動を作り上げていくために、一人一人の思いを生かした目標を決める。
- ・視点1、2、3とクラブ全体の目標を関連付けて決められるようにする。
- ・目標を意識して活動できるようにするために、毎回掲示し、目標が達成できているかどうかを適宜問い掛ける。

○活動計画カードの活用

- ・自分たちの力で計画し、活動をつくり上げるために、司会グループで役割を分担したり活動のポイントになるところを相談したりする。

○終末の助言の工夫

- ・目標やめあてを意識して活動できたこと、全体の成長に気付いたことを取り上げ称賛する。また、クラブ全体の課題について伝え、よりよい活動にしていけるようにする。

○情報提供

- ・教師の見通しのもと、活動が広がるように情報提供したり助言したりする。

視点3「個性を発揮しながら粘り強く取り組む力を育てる指導の工夫（自己実現）」

「自己実現」では、一人一人の児童がクラブ活動を通して、身に付けたい力やなりたい自分を設定し、定期的に振り返りながら、目標やめあての達成のために、個性を発揮し、粘り強く取り組む力を育成することで、「自ら未来を切り拓く児童」を育成できると考える。

○めあての決定

- ・クラブ全体の目標を達成するために、毎時間、一人一人が何を頑張るのかを考え、めあてを決められるようにする。

○クラブカードの活用

- ・クラブカードの振り返りの記述から、自他の成長に気付いていることを取り上げ、個々に認め称賛したり、全体で紹介したりすることを積み重ねる。

○振り返りの時間の設定〈自分の成長を振り返る時間の設定〉

- ・学期末に、それまでの活動や自分の成長について、短作文を書く時間を設定する。
- ・短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言し、児童が自分のよさや可能性に気付けるようにする。

○記録物〈児童理解を深めるための記録物の活用〉

- ・毎時間の活動では、一人一人の活動の様子を観察し記録を取る。
- ・児童の思いや活動への期待などを把握できるように、記録物や短作文などをまとめる。
- ・記録などから児童の実態を把握し、児童の思いが生かされるよう適切に指導・助言を行う。

3つの視点全てにかかわる指導の工夫

○クラブの成長を振り返る時間の設定

計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していく。

- ・児童間のよいところ見付けの視点を広げることができるようにする。（視点1）
- ・より楽しく豊かな活動をしていくことができるようにする。（視点2）
- ・次回のめあてを決め、達成を目指した活動ができるようにする（視点3）

○情報共有ソフト・電子ホワイトボードの活用

- ・活動中に見られた自他のよさや振り返りの場面で伝えられなかったものも、共有できるようにする。（視点1）
- ・計画を立てる際の児童との連絡ツールとして活用したり、完成した活動計画カードを事前に共有したりする。（視点2）
- ・自他のよさや頑張りを次回の活動のめあてに生かせるようにする。（視点3）

2 実践事例

(1) 実践事例1 大田区立徳持小学校「ダンスクラブ」

① 日時、場所、対象、指導者

授業日：令和7年9月29日(月)

場 所：大田区立徳持小学校 4年1組教室

対 象：4年8名 5年6名 6年15名 計29名

指導者：藤井 芳子主任教諭・前田 璃子教諭

② 内容

< 1学期の活動 >

第1回のクラブ活動では、クラブ活動の特質や本校で大切にしていることなどを伝えるオリエンテーションを行い、役割分担を行った。その後、ダンスクラブの目標を決めた。クラブの目標を決めるにあたり、どんなクラブにしたいかを聞き、全員の思いが入るように以下のように決定した。

ダンスクラブの目標

- ①自分たちの力で進めて（社会参画）
- ②学年関係なく楽しくダンスをおどって（自己実現）
- ③きずなを深めるクラブ（人間関係形成）

第2回に向けた計画委員会を行い、クラブ長・副クラブ長・記録の児童で、ダンスクラブの目標を達成するために、4・5・6年生のどの学年も入る6グループ（司会グループ）を決めた。第1回で出した「ダンスクラブでしたい活動」の中から話し合い、全員で決めた活動を年間活動計画表に割り当て、第2回の活動計画を立てた。クラブ後の時間と休み時間に計画を立て、活動計画カードを作成し、事前に活動内容が分かるようにした。

第2回は異年齢小グループでの仲を深めるため、きずなを深めるゲーム、グループ名を決める活動を行った。

第3回からは、司会グループごとの輪番制で司会進行をすることになった。全員で踊る曲を決め、踊るチームを決めた。

第4・5回の活動では、チームごとに踊る練習、進行状況の確認のためのリーダー会議を行った。

第6回の活動では、2学期に控えているクラブ発表会に向けてのリハーサルと、1学期の振り返りを行った。

1学期の活動を積み重ねてきたことにより、6年生を中心に司会進行や仲間への言葉掛けを行う姿が見られるようになった。また、1学期の振り返りから、自分たちの力でチームの練習を進める

令和7年度 クラブ活動計画

回	日程	活動内容
1	司会グループ 4月21日	自己紹介 三役(クラブ長①、副クラブ長②、記録③)選出 活動計画立案 めあての策
2	三役 4月28日	仲良く遊ぶゲーム ①チーム発表 クラブ ②チームと曲しようか、めあての発表 ③曲を決めるゲーム 曲決め
3	A 6月9日	曲決めう曲ごとのチーム決め おどる
4	B 6月16日	チーム練習
5	C 7月7日	チーム練習 発表の流れの練習 すみぐいかくにん
6	D 7月14日	活動の反省(個人カード)の記入 リハーサル 発表会 9/25(木)、26(金)中休み
7	E 9月29日	うさぎ よここ3名位えあ めいしいゲーム 交流
8	F 11月17日	この発表に向けて チームを考える (おどろか曲?)
9	A 12月8日	ダンス練習?
10	B 12月15日	活動の反省(個人カード)の記入
11	C 1月19日	クラブ見学 交流ゲーム クラブのせつめい
12	D 1月26日	クラブ発表の計画/作成 クラブ発表(展示)作成締切(2・28)
13	E 2月10日	クラブ発表の計画/作成
14	F 2月16日	クラブ発表の計画/作成 発表会 3/5(木)、3/6(金)
15	二校 3月9日	活動の反省(個人カード)の記入

ことができるようになってきたことや、ダンスを介して異年齢での関わりが深まってきたことが分かった。初回到クラブ活動のオリエンテーションを行ったことで、クラブ活動は「異年齢で協力し」「共通の興味・関心を追求し」「集団活動の計画を立て」「自主的・実践的に取り組む」ことで「個性の伸長を図る」ものであることを理解し、自分の一年間の目標に取り入れる児童もいた。徐々に自分たちの力で協力して活動を進めることができるようになってきた。

< 2学期の活動 >

2学期に入り、一週間前から休み時間に舞台上で練習する計画を立てた。また司会や盛り上げ役、放送やポスター担当など役割分担をし、自分たちの力で活動を盛り上げていこうとする姿が見られた。

2学期1回目の活動が本研究授業となる。ダンス発表会を終えた直後のクラブ活動となるため、本時はダンス発表会の振り返りが中心となる。児童の願いは、お互いのダンスを見て、友達のよいところを認め合いたい、ダンス発表会での達成感を共有したいということである。ダンスという共通の興味・関心を追求しながら、次なる目標に向けて今後改善できることを出し合い、自分の目標の修正・追記を行う。より具体的な目標になり、振り返りができるように、今後も指導していく。

③ 一連の活動の流れ

< 事前 > 【活動計画カードの活用】

自分たちの力で計画し、活動をつくり上げるために、司会グループで役割を分担したり計画委員会で活動のポイントになるところを相談したりして、クラブ活動計画カードを作成し、クラブ担当に提出し、情報共有ソフトで計画を共有した。

< 本時 > 【終末の助言の工夫】

目標やめあてを意識して活動できたこと、クラブ全体の成長に気付いたことを取り上げ称賛する。また、クラブ全体の課題について伝え、自分たちで解決していけるようにする。担当教員で見取る視点を分けて、終末の助言で価値付ける。

< 事後 > 【クラブ通信の活用】

自他のよさやクラブ全体の成長などを児童自身が実感できるようにするために、教師が見取った活動のよさや終末の助言で取り上げた成果や課題、児童同士が見つけた互いのよさや可能性、メンバーからのメッセージなどをクラブ通信にまとめ児童に配布する。また、情報共有ソフトのダンスクラブページからも児童が見られるようにする。

活動計画	
第 7 回 ダンスクラブ	
9月29日(月) 15:00-16:00 マリク3③	
5分	1. あいさつ 2. 出席の確認 3. 活動内容の確認 4. 今日めあての確認
	ダンス発表会でおもしろいこととかいせんてんをいふ合って 次の発表会につなげる仲間をかめよう
3分	5. 活動①すいとうどうちあけ
5分	②チームでダンスのえいぞうを見せ
5分	③よかたえとこと次に向けてのかいせんてんをいふ合
10分	④全体と出しあい、次の発表会にいひかす。
5分	→カードに書く(目標)
10分	⑤ポイントダンス(おど) おどり仲間をかめよう
15分	
10分	6. 振り返り 7. よいところ見つけ 8. クラブ長から 9. 先生の話 10. あいさつ 11. 後片付け(みんな) グループ 次回の司会グループ(黒板消し)グループ
先生より	2日間のダンス発表会、がんばりまじり。 しかり振り返りをして共有して、3月の発表会に向けて計画的に準備しましょう!

④ クラブ発表

児童会活動部で取り組んでいるメッセージボードをクラブ活動でも活用し、ダンスクラブの発表会前の意気込みを掲示した。これにより、改めてダンスクラブの発表をする理由について考え、前向きに発表に臨むことができた。また、発表後に誰でも感想を書ける場を設置し、発表を見た児童からの感想をもらった。ダンスのよかったところが書かれていて、ダンスクラブの児童は、自分たちの踊る姿から自身の頑張りを認められ、楽しんで発表できたことを実感していた。

⑤ 視点1～3の手だての検証・成果

視点1 「互いのよさを認め合い、自ら関わる力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

【クラブ通信の発行】

- ・クラブ通信を発行したことで、活動時間内で伝えきれなかった児童同士が見つけた互いのよさやクラブ全体の成長、課題について共有することができた。
- ・6年生から順にダンスクラブメンバーへのその時の思いを載せられるようにしたことで、児童の参画意識を高めつつ、思いを発信し、互いに理解することができた。

視点2 「課題解決に向けてすすんで役割を果たす力を育てる指導の工夫（社会参画）」

【活動計画カードの活用】

- ・活動計画カードの作成・活用を積み重ねることで、自分たちの力で計画し、活動を作り上げることができた。
- ・活動の内容や重点について相談しながら決めることで、次回の進行を考え、司会グループとして主体的に活動しようとする意欲が高まった。

視点3 「個性を発揮しながら粘り強く取り組む力を育てる指導の工夫（自己実現）」

【目標の決定（自己評価）】

- ・自分の目標を決め、毎時継続して振り返ることで、クラブの目標に対して粘り強く取り組めるように支援した。その結果、自分の目標をよりよいものにしようとする姿が見られた。

【児童理解を深めるための記録物の活用】

- ・児童の思いや活動への期待などを把握するために、写真やクラブカードなどの記録物を活用し、振り返りなどから児童の願いや思いが生かされるように適切に指導・助言を行うことで児童自身が自分や他者のよさにより気付くことができた。

3つの視点全てにかかわる指導の工夫

【情報共有ソフトの活用】

- ・情報共有ソフトを活用することで、活動計画カードやクラブ通信を教師が発信するだけでなく、休み時間の練習に誘ったり、発表会での服装などを提案したりする連絡などを児童が配信するようになった。お互いにいつでも活用できるツールとして用いることができた。



⑥ 講師紹介、指導講評、講師資料

有明教育芸術短期大学副学長 長田信彦先生

<指導・講評>

- ・第1回クラブで目標を考えると、教師の力量が試される。オリエンテーションでクラブの特質を伝える際の教員・児童の共通理解を大切にしたい。
- ・司会グループとダンスをするグループを分け、一人の児童が2つのグループに所属するのではなく、司会グループのメンバーで踊る曲を決めて活動するなどして仲を深めていく。
- ・6年生との関わりについて、「6年生で踊りたい。」という思いは達成してあげてもよい。その代わりに、6年全員で踊ることを条件として提示する必要がある。また、クラブ発表会の在り方については、全員で話し合う内容ではない。6年生と教師が話し合い、決める。6年生を育てるためにも、上学年が下学年を教える大切さを教えていく。やがて教師が出なくてもいいように、高学年を育てていく。児童だけで自治的に活動できるように子どもたちを手放してもよい。
- ・子供は活動がしたい。今回は話し合う時間が長かったため、踊っている時間が少ないから、今後は工夫してもっと増やす。
- ・評価規準が学年によって異なっていて、しかも具体的で良い。だからこそ異年齢集団の必要性を各校で伝えていく必要がある。
- ・1回の活動の最後に「クラブ長の話を聞く」時間を設定していた。クラブ長の役割を果たすという点でも効果的であるため、広げていきたい。

⑥指導に使った資料

【メッセージボードの活用】



児童会活動部の手だて 参考

- ・クラブ発表会の際、チームごとに児童の意気込みを会場入り口に提示した。
- ・発表会后に、見ていた児童からメッセージを募集し掲示したことで、発表会の振り返りが深まるとともに、次回の発表会に向けた意欲が高まった。



2025.12.22 発行



ダンスクラブ通信



第8回クラブ 活動するすがた



おたがいの良いところ見つけ

振り返りカードから～6年生のダンスの振り返り～

- さん:6年生が発表をした。ふりつけを全部覚えていてすごかった。
- さん:6年生の発表で動きがそろっていて、たくさん練習したんだなおどりでわかった。
- さん:6年生のみんなが息の合ったダンスをおどっていてすごかった。
- さん:6年生のダンスがほめられてうれしかった。

2学期の振り返りから

- さん:曲を決めるとき、ゆずったりしている人がいいなと思いました。
- さん:すすんで発言(提案など)をした!あと、ゆずり合って曲を決めた。
- さん:みんなで息を合わせておどれるように工夫してがんばりました。3学期はもっと頑張ります。
- さん:9月の発表会ですごきんちょうしたけど、5年生の子が「大丈夫だよ」と励ましてくれて、きんちょうがとけ、練習の成果を出せた。
- さん: さんがみんなのことをまとめていて、すごいなと思いました。
- さん:自分の意見を正直に話せた。学年関係なくダンスに参加できた。

から
新しいグループで
練習が始まったの
で自主練ががんばり
たいです。

から
今日からグループ
おんしょうか はとまり
ました。本番せいこう
できるようにがんばり
しょう。よいお年を!

先生から
クラブ活動後半に向けてのダンスチームと曲
が決まりました!練習が始まるとさすが16年
生が積極的にチームの練習を進めていまし
た。残りの回数も考えながら、練習内容を考
え、工夫していきましょう。新しい
チームでも仲が深まりそうですね!



(2) 実践事例2 国分寺市立第四小学校「四小ギネスクラブ」

① 日時、場所、対象、指導者

授業日：令和7年10月15日(水)

場 所：国分寺市立第四小学校 4年3組教室

対 象：4年生8名 5年生9名 6年生11名 計28名

指導者：安岡 理佳子主任教諭・土田 花菜教諭

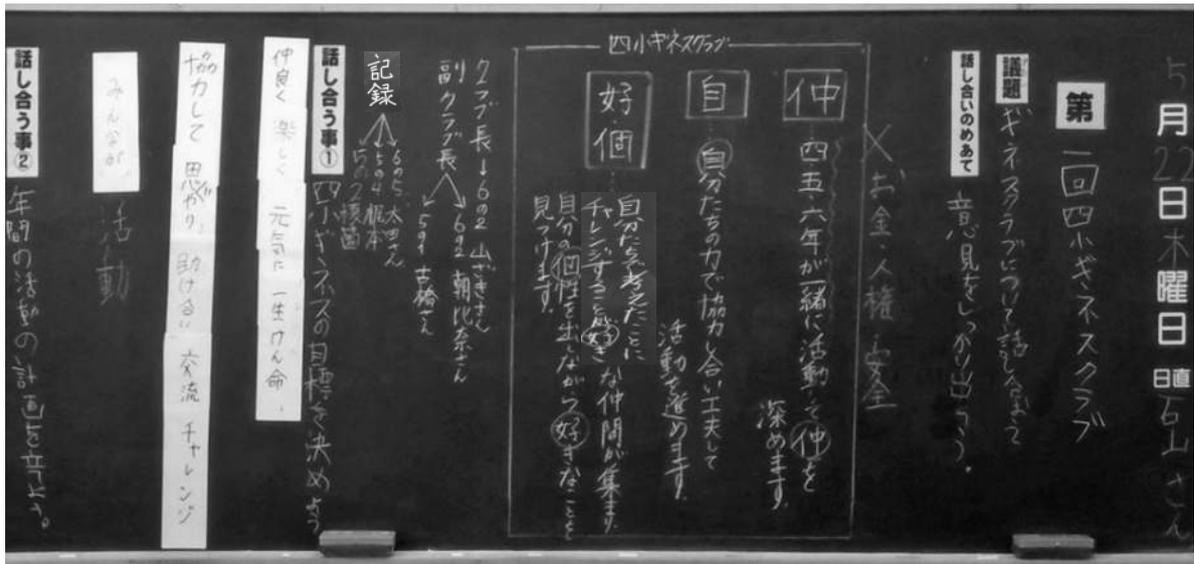
② 内容

<第1回クラブ活動>

第1回のクラブ活動で、本校のクラブ活動の特質などを伝えるオリエンテーションを行った。次に、役割分担について、クラブ長（6年1名）、副クラブ長（6年1名・5年1名）、記録（6年1名・5年1名）を決定した。その後、四小ギネスクラブの目標を決めた。どんなクラブにしたいか聞き、全員の思いが入るように以下のように決定した。

四小ギネスクラブの目標

- | | |
|------------------------|----------|
| ① みんなで協力し合って | (人間関係形成) |
| ② 自分たちの力で | (社会参画) |
| ③ 自分たちで考えた活動を全力で楽しむクラブ | (自己実現) |



その後、4・5・6年生の児童が混合している5チームを決め、タブレット端末を活用しながら担当する回の活動内容を話し合った。6年生を中心に、四小ギネスクラブでしたいことをみんなで考え、活動内容を決められたことを称賛した。また、今後、共同編集ソフトやスプレッドシートを活用して効率よく準備を進める仕組みについても説明をした。

<前期の活動>

第2回は1班が考えた「風船でPAN!」に挑戦した。「風船でPAN!」は、制限時間内にチームでいくつの風船を膨らませたり割ったりできるかという活動である。風船を膨らませるコツを教え合い、器用な子が結ぶ役に回るなど、作戦会議の話合いが展開され、4月当初よりも笑顔で交流する場面や、学年を超えて声をかけ合う場面が増えてきた。

第3回は2班が考えた「みんなでペットボトルフリップ」に挑戦した。ルールを工夫しながら制

限時間内に何回ペットボトルフリップを成功させられるかという活動である。各チームで手首を返すコツや、称え合う姿などが見られた。成功すると歓声が上がり盛り上がっていた。

ICTを活用した計画やめあての入力は、活動時間を確保するために、事前にできることを共同編集ソフトの掲示板で連携しながら進めていこうという意見も児童から出たため、共通理解を図った。お互いの個のめあてを見合うことで、友達のよいところを見付ける視点にもなっていた。

<後期の活動>

第4回は3班が考えた「練って練って練りまくれ！」に挑戦した。20分間にグループでどれだけ長いねりけしを作れるか勝負した。アドバイスし合ったり役割分担をしたりする姿や、笑顔が増えてきて楽しそうに活動しており、少しずつ仲が深まってきていると感じた。終末の助言では、めあてや振り返りの内容をより具体的に書くことを指導した。

第5回は4班が考えた「白い塔を立てまくれ！」に挑戦した。司会グループが事前の打ち合わせのなかで考えたトランプの立て方を動画に撮り、当日、ルール説明の際に共有した。司会グループ全員が役割を担っていたこと、個のめあてが具体的になってきていることを取り上げて価値付けた。同じグループの友達のめあてを見ながら、友達のよかったところを見付けていけるように指導をした。

④ 一連の活動の流れ

<事前>【めあての決定・活動の確認】

司会グループの児童が事前に集まり、計画委員会を開いた。計画委員会では、前時の活動のよかった点と課題を確認後、本時のめあてを設定し、次の活動に生かせるよう活動計画を立てた。活動計画シートでは、当日の時間の使い方やルール、安全面等を記入し確認した。実際にやってみることで、より創意工夫できそうな内容に変更したり、時間の配分を見直したりした。実際にやってみた動画を事前に配布しておくことで、ルールの確認や目標となる記録を示すことにもつながった。クラブ長、副クラブ長も同席し、司会グループが困った際には助言をしながら活動内容を決定した。当日、計画グループ全員が役割を担い進行できるようにした。また、年間を通じて活動内容を決めているので、各グループの6年生が中心となり、自発的に活動内容を話し合う姿が見られるようになった。



第6回10月15日『みんなで協力!風船バレー』

- ①めあて:班のみんなで、打ちやすいように協力していい記録を出そう
- ②計画グループが用意する物:風船5つ
- ③各自用意する物:なし
- ④ギネスの内容:班ごとに円になってラリーをする。
床についたらリセット、一番いい記録を記入する。
- ⑤35分間の計画:説明(始まり〜ルール説明まで)8分
練習・準備5分
記録1回目8分 作戦タイム3分 記録2回目8分
(両方の記録の合計)
- ⑥計画グループ役割分担:
司会→ ルール説明→ タイマー→ 記録→

<本時>【クラブ全体の成長につながる終末の助言の工夫】

目標やめあてを意識して活動できたこと、クラブ全体の成長に気付いたことを取り上げ、活動している実際の写真を見ながら称賛する。また、クラブ全体の課題について伝え、よりよい活動にしていけるようにする。

<事後>【クラブ通信の発行】

クラブ通信には、連絡事項や記録を載せることや児童のよかったところ、めあて・振り返りなど載せることで、友達がどんな思いをもってクラブ活動に取り組んでいるかや、自分の目標やめあての視点が広がるようにする。

④視点1～3の手だての検証・成果

視点1 「互いのよさを認め合い、自ら関わる力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

【クラブ通信の配布】

- ・教師が見取った活動のよさや、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題をクラブ通信にまとめ、情報共有ソフトで配布したことで、児童は自他のよさやクラブ全体の成長を実感できるようになった。

【振り返りシートの活用】

- ・活動の振り返りの中で、他の児童のよかったところを見付けて振り返りシートに入力し、見合うようにしたことで、友達のよさに目を向けたり、グループとして次回に向けた課題を考えたりする姿が見られるようになった。

視点2 「課題解決に向けてすすんで役割を果たす力を育てる指導の工夫（社会参画）」

【クラブ全体の目標の決定】

- ・第1回のクラブ活動で、一人一人の思いを生かしてクラブ全体の目標を決定したことで、同好の仲間と活動をつくり上げていこうとする意識が育った。

【活動計画シートの活用】

- ・司会グループで役割を分担し、活動のポイントについて相談しながら活動計画シートを作成したことで、自分たちの力で計画し、活動をつくり上げようとする姿につながった。

【クラブ全体の成長につながる終末の助言の工夫】

- ・目標やめあてを意識して活動できたことや、クラブ全体の成長を取り上げ、活動中の写真を見ながら称賛するとともに、クラブ全体の課題を伝えたことで、自分たちの具体的な姿をイメージしながら、クラブ全体の成長について考えられるようになった。

視点3 「個性を発揮しながら粘り強く取り組む力を育てる指導の工夫（自己実現）」

【個人の目標やめあての達成のための助言の工夫】

- ・クラブカードの振り返りの記述から、児童自身が成長に気付いている点を取り上げて称賛したり、全体に紹介したりすることを積み重ねたことで、児童は自分の成長を実感できるようになった。

【振り返りシートの活用】

- ・振り返りの記述をクラブ通信に掲載し、自他の成長に気付いている点について教師が価値付けたことで、取り上げられた記述を手がかりに、どのような視点で活動に取り組めばよいのかを理解しやすくなった。

視点1～3

3つの視点全てにかかわる指導の工夫

- ・スプレッドシートを活用して年間の活動計画を確認できるようにし、これまでの振り返りを生かして毎時の活動計画シートを作成したことで、活動の見通しをもって取り組めるようになった。

また、共同編集ソフトを活用し、仲間のめあてを参考にできるようにしたことで、児童の視点が広がり、仲間の頑張りや成長に気付く児童が増えた。



⑤講師紹介、指導講評、講師資料

有明教育芸術短期大学副学長 長田 信彦先生

<指導・講評>

- ・クラブ活動の時間を十分に確保することが重要であり、年間 11 回という活動回数の少なさを踏まえると、限られた時間の中で学期ごとの振り返りの在り方についても検討していく必要がある。
- ・クラブの所属については、希望調査を基に教員が決定するのではなく、児童が主体的に意思決定できるようにすることが望ましい。
- ・授業開始時に児童がグループでまとまらず各自でタブレットを見てめあてを確認していたため、短時間であっても同じグループの児童同士が話し合う時間を確保し、グループでまとまって座る形の方が望ましい
- ・活動のはじめに、司会グループが作成した本日の活動内容を動画で示し、全員が確認したことで、活動の見通しをもって取り組むことができた。
- ・1 回目は手を使い、2 回目は手を使わないというルール工夫が面白く、風船という教材の特性を生かして活動を創意工夫しやすい内容となったことで、当初はおちゃらけていた児童も、2 回目には真剣に取り組む姿へと変容した。みんなで真剣に取り組んでおり、すばらしかった。
- ・足の使い方や安全面への配慮等の教師の声掛けが良かった。

⑥指導に使ったワークシート

【振り返りシート】

	A	B	C	D	E	F
1			①4・5・6年生と一緒に活動し、仲を深めます。【仲】 ②自分たちの力で協力して工夫をして活動を進めます。【自】 ③くだらないことにチャレンジすることが好きな仲間が集まり、自分の個性を出しながら好きなことを見つけます。【好・個】			
2	班	名前	今日のめあての番号①～③	具体的なめあて	振り返り	友達の良かったところ
3		⑥	②	風船バレーのこつをみんなで共有したいながら、とりやすい場所に風船を上げられるようにしたい。	今回はみんなでつなげられた回数と一緒に数えたので、チームの団結ができたと思います。それに、楽しく活動ができたので良かったです。また、5班のしんこうがじょうずだったと思いました。	さんがアドバイスをたくさんしていて、わかりやすかった。
4		⑥	①	みんなで協力しながらいい記録を出し、コツを教えながら仲を深めてやりたいです。	今日は特にアドバイスができたと思います。みんなで協力してできていたのもめあても達成できたと思います！次回は技術面でもアドバイスができるようになりたい。	さんが、手を使わない記録の時、自分がキャッチするとき声掛けをすることを提案してくれて、それで記録が伸びたので、よかったです。
5		⑥	①	みんなそれぞれ協力しながら、楽しもう。	今日はgameに結構苦戦したけど、なんだかんだやりながらできてよかった。	さんがみんなに風船を回していたおかげでみんながたくさん風船を回せた。
6		⑤	①	たくさん回数が伸びても気を抜かないようにしたい	風船をたまに落としてしまったけど、はげましあってたのしくできました。	
7		④	②	途中で風船を落としてしまっても工夫して成功させたい。	途中で落としても作戦を考えて風船バレーを楽しんできました	



・毎時ごとにスプレッドシートを作成し、児童が共同編集できるようにしたことで、仲間のめあてを共有するとともに、めあてや振り返りに対する視点を広げることができた。

・振り返りシートへの記入内容がクラブ通信に反映される仕組みを整えたことで、クラブ通信発行の簡易化につながった。

【クラブ通信】

令和7年四小ギネスクラブ

四小ギネスクラブ通信

2025年9月

四小ギネスクラブめあて

『自分たちの力で 考えた活動を
全力で楽しみ 仲を深めよう！』

クラブ通信とは…

クラブのめあてを達成するために、みなさんが入力したふりかえりやクラブとしての成長を共有していくための手紙です。紙ベースではなく、Teamsで配信しています！

第2回クラブ活動『みんなでペットボトルフリップ』

とにかく時間内にコツを教え合いながら、ペットボトルフリップを成功させましたね！成功したときは大きな歓声が上がりました。シンプルで分かりやすい活動でいいですね！

ふりかえり

①仲・交	②自	③個・好
<ul style="list-style-type: none"> ●私のグループが6年生が3人で、5年生は1人だったので目当てが達成しづらかったと思います。でもみんなと一緒に楽しむことができたのは良かったです。 ●今回はあまりペットボトルフリップでできませんでしたがみんなで協力して楽しくできたので良かったです！次回もたのしみたいです！ ●みんなで楽しく協力できた。 ●楽しくできた（ハラハラ）かん ●友達がアドバイスをしてくれてよかった。 ●コツを教え合い、楽しくできた。 ●協力して1位をとれたからよかった。 ●みんなでもめあいがやれて楽しかった。 ●友達とすぐ盛り上がることでとても楽しかった。 ●みんなで1位になれてうれしかった ●仲間もなれたと思います。 ●めあて通り皆で楽しめてよかったです。 ●私は上手くできなかったけどみんなで助け合って協力することができた。 ●みんなとおそ一緒にあそべて楽しかったべす。 <p>先生より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今回は内容がわかってなくてできなかったから次回は計画を立ててやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全くセンスがないのか練習で一回しかできなかったけどこれもgameだから楽しかったです。 ●自分の班は順位だけだったけど、この機会を大切に今後生かしていきたいです。

仲間と交流する視点でのふりかえりが多いですね！その時のギネスの内容に合わせて、より具体的なめあてやふりかえりができるようにしましょう。

本研究部作成「クラブ活動で育つ力」

指導の 場面	育つ力		
	A 人間関係形成	B 社会参画	C 自己実現
1 所属決定	(1) 同好の異年齢の仲間を集めるために声を掛けたり誘ったりする。 (2) 友達と声を掛け合って、自分たちで新しいクラブをつくらうとする。 (3) 設立の条件に合うように、友達を誘ったり他のクラブを選んだりする。	(1) ポスターを作ったり、宣伝方法を考えたりするなど、自分のできることを考えて発足するために活動する。 (2) 前年度の経験を生かして、所属するクラブを選ぶ。	(1) 自分の興味・関心を追求できるクラブを選ぶ。
2 組織作り	(4) 6年生が中心になり異年齢小グループを作る。 (5) 4・5・6年生と一緒に活動できるようなグループを作る。 (6) 異年齢の新たな仲間づくりをするためにすすんで声を掛ける。	(3) 必要な役割を考え、提案する。 (4) 前年度の経験を生かして組織作りを行う。	(2) 自分の活躍できる役割を選ぶ。
3 目標の決定	(7) 全員で話し合い、クラブ全体の目標を決める。 (8) 「他の学年の友達と仲よく活動する」などの異年齢集団を意識した個人の目標を決める。	(5) 全員の願いを生かしたクラブ全体の目標を決める。 (6) 全体の目標を達成するために、毎時の全体のめあてを決める。	(3) クラブ全体の目標達成に向けて、個人の目標を決める。 (4) 個人の目標や毎時の全体のめあてを達成するために、毎時の個人のめあてを具体的に決める。
4 活動計画作り	(9) みんなで話し合ってすべての希望が入るような計画を立てる。 (10) 一人で活動するのではなく、グループの友達と一緒に活動できる内容を決める。 (11) より楽しくより豊かになる方法を考える。	(7) 計画委員会をすすんで行き、次の活動の見通しをもつ。 (8) アイディアを出し合って、活動計画を作る。 (9) みんなで役割を分担する。 (10) 計画したことをみんなに知らせる。 (11) 次の活動内容を知り、協力して準備をする。	(5) みんなが活躍できるような活動計画を考える。 (6) 自分の思いを大切にして、考えを伝える。 (7) 自分のよさや力を発揮し、より楽しくより豊かになる方法を考える。
5 毎時間の活動 と振り返り	【毎時間の活動】 (12) 異年齢の仲間と仲よく楽しく活動する。 (13) 互いに助け合って活動する。 (14) 異年齢の仲間と一緒に興味・関心を、実態に即した多様な方法で追求する。 (15) 高学年の児童が下学年の児童の思いや願いを生かして活動する。 (16) 下学年の児童が高学年の児童に憧れをもち、高学年のよさを自分の活動に生かす。	【毎時間の活動】 (12) 一時間の流れを理解し、すすんで活動する。 (13) 自分の役割を果たす。	【毎時間の活動】 (8) 個人の目標やめあてに向かってすすんで活動する。 (9) 自分のよさや得意なことを生かして活動する。 (10) 学級では見られない個性を発揮する。
	【振り返り】 (17) 自他のよさに気づき、伝え合う。 (18) みんなと協力するよさに気付く。	【振り返り】 (14) よかったことと課題に気付く。 (15) 課題の解決方法について考えたり話し合ったりして解決する。	【振り返り】 (11) 活動を振り返り、自分のよさや可能性に気付く。 (12) 次の活動への期待をもち、自分のできることや次回のめあてを考える。
6 学期末の 振り返り	(19) 異年齢の仲間との活動における、よかったことや課題に気付く。 (20) クラブ活動で身に付けた人間関係を築く力を学級や学校の生活に生かす。	(16) 自分たちでクラブをよりよく運営する方法が分かる。 (17) クラブ全体の成長と課題に気付く、すすんで伝え合う。 (18) クラブ活動で身に付けた社会参画する力を学級や学校の生活に生かす。	(13) 自分の成長や課題に気付く。 (14) 活動を振り返り個人の目標を見直す。 (15) 次の学期、次年度への期待をもつ。 (16) クラブ活動で身に付けた自己実現する力を学級や学校の生活に生かす。
7 発表	(21) 発表を見合うことで、互いのよさに気付く。	(19) アイディアを出し合って発表方法や発表内容を考えたり伝え合ったりする。 (20) 自分たちの発表を多くの人に見てもらうためにすすんで活動する。 (21) 他のクラブの発表を、自分たちのクラブの活動に生かそうとする。	(17) 自分たちの成果を発表することで、クラブ全体の成長に気付く。 (18) 他のクラブの発表を見て、次の活動への期待をもつ。 (19) 発表の準備や発表を通して、自分の成長に気付く。

3 成果と課題

(1) 成果

視点1 互いのよさを認め合い、自ら関わる力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

- ・クラブ通信や振り返りシート等を活用し、活動の様子や児童の関わりを可視化したことにより、児童が自他のよさやクラブ全体の成長に気付く姿が広がった。
- ・活動中の関わりや友達のよい行動を伝え合い共有することで、異年齢集団の中で互いを認め合う関係が深まり、学年を越えた温かな人間関係が形成された。また、クラブカードや振り返りシートを活用したことで、児童はクラブ全体の成長を実感し、クラブの一員としての意識が高まった。

視点2 課題解決に向けて、すすんで役割を果たす力を育てる指導の工夫（社会参画）

- ・クラブ全体の目標設定や計画委員会、活動計画シート等を活用したことにより、児童が主体的にクラブ活動をつくり上げようとする姿が見られた。
- ・第1回のオリエンテーションでクラブ活動の特質を共有し、話し合いで目標を決定したことで活動の方向性が明確になり、計画的に進めようとする意識が高まった。さらに、司会グループを中心とした役割分担や事前準備により、「自分たちの力で活動を進める」姿が表れるようになった。
- ・終末の助言で、クラブ全体や個人のめあてを意識して取り組んだ児童を取り上げて称賛を重ねたことで、児童は自信をもって活動し、役割を果たしながら協力して課題を解決しようとする意欲が高まった。

視点3 個性を発揮しながら、粘り強く取り組む力を育てる指導の工夫（自己実現）

- ・個人の目標設定と振り返りを継続的に行い、教師が価値付けを行ったことにより、児童が自己の成長を実感しながら活動に取り組む姿が見られた。
- ・毎時の振り返りを通して、自分の目標に対する達成状況を確認し、教師の称賛や励ましの言葉を受けることで、児童の意欲が高まった。また、目標を達成した児童が新たな目標を設定することで、活動を重ねるごとに目標が具体的になり、粘り強く取り組む姿勢が見られるようになった。

3つの視点全てにかかわる指導の工夫

- ・活動計画シートやクラブ通信、振り返りの記録をICT上で共有・蓄積することで、児童は活動の見通しをもって主体的に参加するとともに、活動後も自他のよさやクラブ全体の成長を振り返ることができるようになった。

(2) 課題

- ・汎化を意識したICT活用により一定の成果が見られた一方で、対面して話し合う時間や教師による価値付け、児童同士が称賛し合う場面が減少する傾向も見られ、人間関係を深めるためには両者のバランスを図ることが重要である。次年度は、異年齢集団における人間関係をより一層深めるとともに、実践を整理・汎化し、各校で活用できる形へとつなげていくことを目指す。

(3) 各活動・学校行事との関連

- ・児童会活動部の手だて「メッセージボード」を活用することで、互いの取組や思いを伝え合うことができ、自己肯定感が高まったことで、活動への意欲の向上につながった。

研究に携わった人								
部長	山口	哲郎	港	筈小	藤井	芳子	大田	徳持小
副部長	中本	健太郎	江戸川	第四葛西小	前田	璃子	大田	徳持小
〃	矢部	聡	大田	矢口東小	安岡	理佳子	国分寺	第四小
〃	島田	泰子	墨田	曳舟小	土田	花菜	国分寺	第四小
〃	高島	誠	渋谷	千駄谷小	梶井	綾	目黒	駒場小
会計	山下	映実	江東	浅間堅川小	赤松	栄介	江東	枝川小
	加藤	葉子	元部長		渡辺	好弘	練馬	立野小
	伴	文昭	品川	小山小	大塚	怜	足立	千寿第八小
	臼井	梨峰	江東	浅間堅川小	森本	香織	江東	第一亀戸小

IV 学 校 行 事 部

研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成する学校行事」

1 本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

- (1) 研究構想図
- (2) 研究主題設定の理由
- (3) 研究の視点

2 実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

- (1) 実践事例1 清瀬市立芝山小学校 学級活動(1)ウ 第3学年
題材名「見て！見て！わたしたちの展覧会～みんなのそうぞうの宝箱～」
議題名「見て！見て！わたしたちの作品みてもらおう大作戦をせいこうさせよう」
- (2) 実践事例2 練馬区立北原小学校 音楽会 事後指導 第6学年
題材名「忘練成最協感全(わすれんな さいきょう かんぜん)
みんなでレベルアップ↑↑↑ ～音楽会で身に付けた力を生かして～」

3 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

研究の経過

令和7年	6月 9日(月)	定期総会 第1回学校行事部会	練馬区立豊玉小学校
	7月 30日(水)	夏季集中研修 第2回学校行事部会	練馬区立豊玉小学校
	8月 21日(木)	第3回学校行事部会	清瀬市立芝山小学校
	9月 30日(火)	第4回学校行事部会	世田谷区立代田小学校
	11月 4日(火)	第1回検証授業	清瀬市立芝山小学校
	11月 13日(木)	第5回学校行事部会	練馬区立北原小学校
	12月 4日(木)	第2回検証授業	練馬区立北原小学校
令和8年	1月 9日(木)	第6回学校行事部会	世田谷区立代田小学校
	2月	研究のまとめ 研究発表大会準備	
	2月 20日(金)	研究発表大会	練馬区立豊玉小学校

※その他随時オンラインにて部会を開催した。

1 本年度の研究について (1) 研究構想図

社会背景 不安定で不確実な時代 価値観の多様化	特別活動で育成すべき資質・能力 3つの視点 ○人間関係形成 ○社会参画 ○自己実現	児童の実態 いじめ・不登校の増加 困難な状況に直面した際、意欲的に 解決する経験が乏しい。
--------------------------------------	---	---

研究主題 「自ら未来を切り拓く児童を育成する学校行事」

目指す児童像

- ・多様な価値観や考えを認め合い、協働しながら補い合える児童（人間関係形成）
- ・学校行事の意義や課題を自分のこととして捉え、みんなのために活動できる児童（社会参画）
- ・なりたい自分の実現に向けて努力し、困難を乗り越えて自分を高めようとする児童（自己実現）

研究仮説 学校行事の一連の活動を自分のこととして捉え、なりたい自分を明確にし、みんなと協働する中で、多様な価値観や考えをもつ人と関わり、認め合い、補い合うことでよりよい人間関係を形成し、自ら未来を切り拓くだろう。

研究の視点と指導の手だて

視点1 （人間関係形成） みんなと協力して活動する中で互いを認め、補い合う力を育てる指導の工夫	視点2 （社会参画） よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫	視点3 （自己実現） なりたい自分に向けてへこたれずに行動する力を育てる指導の工夫
---	--	---

【児童の意欲を高める事前指導】

- ・キャリア・パスポートを活用し、これまでの行事を振り返る。
- ・学年オリエンテーションを実施し、日程や目的を確認し見通しをもつようにする。
- ・学年のめあて(テーマ)を作る。
- ・係活動ができるようにする。
- ・個人目標を立てる。

【実行委員会の設定】

- ・年間を通して学年全員が実行委員を経験できるようにし、リーダーシップとフォローアップを養えるようにすることで、助け合い、支え合えるようにする。
- ・活動内容を実行委員中心に学年全体で考え、実践していくことで自分たちが学校行事をつくり上げる意識を高める。

【自己のよさを生かそうとする事後指導】

- ・成長を振り返りカードに書き、(低学年は、選ぶ・色を塗る、など)掲示する。
- ・他学年、教職員、保護者からの評価を知らせる。
- ・自分や仲間のよさを共有する。
- ・次の行事の見通しと個人目標を立てる。

【学校行事と関連させた学級活動(1)の実施】

- ・必要に応じて学級活動(1)ウを実施し、学級・学年として学校行事の関わり方について話し合う。

【友達のよさや自分の思いを伝える時間の設定】

- ・行事の活動(練習や準備)の始めや終わりに、互いのよさを認め、伝え合う時間を設定する。

【自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動】

- ・見通しをもてる活動計画を作成する。
- ・行事の中で自分の役割を一人一人が意識し、友達と協働できるようにする。

【めあて実践を促す言葉掛け】

- ・朝の会、帰りの会等を活用して、めあての実践を促す言葉掛けを充実させ、児童の意欲を高められるようにする。

【振り返りの場の工夫】

- ・活動の様子を記録したスライドショーは視点をもって見合い、成長や課題に気付けるようにする。
- ・他学年とメッセージ交換を行い、互いのよさを実感できるようにする。
- ・事後指導では板書を工夫し、身に付けた力を視点ごとに提示し、児童が自分成長を実感できるようにする。

【地域の方との関わり】

- ・地域の方への紹介活動や本番の鑑賞を通して、児童の参画意識を高められるようにする。

【ICTの活用】

- ・学校行事に対する思いや活動内容の共通理解を円滑に行う。
- ・活動の様子を振り返り、共有できるように、視点をもってスライドを作成する。

【教室掲示・学年掲示板の活用】

- ・学年のテーマ、個人のめあて・振り返り、保護者等のメッセージなどを掲示できるようにすることで、意欲を高められるようにする。カレンダーや実行委員、係の連絡掲示板によって、見通しをもたせながら活動できるようにする。

よりよい学校行事を展開していくための手だて(時系列)

- | | |
|--|--|
| (1) 年度初めに年間の学校行事の見通しをもち、学年の方針(目標)等を決める。
(2) 学年・学級の掲示コーナーをつくる。
(3) 学年オリエンテーションを開く。
(4) 行事のめあて(テーマ)を作る。
(5) 行事の事前指導を行う。(意欲を高め、見通しをもち、個人の目標を立てる。) | (6) 活動ごとにめあてを立て、振り返りの場を設ける。
(7) 活動の様子を映像や写真で提示し、そのときのことを思い出しながら振り返りができるようにする。
(8) 児童の願いが達成できるように行事を実施する。
(9) 行事の事後指導を行う。(成長や課題を振り返り、次の行事への期待と見通しをもつ。)
(10) 自他の成長やよさを認め合えるカードを掲示する。 |
|--|--|

学校行事部 研究主題

「自ら未来を切り拓く児童を育成する学校行事」

(2) 研究主題設定の理由

学校行事はCOVID-19の感染拡大以降、縮小・制限されてきた活動のほとんどが以前と同様に実施できるようになっている。しかし、学校行事を削減し、規模を縮小したままの学校も少なくない。学校教育も日々変化していく中で、児童は言われたことしかできない、大人から与えられたもので学んでいく環境が自然と生まれ、大人も過剰な支援や、無理をさせない、一定の達成度しか求めないなどの現状があるように考えられる。将来、困難な状況に直面した際に自ら未来を切り拓いていける児童を育成していくためにも、学級・学年を越えた多くの人と協働し、人間関係を形成し、自己実現を図る機会となる学校行事の果たす役割は大きいと考える。

そこで、全体研究主題「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」を受け、多様性が尊重され、一人一人のウェルビーイングが向上した未来に向けて、前例にとらわれず、主体性や協調性を発揮して課題解決に向かう児童を育成する学校行事について研究を進めることとし、目指す児童像を以下のように設定した。

(3) 研究の視点

研究主題に迫るために、以下の3つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

1 目指す児童像

- ・多様な価値観や考えを認め合い、協働しながら補い合える児童（人間関係形成）
- ・学校行事の意義や課題を自分のこととして捉え、みんなのために活動できる児童（社会参画）
- ・なりたい自分の実現に向けて努力し、困難を乗り越えて自分を高めようとする児童（自己実現）

研究主題が変わり2年目となった今年度は、昨年度までの研究の成果を生かしながら、目指す児童像をより明確にし、その実現に向けた手だての有効性を明らかにしていく。また、汎用性を意識しながら、手だての具体的な実践方法をより分かりやすく示し、広めていきたい。

2 研究の視点

視点1「みんなと協力して活動する中で互いを認め、補い合う力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

- ・友達のよさや自分が困ったことなどを伝える時間の設定（P. 62、68）
- ・振り返りの場の工夫（P. 62、68）
- ・実行委員会の設定（P. 68）

視点2「よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫（社会参画）」

- ・実行委員会の設定（P. 62、68）
- ・学校行事と関連させた学級活動（1）の実施（P. 62、68）
- ・ICTの活用：学校行事に対する思いや活動内容の共通理解（P. 63、69）
- ・地域の方との関わり（P. 63）
- ・自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動（P. 69）

視点3「なりたい自分に向けてへこたれずに行動する力を育てる指導の工夫（自己実現）」

- ・児童の意欲を高める事前指導（P. 63、69）
- ・自己のよさを生かそうとする事後指導（P. 63、69）
- ・ICTの活用：視点を明確にして活動の様子のスライドを作成する。（P. 63、69）
- ・振り返りの場の工夫（P. 69）

2 実践事例

(1) 実践事例 1 清瀬市立芝山小学校 「展覧会の事前指導」

① 日時、場所、対象、授業者

日時 令和7年11月4日(火) 6校時

場所 清瀬市立芝山小学校

対象 第3学年

授業者 教諭 船倉 大輔

教諭 城野 正行

② 内容

- ・題材名 「見て！見て！！わたしたちの展覧会～みんなのそうぞうの宝箱～」

【主な関連事項】

学級活動(1) ウ 学校における多様な集団の生活の向上

学校行事の内容(2) 文化的行事

・議題選定の理由

本議題は、「見て！見て！！わたしたちの作品をみてもらおう大作戦をせいこうさせよう」である。

今年度、児童は学年遠足、運動会を経験してきた。学校行事ごとに実行委員会を設立し、一人一人が学校行事に向かうための工夫を考えて実践してきた。今回も展覧会に向けて実行委員の取組を考えることになった。まず、教師からオリエンテーションで展覧会の特性や意義を伝えたり、これまでの図画工作科での授業の様子を振り返ったりした。特性を捉えた上で実行委員を中心に学年の目標を設定した。展覧会の学年の目標は、「つたえよう！わたしたちのそうぞうのたからばこ」である。この学年の目標には、自分が一生懸命考えながら作成したり、友達とアドバイスをし合って工夫を加えたりして作った作品を、友達や保護者、地域の方などたくさんの人たちに観てもらいたいという思いが込められている。

目標の実現に向けた活動を、実行委員を中心に話し合い、展覧会の目標の掲示、いいところ見付け、地域の方への作品ガイドを行うことが決まった。実行委員から自分たちの作成してきたときの思いや作品のよさがもっと伝わるような工夫をしたいという意見が挙がり、学年全員から意見を求めることになった。展覧会の学年の目標を実現するために、みんなで学校行事を創り上げ、一人一人のよさを知ってもらいたいという思いから今回の議題に決定した。

本議題の提案理由は、「自分たちの作品のよさやこれまでの頑張ったことをもっと伝えたい。一人一人の頑張ったことや作品のよさを観てもらおう工夫にみんなで取り組み、授業や行事を自分たちで楽しめるように協力できる学年になりたいから。」に決まった。一人一人の努力やよさに目を向けて話し合うことが、自分や友達を大切にすることにつながり、決まったことを全員で取り組むことで一人一人の展覧会を学年全体の展覧会として捉えることができると考え、さらに、そのような経験を積むことで学年目標にある「サンシャイン みんなでみんながかがやく」への実現意欲を高めることをねらいとした。

・本学校行事で目指す姿

(1) 今年度の芝山小学校の展覧会で目指す姿

- 互いに努力を認めながら協力してよりよいものを作り出し、自己の向上の意欲を高める。
- 日頃の学習の成果を作品の展示によって発表し、互いに鑑賞し合うことで、よさを認め合い、文化や芸術に親しむ。

各学年、図画工作科から平面作品・立体作品・共同作品、5・6年生のみ家庭科から裁縫作品を展示し、鑑賞する。展覧会は、多様な芸術に親しむことによって豊かな情操を育てることができる学校行事である。その中で児童が互いに努力を認めながら協力してよりよいものを創り出し、発表し合うことにより、自他のよさを見付け合う喜びを感得するとともに、自己の成長を振り返り、自己のよさを伸ばそうとする意欲をもつことができると考えた。

(2) 学年として目指す姿

展覧会の特性として、個人の活動が中心となり、学級・学年の集団として取り組む意識が他の学校行事に比べて低くなりやすい。展覧会当日も大きな活動はなく、作品を展示するだけでは、児童は充実感をもちにくい。そのような特性をもった展覧会だからこそ、これまで学校行事で育んできた力を生かして自分たちにとって充実した活動にしてほしいと願っている。自分たちの立てた目標に向けて一人一人が考えをもって話し合い、責任をもって粘り強く取り組む姿や自分や友達が努力した過程を大切にする姿を展覧会では目指した。



展覧会に向けて自分の作品や共同作品を作成する児童の様子

③ 一連の活動の流れ

日時	全体児童活動内容	実行委員児童活動内容
10月3日	・代表委員会から展覧会の目標の発表	
6日		・展覧会実行委員会発足
10日		・学年の目標を決める
14日	・実行委員から学年の目標の発表	・展覧会の目標に向けて取り組むことを決める。
7日		・学年会で取り組む内容を決めることを全体に伝える。
25日	・運動会	
28日	・学級活動(3)運動会の振り返り ・展覧会オリエンテーション	・展覧会の目標、学年の目標を改めて伝える。
29日	・学年会の議題、提案理由、話し合うことを確認する。 ・自分の意見をアンケートツールに入力する。	・学年会の議題、提案理由、話し合うことを全体に発表する。
30日		・全体からの意見を基に学年会の計画を立てる。
31日	・出された意見を見て、自分の意見を	・集まって整理した意見を全体に提示する。
11月4日	・学年会(学年で行う話し合い活動)	・司会を担当する。
7日～	・話し合っ決めて決めたことをグループで計画する。 ・計画したことを基に同じ役割の友達と協力して実践する。	
28日	・児童鑑賞日	
29日	・保護者鑑賞日	
12月5日	・学級活動(3)展覧会の振り返り	

・本時の展開

活動内容	●指導上の留意点 ◆評価
1 先生の話 2 始めの言葉 3 司会グループの紹介 4 議題の確認 5 提案理由の確認 6 話合いのめあての確認 7 決まっていることの確認 8 話合い 話し合うこと① 「がんばりや作品のよさをみてもらうためのくふう」 ※出し合うは事前に行い、比べ合うから始める。 話し合うこと② 「やくわりぶんたん」	<p>● プレゼンテーションでこれまでに見られた作品の作成過程で諦めずに努力する姿や児童同士の関わり合いを紹介し、「そうぞうの宝箱」を目標にして進めていけるよう意欲付けする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">議題</div> <p>見て！見て！！わたしたちの作品、みてもらおう大作戦をせいこうさせよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提案理由</div> <p>今…自分たちの作品のよさやこれまでの頑張ったことをもっと伝えたい。すること…一人一人の頑張ったことや作品のよさを観てもらおう工夫にみんなで取り組み</p> <p>未来…授業や行事を自分たちで楽しめるように協力できる学年になりたいから。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて</div> <p>みんなのがんばりや作品のよさをみてもらえるような活動を考え、話し合って決めよう。</p>
9 決まったことの発表 10 振り返り 11 先生の話	<p>●自治的な活動の範囲外に自分たちで気付かないなど、必要な場合は助言をする。特に人権上配慮が必要な場合は指導をする。</p> <p>◆みんなのこれまでの努力や一人一人の作品のよさを伝えるために、工夫の内容を提案したり、話し合ったりして合意形成を図っている。 【思考・判断・表現】（観察・発言・学習者用端末）</p> <p>◆活動に見通しをもって積極的に話合い活動に参加しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（観察・発言・学習者用端末）</p> <p>●自分のがんばったところと友達のがんばったところを振り返るよう指導をする。</p> <p>●児童の活動の様子(発言・行動・つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※取り上げる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回から成長が見られた言動 ・司会グループの工夫、努力 ・友達、学級全体のことを考えた言動 ・話合いをまとめるような建設的な発言 ・議題、提案理由、めあてに戻った発言 ・自分のめあてや前回の振り返りを生かした発言 ・次への成長のために気付かせたいこと ・実践、生活への意欲付け </div>
12 終わりの言葉	<p>●本時の児童の言動の中から具体的な事実や名前を挙げて称賛する。</p> <p>●これからの活動への意欲付けをする。</p>

④ 手だての検証・成果

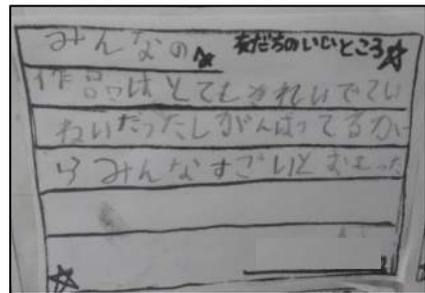
視点① みんなと協力して活動する中で互いを認め、補い合う力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

○友達によさや自分たちの困ったことを伝え合える場の設定

帰りの会等で展覧会に向けた生活を振り返る時間を設定し、作品作り・展覧会をよりよくするための取組の中で自分たちの思いや友達によかったことなどをカードに記入し、学年掲示板に掲示できるようにした。また、困っている友達への共感の気持ちや解決策を自由に伝え合えるようにした。その結果、個人を中心としていた活動に友達同士の関わりが生まれ、支持的風土を醸成することができた。



友達と協力して作成した学年掲示板



学年の友達に向けてのメッセージ

○振り返りの工夫

児童鑑賞後に異学年に向けてメッセージを書き、掲示した。異学年へメッセージを送ることで、作品の鑑賞への意欲を高めることができ、友達によさに気付く姿が多く見られた。



異学年の友達に向けてのメッセージ

視点②よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫（社会参画）

○実行委員の設定

学校行事や学年の取組に対して、実行委員を設定した。実行委員を設定することで、児童の意見や発意を取り入れて学校行事を実施し、自らの力で学校行事を作っているという参画意識を醸成することができた。特に今回の実行委員会では、展覧会までの気持ちを高められるような取組を行った。

活動内容…展覧会の学年の目標決め、学年掲示板の活用、学年会の提案

○学校行事と関連させた学級活動（1）の実施（本時）

実行委員の「学年全員の考えを取り入れた工夫を実践したい」という思いを受け、学年で学級活動（1）の話合いとその実践を取り入れた。学年全体での話合い活動を通して、児童一人一人の発意が活かされた工夫を実現し、学校行事への参画意識を高めることができた。





役割分担したグループで計画を立てている様子



たくさんの人に来ていただきたいという思いから作成したポスター

○ICTの活用

学年での話し合いにおいて、一人1台端末の学習用プラットフォームを活用し、事前に共通理解事項を確実に共有できるようにしたことで、話し合いに意欲的に参加し、合意形成を図ろうとする児童の姿が見られた。

○地域の方との関わり

実行委員の意見から他教科とも関連させ、地域の方を招き、作品を紹介する活動を取り入れた。地域の方に向けてガイドマップを作成したり作品について感想を伝えてもらったりしたことで、地域の方とのつながりを深めることができた。



地域の方へお礼のポスターの掲示

視点③ なりたい自分に向けてへこたれずに行動する力を育てる指導の工夫（自己実現）

○児童の意欲を高める事前指導

展覧会オリエンテーションを実施し、展覧会の目的を共有した。その後、学年の目標を実行委員が中心となって設定し、学年の目標をもとに、展覧会後の様子を想像しながら個人目標を立てられるようにした。

○自己のよさを生かそうとする事後指導

展覧会実施後は、学年で振り返りを行い、行事で身に付けた力を今後の生活に活かせるように事後指導を行ったことで、児童は行事に対して目標をもち、過程を大切にしながら活動することができた。

○ICTの活用

展覧会の事前から当日までの映像資料を活用して事後指導を行った。活動の様子は事例を挙げて振り返ったことで、行事で身に付けた力を学年全体で確認し、今後の生活に関する具体的な目標を立てることができた。

⑤ 講師紹介、指導講評

帝京大学教職員センター教育学部初等教育学科教授 佐野 匡 先生

【本時について】

- ・児童は、相手意識をしっかりもてていたが、「みんなの頑張り」がぶれているため、みんなががんばっていることを発信するのか、自分が頑張っていることを発信するのか、しぼらないと決めるのは難しい。
- ・話合いに自分のこととして参加していた児童が少なかった。しかし、活動をするうちに、温度差のある児童同士が関わっていくことで、次第に活動に乗ってくる児童が増えるかもしれない。活動が終わったときに「みんなでやってよかった。」と言えるようになるとよい。
- ・より多くの児童が自分のこととして話合いに参加しようという意欲をもてるようにするためには、話合いの範囲を考える必要がある。話し合う人数が多いなら、貼る短冊（選択肢）を減らし、小集団なら話し合う範囲を広げる。人数と話し合う範囲の関係も考えて研究していくとよい。
- ・中学年では、最終的に抽象的な考えができるようにしたいが、3年生の段階ではまだ具体物がないと難しい。「例えばこんな作品を」のように具体物を見せ合うような話合いにする必要がある。
- ・ICTをうまく使うことで子供たちの集中力を持続させたい。ICTでの振り返りを活用して、先生が一人一人の振り返りをしっかり見ることで、児童の本物の振り返りを引き出したい。
- ・3年生の活動だけにせず、全校の活動にしていく必要がある。それぞれの学年に応じてできることを考えていくことができるよう、学校全体で取り組んでいけるとよい。

【学校行事について】

- ・児童が「ストーリー」を語ることができるかが大事である。学校行事が終わった後に、「僕たちがやってきたことってこれだよ。」と語れるように。今回の活動なら、「僕たちがポスターを貼ったから地域の人が見に来てくれてよかったよね。」と言えるくらいにしていきたい。
- ・行事は先生がやってくれると思っている児童は多いのでは。それを払拭するためには、教員自身が子供のころに経験してきた「学校行事をやってよかった。」という思いを、児童にさせる必要がある。しかし、昨今の学校行事の縮小化や時間短縮、頑張らせない運動会、というような流れの中で、児童が、「上手いかないことがあっても、あのとき頑張って付いた力を生かして頑張っています。」というようなことを言うことができるようにしたい。
- ・本気で取り組んだ学校行事でつながった人間関係は一生続く。今回、一緒に展覧会に取り組んだ3年生にも一生つながってほしい。そのためには、自分にできないことを補い合う関係を作っていくことが大切である。補い合っていくことは、一生必要な力なので、学校行事を通して付けさせたい。

【学校行事を学級活動（1）で扱うことについて】

- ・学級活動（1）は児童の意欲から始まる。スタートが全員同じである。しかし、学校行事は温度差がある。このことを踏まえないと、学校行事で学級活動（1）を扱っていくのは難しい。学校行事の温度差は、活動を進めていく内にまとまっていく。学校行事が終わった後に、「みんなで良かった。」と言えればよい。学校行事は、集団を創る力にもつながる。
- ・学校行事の大本は学校で決まっている。そこに学級活動（1）を織り交ぜると、主体的に参加という形になる。そこで、これまでの学校行事に学級活動（1）を織り交ぜることを位置付ける必要がある。
- ・3年生ができる学級活動（1）と6年生ができる学級活動（1）は、できることの範囲も先行経験も違う。取り組む行事によっても違う。（1）にどうやって学校行事の思いを織り交ぜるかが大切である。

(2) 実践事例2 練馬区立北原小学校 「音楽会の事後指導」

① 日時、場所、対象、授業者

日時 令和7年12月4日(木)5校時 場所 練馬区立北原小学校
対象 第6学年 授業者 教諭 中村 正伸 主任教諭 田中 雅人
主任教諭 那須 珠美子 教諭 楠 健太

② 内容

- ・題材名 「忘練成最協感全(わすれんな さいきょう かんぜん) みんなでレベルアップ↑↑↑
～音楽会で身に付けた力を生かして～」

【主な関連事項】

学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
学校行事の内容(2) 文化的行事

・題材設定の理由

本学年は、中学年から毎学年学級編成を行っている。学校生活では、委員会活動、クラブ活動、きょうだい学級、1年生のお世話など、最高学年として意欲的に活動している。一方で、周りの状況を考えて、自分たちの力でこれらを進めることはまだ難しい。

学年のテーマを決めるにあたり、6年生として頑張りたいことを各クラスで出し合った。児童からは「憧れられる6年生」、「委員会やクラブでみんなを引っ張りたい」、「最高学年として役割を果たしたい」、「1年生のお世話を頑張りたい」などの思いが出され、教師の願いである「学校生活を通して、児童一人一人の良さや得意なことは、そのまま伸ばし、課題や苦手なことは、みんなで助け合いながら少しずつ伸ばし、自分の未来に向けて成長してほしい」と合わせて、年度当初の学年集会で学年のテーマを「みんなでレベルアップ↑↑↑」と設定した。

1学期の運動会やさくらんぼフェスティバル(児童会まつり)では、学級や学年で「協力」「本気」「やりきる」「楽しむ・楽しませる」などを意識させた。また6年生主体で行う運動会の係活動や代表委員会主導で行う拡大代表委員会では、さくらんぼフェスティバルを盛り上げる工夫を考えるなどして、全校児童のために働く経験を積んだ。その結果、「みんなと協力する力」「最後までやりきる力」「仲間と喜びを分かち合う力」「補い合う力」「みんなで楽しむ力」「みんなで作り上げる力」などが身に付いたことを実感していた。

軽井沢移動教室では、1学期に付いた力と教師の思い「友達との関わり」「相手意識」「マナーやルール」「主体性」「自律」を共有し、「みんなで支え合って、移動教室で学んだことを生かし成長する」という目標を立て、各係で準備を進めた。事後指導では「いろんな人と関わる力」「仲間を思いやる力」「支え合って行動する力」「挑戦する力」「感謝の気持ちを大切に作る力」などが身に付いたことを実感していた。

一方で、誰かのために与えられた自分の役割を果たそうとする力は高まっているが、自分の発意・発想をもって行動する経験が少ない。そこで、小学校生活最後の音楽会で、自分たちで考え、行動し、誰かのために活動する機会を設けるとともに、学校行事で身に付いた力をこれからの生活に生かしてほしいとの願いを込めて、本題材を設定した。

・音楽会について

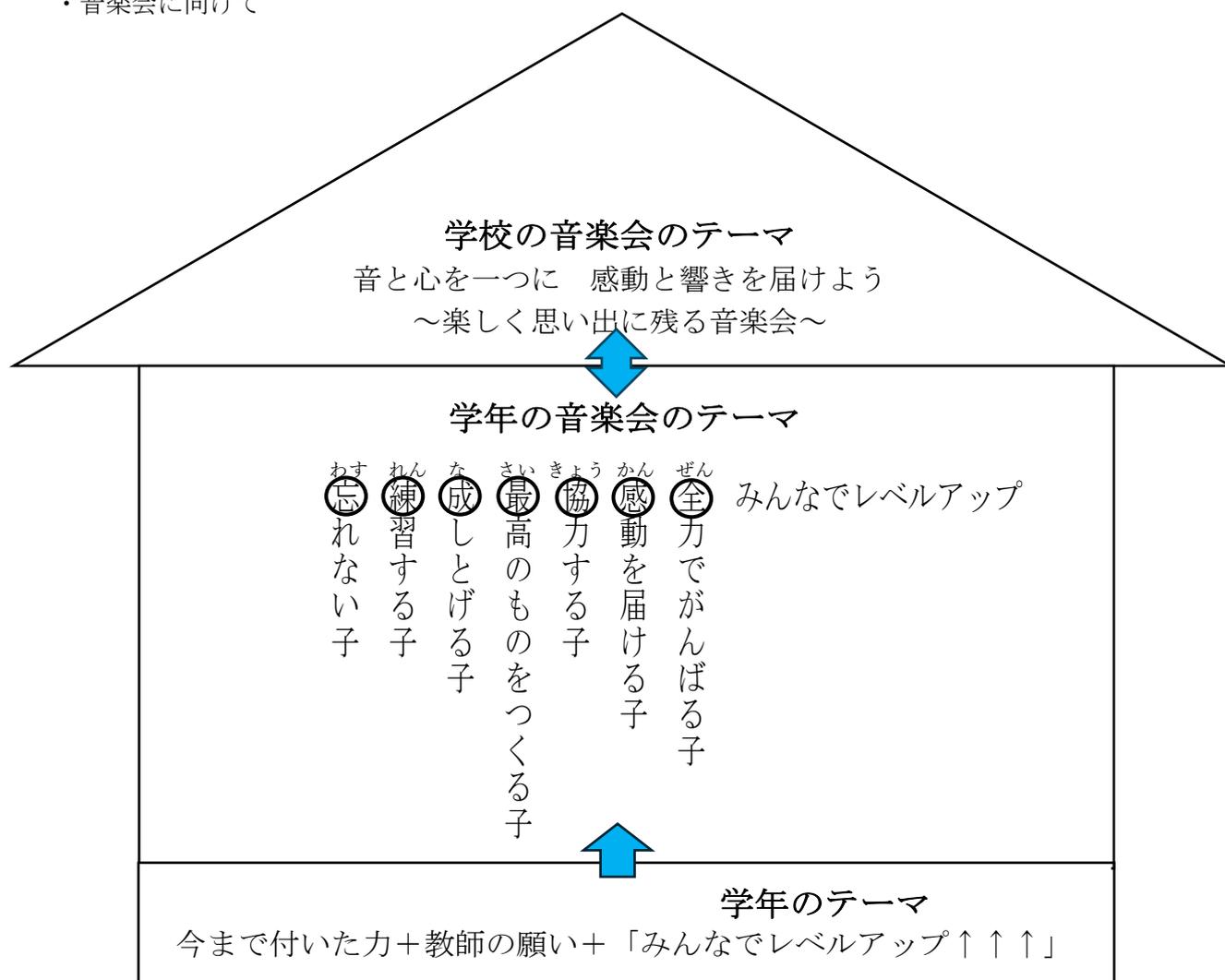
今年度の北原小学校の音楽会のねらい

- ・ 日常の音楽学習の成果を児童全員で発表し合う。
- ・ 音楽会を通して、発表する喜びや楽しさを味わう。
- ・ 友達や、他の学年の演奏を聴いて、互いのよさを認め合う心を育てる。

本校における音楽会は、展覧会と交互に行う、2年に1度の学校行事である。今年度も2年前の音楽会と同様に、各学年が合唱と合奏を行い、児童鑑賞日、保護者鑑賞日が設定されている。6年生は、越天楽今様、秋そして、越後獅子、ずいずいずっころばし、八木節という構成で合奏したり、合唱したりする。

音楽会を文化的行事として行うことには、教育的・社会的に大きな意義がある。まず、音楽を通じて地域や国の伝統文化に触れることで、児童は文化の多様性や価値を理解し、尊重する心を育むことができる。また、演奏や合唱などの活動を通じて、芸術的な感性や表現力が養われ、自己肯定感の向上にもつながる。さらに、音楽会の準備や当日の発表では、仲間と協力しながら一つの目標に向かって努力する経験が得られ、協調性や責任感が育まれる。発表を終えた後の達成感や、仲間と共有する思い出は、学校生活の中でも特に印象深いものとなり、心の成長にも寄与すると考えられる。このように、音楽会は単なる発表の場ではなく文化的な理解を深め、豊かな人間性を育てる特別活動として重要な役割を果たしている。

・音楽会に向けて



学校の音楽会のテーマは、代表委員会が中心となり、自分たちで箱を用意するなどしてキーワードを募集した。全校児童から集まったキーワードをもとに代表委員会で精選し、話し合いによって作成した。

学年の音楽会のテーマは、事前指導を通して、移動教室で付いた力や学校の音楽会テーマ、教師の思い「想像力」「相手意識」「誰かのために行動」「人との関わり」「憧れられる振る舞い」と確認し、キーワードを集め音楽会実行委員で精選し、話し合いによって作成した。また、テーマを受け、自分はこの音楽会で何をどのように頑張っていくのか個人のめあても設定している。

③ 一連の活動の流れ

11月 7日 (金)	音楽会オリエンテーション
11月 20日 (木) ～	係活動 メッセージカード交換活動 1回目
11月 27日 (木)	学年練習 みんなへの励ましや本番に向けての意気込みをメッセージカードに記入 リハーサル
11月 28日 (金)	児童鑑賞日
11月 29日 (土)	保護者鑑賞日
12月 3日 (水)	異学年感想交流
12月 4日 (木)	音楽会事後指導 (3)

・本時の展開

時間	活動	○児童の活動内容	・指導上の留意点	□評価
5分	つかむ	① 自分たちの「なりたい6年生」を確認する。 ② 音楽会での一連の活動を振り返る。 ③ 本時のめあてを知る。	・自分たちの「なりたい6年生」を大画面で映し、本活動中にいつでも確認できるようにする。 ・子供たちの頑張る姿や思いやりをもって活動している様子を視点として示す。 ・写真や動画を見たり、元担任などからの賞賛を伝えたりする。	<input type="checkbox"/> 音楽会で自分たちに付いた力を、これからの生活に生かすことが自分の成長につながると理解している。(知識・技能)【観察】
音楽会で付いた力をこれからの生活に生かそう				
10分	さぐる	④ 音楽会でどんな力が付いたかを出し合う。	・音楽会で自分たちに付いた力を発表し合って全体で共有する。 ・音楽会の学年テーマ「忘練成最協感全」を視点として、身に付いた力を分類して板書することで、自分たちの成長をより実感できるようにする。 ・身に付いた力の場面については意図的に問い返して、共有できるようにする。	<input type="checkbox"/> 音楽会で自分たちに付いた力を、現在及び将来に向けて、生活で取り組むことを考え、具体的な目標や取組を決めている。(思考・判断・表現)【発言・ワークシート】 <input type="checkbox"/> 音楽会を振り返り、現在及び将来に向けて、生活で取り組むことをみんなで励まし合いながら意欲的に取り組もうとしている。(態度)【観察・発言・ワークシート】
20分	見つける	⑤ 身に付いた力をこれからの生活において、どう生かせるかを話し合う。	・これからの自分たちの生活について見通しをもつ。 ・個人、グループ、全体の順で話し合う。 ・友達の考えを参考にしてもよいことを共有する。	
10分	決める	⑥ これからの生活で取り組むことを決め、具体的な目標を書く。 ⑦ 自分の取組を全体で発表する。 ⑧ 教師の助言を聞く。	・これからの児童に対する期待や願いを話す。	



④ 手だての検証・成果

視点①みんなと協力して活動する中で互いを認め、補い合う力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

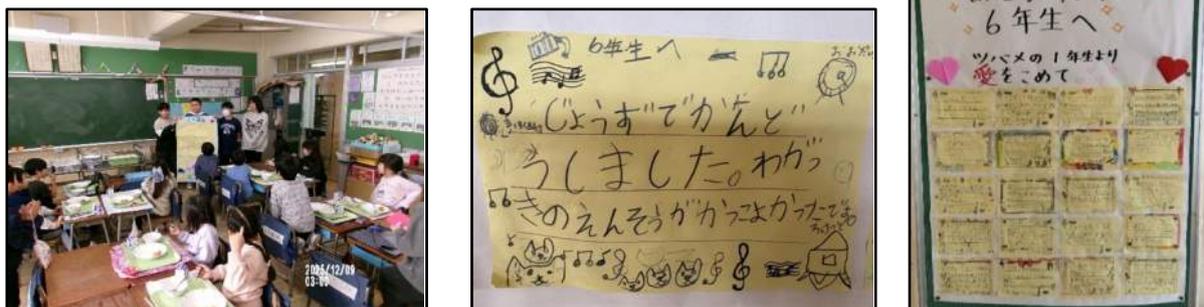
○友達のよさを伝える時間の設定

- ・音楽会に向けて、友達のよさや感謝の気持ちをメッセージカード（おんぷつぶ）に記し、交換した上で学年掲示板に掲示した。教師は「誰かが見ていなくても努力する姿」や「友達と助け合う姿」などを価値付け、これらが「友達のよさ」として捉えられることを示すことで、児童がメッセージ交換の意義を理解できるようにした。その結果、交換を行った児童だけでなく、掲示されたカードを通して他の友達のよさに気付く姿も見られた。



○振り返りの場の工夫（異学年との交流）

- ・音楽会后、きょうだい学級で鑑賞の感想交流を行った。異学年同士が行事を振り返って思いをメッセージとして表す経験を重ねることで、学年を越えたつながりが深まり、よりよい人間関係が築けた。



○実行委員会の設定

- ・実行委員のリーダーシップとフォロアーシップをだけでなく、周りの児童がフォロワーシップを意識できるようにするために、実行委員の経験がある児童に対し、教師が「困ったことや大変だったことをアドバイスしたり助けてあげたりしてね」と意図的に声掛けをすることで、仲間と支え合う関係が広がった。

視点②よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫（社会参画）

○実行委員会の設定

- ・年間を通して一人一つの実行委員を担う体制を整えたことで、児童の参画意識が一層高まった。また、テーマ決定、声掛け、代表の言葉、係の選定、スライド作成など、多様な役割を自分たちで考え主体的に果たしたことで、責任感が生まれ、誰もが自分の力を発揮する姿につながった。



○自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動

- ・児童が自分たちで考えた係を設定したことで、「誰かのためによりよい活動をしよう」という思いをもち、自分たちの役割を果たしながら仲間を支え合う経験を通して、「行事を自分たちの力でつくり上げている」という実感や達成感を得た。

対象	係	活動内容
全校	伝える	音楽会の経験がない1・2年生に音楽会のよさや活動の意味を教える
	ポスター	各学級の発表内容をポスターにして掲示する
	会場	会場の準備の責任者を担う
	飾り	会場を飾る、テーマを飾る
	デザイン	兄弟学級における感想交流の手紙のデザイン、学年掲示板を作成する
家族や教師	感謝	保護者への招待状作成の提案、音楽専科の先生に感謝を伝える
学年	歌詞	八木節の歌詞を考える
	踊り	八木節の踊りを考える
	集会	学年で音楽会後の集会を企画する



飾り係



伝える係



感謝係

○学校行事と関連させた学級活動（1）の実施

- ・実行委員の「最後の音楽会をみんなで盛り上げたい」という思いを受け、学級活動（1）で「音楽会を盛り上げる工夫」について話し合いを行ったことで、児童一人一人の発意・発想が活かされ、学校行事を一人一人の児童が自分ごととして捉えることができた。

○ICTの活用

- ・一人1台学習用端末のアンケート機能を活用し、音楽会での児童の思いや願いを集約・共有することで、「みんなで作り上げている」という意識や意欲を高めることができた。

視点③なりたい自分に向けてへこたれずに行動する力を育てる指導の工夫（自己実現）

○児童の意欲を高める事前指導

- ・事前指導として音楽会オリエンテーションを行い、音楽会の意義やこれまでの行事で培った力、教師のねらいを共有した。児童は行事への見通しをもち、学年のテーマや自分のめあてを決めることができた。

○自分のよさを生かそうとする事後指導

- ・事後指導では、音楽会で身に付いた力の全体共有に加え、今後の生活に生かすめあてについても共有した。

その結果、学校生活のさまざまな場面で、委員会活動やクラブ活動、きょうだい学級などにおいて、誰かに見られていなくても自分から声を掛け、異学年をまとめようとする児童の姿が見られるようになった。また、卒業式に向けては、楽器演奏のオーディション練習や係活動に積極的に取り組む児童が増えた。

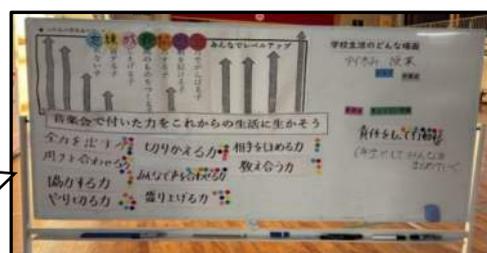
○ICTの活用

- ・事前に一人一台端末のアンケート機能を活用し、「どんな6年生になりたいか」を全員で共有した。キーワードを全員で共有した。また、事後指導では係活動や練習、本番の様子を記録したスライド、元担任の賞賛動画を作成し共有することで、達成感を味わいながら児童は自分や仲間の成長に気づき、その学びを今後の学校生活に生かそうとする姿が見られた。

○振り返りの場の工夫（板書の工夫）

- ・音楽会の学年テーマ「忘練成最協感全みんなでレベルアップ↑↑↑」を視点に、身に付いた力を分類して板書することで視覚化できるようにした。身に付いた力が明確になることで、児童たちはこれからの学校生活にどのように生かすか、次のめあてを立てるときに具体的な姿をイメージすることができた。

学年テーマの7つのめあてに向かって「どんな力が付いたか」シールを使い分類した。



⑤ 講師紹介、指導講評

元全国学校行事研究会会長、八王子学園なかよし幼稚園長 清水弘美先生

【本時】

- ・「つかむ」では動画・写真・音楽を用いて子供の心を本時に向けていた。効果的だが、導入は10分以内に収めることが望ましい。
- ・「見つける」の時間を最も長く確保し、子供が主体的に考え気付きを深められるようにするといいい。
- ・「どんな場面」という言葉を多用していた。「どんな姿で」「どんな活動で」といった、子供が絵として思い浮かべられる具体的なイメージを提示することが重要である。概念ではなく、行動として具体化するといいい。
- ・授業全体を通して、子供を前向きにさせる励ましの言葉かけが的確であった。また、指示を命令形で伝えるのではなく、問いかけによって子供自身が動き出すように促していた点も優れていた。問いによる働きかけは、子供の主体性を引き出すうえで効果的であり、実際に子供たちが自ら考え、行動する姿につながっていた。
- ・めあて（音楽会の学年のテーマの中でのめあて）は本来、少ないほうが子供にとって見通しがもちやすい。しかし、今日の授業では、子供たちが自分たちのがんばりを振り返り、それをめあてへとつなげていた。このような方法も有効であると感じた。
- ・ワークシートの「ファイトカード」という名前がよい。また同じことを繰り返しているのので、ワークシートに書くのがうまくなっている。積み重ねが大切である。

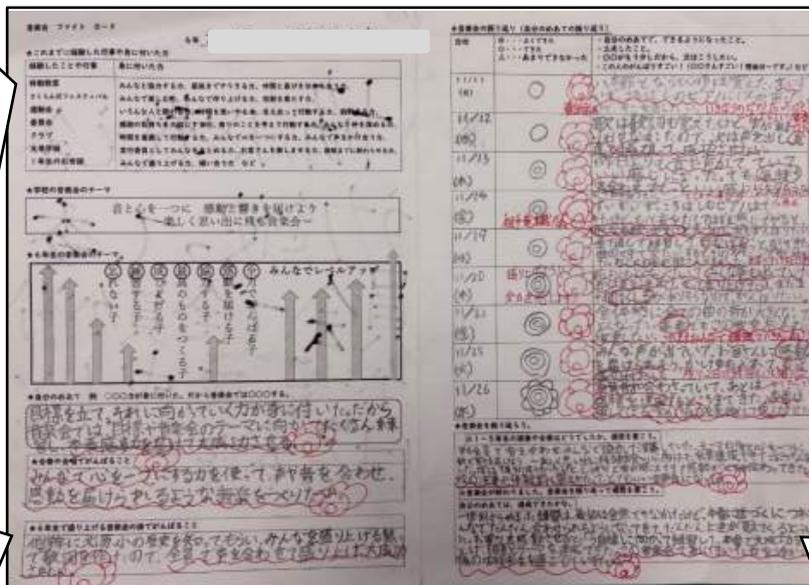
⑥ 資料

事前・事後指導で使用したワークシート

これまでの行事で付いた力を明らかにすることで、自分たちの成長を基にした事前指導の個人めあてを設定しやすくなるようにした。

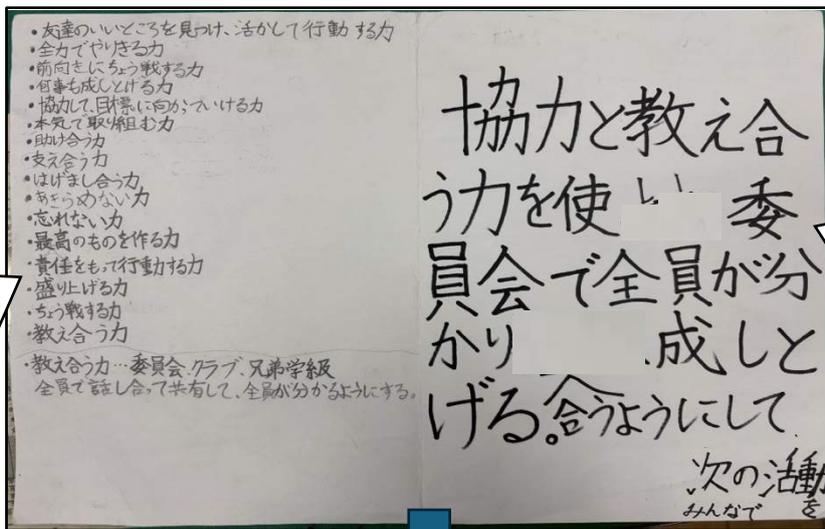
自分のめあてや合奏、合唱など活動ごとのめあてを書けるようにした。

裏面に音楽会を通して付いた力を、事前にも書いたり、事後指導中に書いたりした。



音楽会に向けての練習や係活動の振り返りを毎時間書けるようにした。

自分たちや異学年の演奏・合奏を通して見られた努力や工夫に目を向け、それを踏まえて感想を書けるようにした。



これからの生活で取り組むことを決め、具体的な目標を書いた。

協力と教え合う力を使い、委員会で全員が分かり合うようにして、次の活動をみんなで成し遂げた。

3 成果と課題

(1) 成果

視点1 みんなと協力して活動する中で互いを認め、補い合う力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

- ・実行委員を設定し、年間を通して学年全員が実行委員を経験することで、リーダーシップとフォロワーシップを育成することができ、よりより人間関係の形成につながった。

視点2 よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫（社会参画）

- ・学級や学年の必要に応じて、学級活動（1）ウを実施し、自分たちの思いや願いを実現することで、児童の意欲が高まり、学校行事を自分たちのこととして捉えることができた。

視点3 なりたい自分に向けてへこたれずに行動する力を育てる指導の工夫（自己実現）

- ・事後指導では、児童が達成感を味わいながら自分たちの活動を振り返ることができ、今後の学校生活や次の学校行事へと成長につなげることができた。

(2) 課題

視点2 よりよい集団をつくり上げる力を育てる指導の工夫（社会参画）

- ・学校行事を自分のこととして捉えて話合いに参加できるようにするために、話し合う内容を焦点化し、分かりやすくする必要がある。
- ・事前・事後指導では、「見つける」の時間を十分に取り、自分で考えるだけでなく、仲間と考えを共有する中で様々な考えに触れ、考えを広げたり深めたりすることで、より具体的な「なりたい自分の姿」について追求できるようにする必要がある。

(3) 各活動・学校行事との関連

学校行事の一連の活動の中には、学級や学年として合意形成を図っていくことで、児童の意欲が高まり、学校行事をより自分のこととして捉えることができることが検証された。これまで行ってきた学級活動（3）の時間を活用した学校行事の事前・事後指導だけでなく、必要に応じた学級活動（1）の実施は学校行事のさらなる充実につながる。

学校行事では、児童は役割を担う機会があり、それまでの係活動や当番活動、児童会活動、クラブ活動などで培ってきた力が生かされる場となる。学校行事で高まった責任感や感じた楽しさ・達成感、新たに身に付けた力、異学年への視点等が普段の活動にも生かされていく。

学校行事に向けて各委員会でも取組を行うことで、より児童の発意・発想が生かされ、「みんなでつくり上げる学校行事」へとつながっていく。行事に向けた集会などは全校を巻き込んで学校行事を盛り上げ、そこで高まったリーダーシップとフォロワーシップは、普段の学校生活にも生きていく。

研究に携わった人

部長	小山 雅人	世田谷・代田小	部員	田代 末実子	杉並・南が丘小
副部長	竹田 桃子	杉並・和田小		山崎 航	杉並・上石神井北小
副部長	四本 真美	大田・志茂田小		沖 晃史	杉並・松ノ木小
会計	久原 千恵	練馬・北原小		榎本 誠太	世田谷・塚戸小
授業者	船倉 大輔	清瀬・芝山小		高木 綺美	世田谷・祖師谷小
授業者	中村 正伸	練馬・北原小		上野 純	足立・千寿小
部員	平山 かおり	目黒・駒場小		矢畑 衣身	東大和・第八小
	戸部 陽子	墨田・業平小		猪俣 芽生	西東京・中原小
	松本 明子	北・西浮間小		萩原 初	調布・若葉小
	原田 恵子	北・西浮間小	事業部員	原 千晶	大田・入新井第五小
	檜山 真理子	北・西浮間小	編集部員	伊勢 祐美子	世田谷・若林小
	江川 慶伍	北・西ヶ原小	アドバイザー	斎藤 厚代	元学校行事部部長
	増田 希美	大田・入新井第五小		吉田 有子	清瀬・清瀬第七小
	伊藤 恵	町田・町田第三小		棚田 政治	中野区教育委員会
				田所 貴美子	中野・みなみの小

研究の成果と今後の課題

研究部長 平松 隆行（板橋区立高島第一小学校長）

令和6年度より、新しい研究主題「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」として3年計画で研究をスタートした。今年度はその2年目である。

昨年度の成果と課題を踏まえ、以下の3つを今年度の研究の柱として取り組んできた。

- ①これまでの研究で積み重ねた成果を新しい研究主題の捉え方の視点で整理する。
- ②4つの活動（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）を関連させた指導方法を明らかにする。
- ③一人一台端末などのICT機器の有効な活用方法の提案を行う。

以下、今年度の研究の成果と今後の課題をまとめた。

【成果】

- ① 研究主題を4研究部ごとに、その活動の特質に合わせて、児童の具体的な姿（目指す児童像）として捉え直し、整理した。（都小特活会報117号参照）これによって、各活動の特質が明確になり、それに向けた手だての有効性を研究授業や日頃の実践を通して明らかにすることができた。
- ② 4研究部でそれぞれ2回の研究授業を行ったが、その研究部以外の部員が積極的に参加した。他の活動で培われた力が、自分の研究する活動で生かされていることを知ったり、逆に自分の研究する活動で培った力が他の活動に活かせる可能性に気付いたりできた。
- ③ ICT機器を使うための研究ではなく、特別活動のねらいに迫るための手段として、活用できるものは活用していくという方針のもとで、様々な使い方を共有することができた。

【課題】

- ① 本研究会の役割として、特別活動の指導方法の工夫を深めていくと共に、特別活動のよさを広めるために、分かりやすい汎用性のある手だてを示すことが求められている。学び始めたばかりの方にも、実践を重ねてきた方にも共に学びになる研究成果を示していきたい。
- ② 具体的に、どの活動における手だてが、他のどの活動でも活かせるのかを明らかにしていく。また、4つの活動（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）の充実が、多様な他者と協働し、主体的に取り組む児童を育成する学校風土を醸成していくことも明らかにしたい。
- ③ AIの活用に踏み込んでいきたい。特別活動のねらいとする活動に時間をかけられるようにするためにも、AIを活用して効率化することはこれからの時代の指導に不可欠である。

この研究主題の設定について議論していた頃からわずか2年であるが、社会状況の変化の大きさは、想像を大きく超えていると言えないだろうか。

AIの進化は驚くほど早い。当時は、AIの利用の是非を問う声やAIによる支配を心配する声が挙がっていたが、今や「使うことが当たり前」であり、より有用な使い方に議論は移っている。

国際社会では、独裁的な政治手法のリーダーの登場や武力による他国への侵攻など、民主主義を踏みしめる行動は広がり、止めるどころか非難すら難しい状況にある。

国内では、外国人居住者、外国人観光客（インバウンド）の増加が著しい。労働力不足の解消や、日本経済を支える重要な要素となっている反面、外国人との対立を煽り立てる空気も生まれている。

すでに、不透明で不安定な時代の中で私たちは生きている。すぐそこにある未来を生きる子供たちには、まさに「自ら未来を切り拓く力」の育成が必要であると痛感する。

論点整理で示された「自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手」は、図らずも特別活動が目指す児童像と重なる。多様性の包摂、対立ではなく対話、自分だけではなくみんなの幸せを考えた社会の形成者の育成は、特別活動の枠を超え、日本教育の最重要な課題である。

東京都小学校特別活動研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 この会は、東京都小学校特別活動研究会といい、事務局を会長校に置く。
- 第2条 この会は、東京都23区、市、郡、島しょにおける小学校特別活動研究団体の連合機関とし特別活動の振興を図ることを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的を達成するために、次のことを行う。
- ① 東京都23区、市、郡、島しょ研究会との連絡連携に関すること。
 - ② 特別活動の研究、及びその助成に関すること。
 - ③ 研究物・機関誌の発行に関すること。
 - ④ この会と同じくする研究団体との連絡連携に関すること。
 - ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要なこと。

第2章 役 員

- 第4条 この会は、東京都23区、市、郡、島しょを単位とする研究会・学校及び特別活動に関心をもつ個人をもって組織する。
- 第5条 この会に次の役員をおく。
- ①会長1名、副会長若干名 ②庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長 ③学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の各部長 ④会計若干名 ⑤参与 ⑥相談役
- 第6条 会長・副会長及び会計監査は理事会において選出する。理事は23区、市、郡、島しょから選出する。庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長は会長が委嘱する。また各部長は各活動部の推薦を受けて会長が委嘱する。
- 第7条 会長は、会務を総理し、この会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その会務を代理する。理事は重要事項の審議をする。
- 第8条 役員任期は1年とする。ただし、重任することができる。役員に欠員が生じた場合、補欠役員任期はその残任期間とする。
- 第9条 (1) この会に、顧問をおく。顧問は歴代の会長とし、現職にある間は参与とする。
(2) この会に、相談役をおく。相談役は、会長が役員経験者で再任用校長の中から委任する。

第3章 会 議

- 第10条 この会の会議は、次の通りとする。①総会 ②理事会 ③役員会
- 第11条 総会は会長が招集し、毎年1回開催する。ただし、必要に応じて臨時に開くことができる。総会の議長は会員から選出する。
- 第12条 総会に付議する事項は、次の通りとする。
- ①予算の決議及び決算案の承認 ②会則の変更 ③その他重要な事項
- 第13条 理事会・役員会は会長が招集し、会議の議長は会長が当たる。

第4章 会 計

- 第14条 この会の経費は、都小研連からの配当金とその他の収入で支弁する。
- 第15条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 〈付則〉
1. この会則は、令和3年5月より実施する。(令和3年5月20日一部改正)
 2. この会の運営に関する細則は、必要に応じて定めることができる。

各業務分担

庶務部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の作成と推進 ・顧問、参与、相談役、役員、理事、部員名簿の作成 ・役員会、理事会、総会、研究発表会等の案内状の作成と発送 ・上記諸会合の進行と運営
会計部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間予算計画の立案と予算執行 ・都助成金申請及び決算報告書提出 ・帳簿管理 ・決算事務（会計監査との連絡）
研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・研究基調提案の策定と提案（研究主題の基本的な方向性について） ・年間研究計画の立案と推進 ・4活動部による研究推進 <ul style="list-style-type: none"> （1）学級活動部 （2）児童会活動部 （3）クラブ活動部 （4）学校行事部 ・4活動部との連絡、調整（研究部会・拡大研究部会の開催） ・関係研究団体との連携、協力の窓口 ・夏季集中研修会の研究推進業務 ・研究紀要の作成 ・研究紀要の発送業務（発送先の確認・発送名簿の作成含む） ・研究出版等に関わる内容の業務 ・各地区の研究活動の把握
事業部	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの運営・管理 ・ICTの推進 ・一日・宿泊研修会等の立案と運営 ・各種懇談会、懇談会の企画と運営（総会・研究発表後の懇談会等） ・研究出版物の頒布に関する業務
編集部	<ul style="list-style-type: none"> ・会報の編集、発送業務 ・総会、研究発表会の記録、編集 ・一日・宿泊研修会の記録、編集

※周年時は、「周年担当部」を設置する。

令和7年度 東京都小学校特別活動研究会
顧問・役員・本部幹事名簿

1 顧 問 (歴代会長)

	代	氏 名
顧問	1	高杉 新作
〃	2	斉藤 敏夫
〃	3	保科 明敏
〃	4	山田 明
〃	5	白井 健二
〃	6	小谷 威
〃	7	久納 六郎
〃	8	小島 明
〃	9	中田 英義
〃	10	広瀬 英二
〃	11	外村 近
〃	12	小河 一久
〃	13	古橋 宏
〃	14	岩園 敏明
〃	15	佐藤 弘
〃	16	小川 國壽
〃	17	小野 眞澄
〃	18	松野 彰夫
〃	19	小池 宏
〃	20	沖山 重次
〃	21	大谷 徹夫
〃	22	星野 隆治
〃	23	米本 滋雄

	代	氏 名
顧問	24	小川 進一
〃	25	高松 和彦
〃	26	中川 健二
〃	27	森山 裕夫
〃	28	川嶋 武司
〃	29	小野 莞一
〃	30	藤縄 清
〃	31	鹿海 治
〃	32	井上 和芳
〃	33	棚田 政治
〃	34	藤本 仁
〃	35	長田 信彦
〃	36	若林 彰
〃	37	関 幸治
〃	38	上野 研二
〃	39	石井 友行
〃	40	山口 祐一
〃	41	清水 晶子
〃	42	赤羽根 智
〃	44	木田 明男
〃	47	石田 孝士

2 参 与 (歴代会長)

代	氏 名	地区・校名	学校電話	F a x 番号
43	小島 みつる	北・西浮間小	03-5915-0133	03-3967-1135
45	岡野 範嗣	大田・入新井第五小	03-3762-6438	03-3762-8313
46	秋山 美栄子	目黒・駒場小	03-3491-0332	03-5496-4859
48	出町 桜一郎	国分寺・第一小	042-322-0041	042-322-2049

3 役員 ◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

役職名	氏名	地区・校名	学校電話	Fax番号
会長	◎氣田 眞由美	練馬・豊玉小	03-3993-4286	03-5984-0227
副会長	◎田村 亜紀子	練馬・大泉南小	03-3922-1371	03-5387-2191
〃	◎吉田 有子	清瀬・清瀬第七小	042-493-4317	042-495-6037
庶務部長	◎神谷 なおみ	江東・第二砂町小	03-3640-5322	03-5690-4027
庶務副部長	◎角田 恒一	中野・中野本郷小	03-3381-7255	03-3381-7256
〃	○山内 大輔	江東・第三砂町小	03-3646-4471	03-5690-4020
〃	○本多 泰介	墨田・墨田中	03-3625-0351	03-3625-0424
会計部長	◎吉田 有子	清瀬・清瀬第七小	042-493-4317	042-495-6037
会計副部長	○田所 貴美子	中野・みなみの小	03-3381-7250	03-3381-7259
会計(学級活動)	◇高橋 美衣	文京・誠之小	03-3811-7171	03-5689-4551
会計(児童会)	□佐藤 あかね	世田谷・芦花小	03-3303-3301	03-3303-6431
〃	清水 斐	江東・豊洲小	03-3531-7788	03-3532-5644
会計(クラブ)	山下 映実	江東・浅間竪川小	03-3684-4311	03-3682-0171
会計(学校行事)	□久原 千恵	練馬・北原小	03-3904-5172	03-3997-1965
研究部長	◎平松 隆行	板橋・高島第一小	03-3939-2091	03-5998-4103
研究副部長	◎米持 淳一	小平・小平第九小	042-341-4340	042-341-3606
〃	○藤田 寛樹	新宿・富久小	03-3358-3763	03-3358-3756
〃	○佐藤 芳晴	足立・千寿第八小	03-3888-7826	03-3888-7827
〃	◆大蔵 久美	小平・小平第三小	042-321-0189	042-321-0164
〃	◆宮内 有加	中央・有馬小	03-3666-5702	03-3668-2364
〃	□大野 和代	足立・千寿第八小	03-3888-7826	03-3888-7827
学級活動部長	◇二本木 基	町田・大蔵小	042-734-2321	042-735-2693
児童会活動部長	◆渋井 洋子	東久留米・神宝小	042-474-4108	042-472-7990
クラブ活動部長	□山口 哲朗	港・筈小	03-3404-1530	03-3408-4079
学校行事部長	□小山 雅人	世田谷・代田小	03-3323-3761	03-3323-9343
事業部長	◎酒井 敬子	大田・おなづか小	03-3753-2615	03-3753-2616
事業副部長	◎森嶋 正行	府中・府中第五小	042-361-9005	042-334-0868
〃	◎佐藤 千晴	西東京・栄小	042-423-0276	042-424-5770
〃	○猪岡 仁	世田谷・桜丘小	03-3429-1375	03-3429-1339
〃	◇原 千晶	大田・入新井第五小	03-3762-6438	03-3762-8313
編集部長	◎関 拓也	稲城・若葉台小	042-331-7900	042-331-7191
編集副部長	○星野 哲朗	小金井・小金井一中	042-383-1161	042-382-0401
〃	◇伊勢 祐美子	世田谷・若林小	03-3413-0654	03-3413-0770
〃	□増田 希美	大田・入新井第五小	03-3762-6438	03-3762-8313
会計監査	◎出町 桜一郎	国分寺・第一小	042-322-0041	042-322-2049

令和7年度 理事・副理事名簿

No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号	No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号
1	千代田	番町	◎美越 英宣	03-3236-3721	24	八王子	東浅川	岡田 悠希	042-665-1583
		千代田	◇寺田 美弥	03-3256-6768					
2	中央	月島第三	◎鈴木 潤	03-3531-7225	25	立川	西砂	◎丸山 秀武	042-531-2082
		月島第三	◇奥山 優子	03-3531-7225					
3	港	麻布	◎橋本 勇一	03-3583-0014	26	武蔵野	千川	◎鈴木 恒雄	0422-51-3695
							第二	○藤間 研吾	0422-51-4478
4	新宿	天神	◎新井 正一	03-3358-3769	27	三鷹	第三	◎高寄 浩三	0422-43-2128
		戸塚第三	◆菊池 友也	03-3227-2101					
5	文京	駕籠町	◎宮本 達也	03-3944-1471	28	青梅	河辺	○岡田 信一郎	0428-23-1245
		誠之	◇高橋 美衣	03-3811-7191			第四	□川崎 真琴	0428-22-7268
6	台東	金曾木	◎大木 毅	03-3876-3701	29	府中	府中第五	◎森嶋 正行	042-361-9005
							府中第十	○村井 雄一	042-363-9130
7	墨田	柳島	◎近藤幸弘	03-3625-0325	30	昭島	つつじが丘	◎大友 基裕	042-546-1170
		業平	◇戸部 陽子	03-3625-0331			光華	○佐藤真由美	042-541-0313
8	江東	第二砂町	◎神谷なおみ	03-3640-5322	31	調布	北ノ台	◎野口 直也	042-485-1291
		第三砂町	○山内 大輔	03-3646-4471					
9	品川	第四日野	◎萩原 忠幸	03-3491-1281	32	町田	大蔵	○榎本 雄太	042-734-2321
							七国山	◆坂本 理恵	042-791-2171
10	目黒	駒場	◎秋山美栄子	03-3467-4461	33	小金井	小金井四	◎諏訪 伊都子	042-383-1144
		駒場	□梶井 綾	03-3467-4461			小金井一	○石坂 武士	042-383-1141
11	大田	入新井第五	◎岡野 範嗣	03-3762-6438	34	小平	小平第九	◎米持 淳一	042-341-4340
		おなづか	◎酒井 敬子	03-3753-2615			小平第三	◆大蔵 久美	042-321-0189
12	世田谷	上北沢	◎三浦 健仁	03-3302-0485	35	日野	日野第八	◎船山 徹	042-591-2411
		給田	◎濱田 弘美	03-3308-5671					
13	渋谷	千駄谷	◎山中 将一	03-3401-1707	36	東村山	南台	○小熊 隆一	042-391-8117
							化成	木村 菜都美	042-391-8111
14	中野	中野本郷	◎角田 恒一	03-3299-1058	37	国分寺	第一	◎出町桜一郎	042-322-0041
		みなみの	○田所 貴美子	03-3381-7250					
15	杉並	高井戸第四	◎本橋 忠旗	03-3333-7828	38	国立	国立第八	◎大山 章博	042-576-8791
		荻窪	○田中 あかね	03-3333-6628					
16	豊島	要	◎渡部貴美子	03-3956-8151	39	狛江	緑野	◎亀田 親子	03-3489-5418
17	北	西浮間	◎小島みつる	03-5915-0133	40	東大和	第六	◎飯塚 庫健	042-562-1158
							第六	○藤井 嘉也	042-562-1158
18	荒川	峡田	◎松本 典之	03-3801-0708	41	清瀬	清瀬第七	◎吉田 有子	042-493-4317
		ひぐらし	◎津田 利枝	03-3801-7280			清瀬第三	◆棚橋 正太	042-493-4313
19	板橋	高島第一	◎平松 隆行	03-3939-2091	42	東久留米	第六	◎西浦 幸三	042-471-5370
		板橋第八	◎今田 喜紀	03-3963-4181			神宝	◆渋谷 洋子	042-474-4108
20	練馬	大泉南	◎田村亜紀子	03-3922-1160	43	武蔵村山	第十	○水間 信護	042-560-1710
		南が丘	○田代末実子	03-3904-1282			雷塚	田中 佑樹	042-561-1775
21	足立	大谷田	◎菅原 秀道	03-3606-5864	44	多摩	貝取	◎中村 真紀絵	042-376-0234
		東伊興	濱田 亮	03-3897-5341			西落合	○森田 真好	042-374-0574
22	葛飾	奥戸	◎吉塚由紀子	03-3692-5911	45	稲城	若葉台	◎関 拓也	042-331-7900
		住吉	◆千葉 陽子	03-3607-2349					
23	江戸川	平井南	◎岡田 盛雄	03-6657-1255	46	羽村	羽村西	□五十嵐 優子	042-554-2034
		南葛西第三	◎佐久間 貴広	03-3878-3357					
※ 47は、あきる野市のみです。 (福生市・日の出・瑞穂・檜原は理事不在のため別送)					47	あきる野	前田	□石川 萌香	042-559-7611
					48	西東京	栄	◎佐藤 千晴	042-423-0276
							住吉	◎三澤 亘潤	042-423-4187
49	島嶼部	大島つつじ	□串崎 広和	04992-4-0184					

◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

あ と が き

副会長 吉田 有子
(清瀬市立清瀬第七小学校長)

学習指導要領の改訂に向け、令和7年9月に中教審から「論点整理(素案)」が出されました。「次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」として示されたものが「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を『みんな』で育てる」です。これまで特別活動で大切にしてきた「主体性」「多様性」「協働」「なりたい自分」「合意形成」「意思決定」の力を育成するための実践は、まさにこの「基本的な考え方」に近づけるために欠かせないものと言えます。「予測困難な時代」と言われる今、様々な課題を前にしたとき、「主体的に解決しようとする意欲」や「互いの良さを発揮しながら課題を解決していく知恵」は、生きていくために必要不可欠です。これから、特別活動の役割はさらに大きくなっていくでしょう。

昨年度から都小特活では、「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」を研究主題に取り組んでいます。今年度はこの研究2年目として、昨年度の研究を基盤として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点をもとに、学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の4つの部が、研究の視点と手だてを模索し、具体的に実践を積み重ねながら研究を深めてまいりました。また、今年度は、新たな挑戦として「それぞれの部の研究を関連付けること」と「ICTの活用」に取り組みました。次の学習指導要領における特別活動の役割を考えたとき、今年度の都小特活の研究が、都内各小学校において、特別活動の意義の理解や実践、そして、子供たちの生きる力の育成につながる手がかりとなれば幸いです。多くの教員が特別活動に関心をもち、創意工夫のある活動がどの学級でも展開されることを願っています。

終わりに、本研究をすすめるにあたりご支援・ご協力を賜りました東京都教育委員会、各地区の教育委員会及び理事の皆様、研究の場を提供いただきました各校の校長先生、教職員の皆様方に感謝を申し上げます。また、文部科学省初等中等教育局教科調査官 和久井 伸彦先生をはじめ、ご指導・ご助言いただきました関係の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

東京都小学校特別活動研究会 研究紀要第62号
「自ら未来を切り拓く児童を育成する特別活動」

印刷 令和8年2月20日

発行 令和8年2月20日

編集 東京都小学校特別活動研究会

発行者 会長 氣田 眞由美

練馬区立豊玉小学校校長

印刷所 (有)二葉騰社

電話 042-479-4360

